



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

JPN TAXI



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	15
検索のしかた	16
イラスト目次	18

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	28
安全なドライブのために	30
シートベルト	32
SRS エアバッグ	37
排気ガスに対する注意	45
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	46
チャイルドシート	47
1-3. コネクティッドサービス	
T-Connect	
エントリー (22)	65
1-4. LPG ハイブリッドシステム	
LPG ハイブリッドシステムの	
特徴	86
LPG ハイブリッドシステムの	
注意	90
1-5. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	95

2 メーターの見方

2. メーターの見方	
警告灯／表示灯	98
計器類	102
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	105

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	116
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	118
スライドドア	121
バックドア	132
3-3. シートの調整	
フロントシート	136
ヘッドレスト	138
スロープユニット	141
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	171
インナーミラー	173
アウターミラー	174
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	176

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	180
荷物を積むときの注意	189

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	190
EV ドライブモード	195
トランスミッション	197
方向指示レバー	200
パーキングブレーキ	201

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	202
AHB（オートマチック ハイビーム）	207
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	211
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	214

4-4. 燃料補給のしかた

燃料補給口の開け方	216
-----------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....	222
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	232
LDA（レーンディパーチャー アラート）	245
PDA（プロアクティブ ドライビングアシスト）	251
RSA（ロードサイン アシスト）	258
発進遅れ告知機能	263
BSM（ブラインド スポットモニター）	265
クリアランスソナー	272
PKSB（パーキングサポート ブレーキ）	281
パーキングサポートブレーキ （前後方静止物）	287
運転を補助する装置	290

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	297
寒冷時の運転	299

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン	304
シートヒーター	313

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	315
・日報灯	316
・ルームランプ	316
・リヤ読書灯	316

5-3. 収納装備

収納装備一覧	318
・車検証固定バンド	319
・小物入れ	320
・ボトルホルダー	320
ラゲージルーム内装備	321

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	325
・サンバイザー	325
・バニティミラー	325
・アクセサリースOCKET	326
・アクセサリー コンセント	327
・充電用 USB 端子	335
・アシストグリップ／ シートバックアシスト ボード	337
・時計	339
・料金トレイ	339
サービスコネクター	340

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	344
内装の手入れ	348

6-2. 点検・整備項目

定期点検整備	352
--------------	-----

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	354
ガレージジャッキ	357
ウォッシャー液の補充	358
タイヤについて	359
タイヤ空気圧について	362
エアコンフィルターの清掃 ...	364
駆動用電池冷却用吸入口の 清掃	366
キーの電池交換	370
ヒューズの点検・交換	373
電球（バルブ）の交換	376

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	388
非常点滅灯 (ハザードランプ)	389
発炎筒	390
車両を緊急停止するには	392
水没・冠水したときは	393
車中泊が必要なときは	395

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	396
警告灯がついたときは	402
警告メッセージが 表示されたときは	407
パンクしたときは (タイヤパンク応急 修理キット装着車)	416
パンクしたときは (応急用タイヤ装着車)	428
LPG ハイブリッドシステムが 始動できないときは	439
補機バッテリーが あがったときは	440
オーバーヒートしたときは	447
スタックしたときは	452

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・オイル量 など)	456
--------------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	461
--------------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	469
------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	472
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	475
アルファベット順さくいん	476
五十音順さくいん	478

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

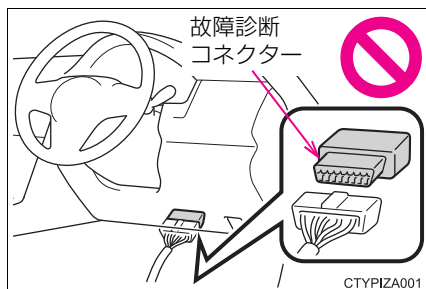
- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 12 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ ※¹

※¹ グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）※²

※² 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車はToyota Safety Senseにより車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- LPG ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

コンピューターに記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

 知識

車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- LPG ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

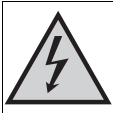
QR コードについて

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

本書の見方



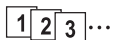
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

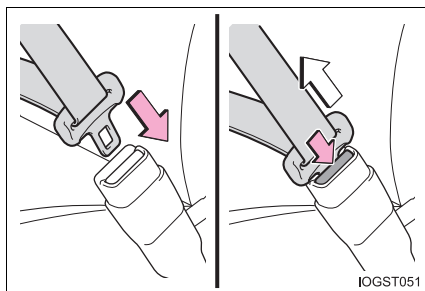
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

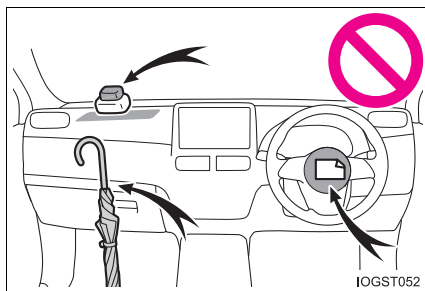
➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



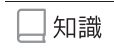
IOGST051

➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

❌ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



IOGST052



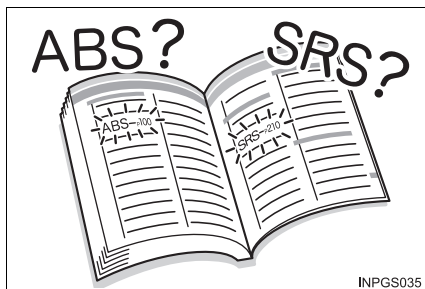
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

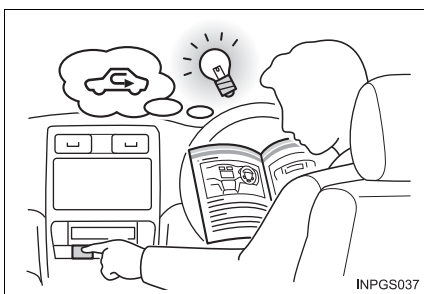
■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん478
- ・ アルファベット順
さくいん476



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次18



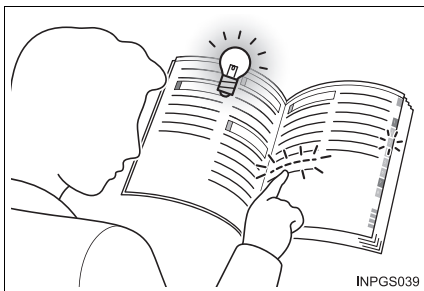
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)472
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)475



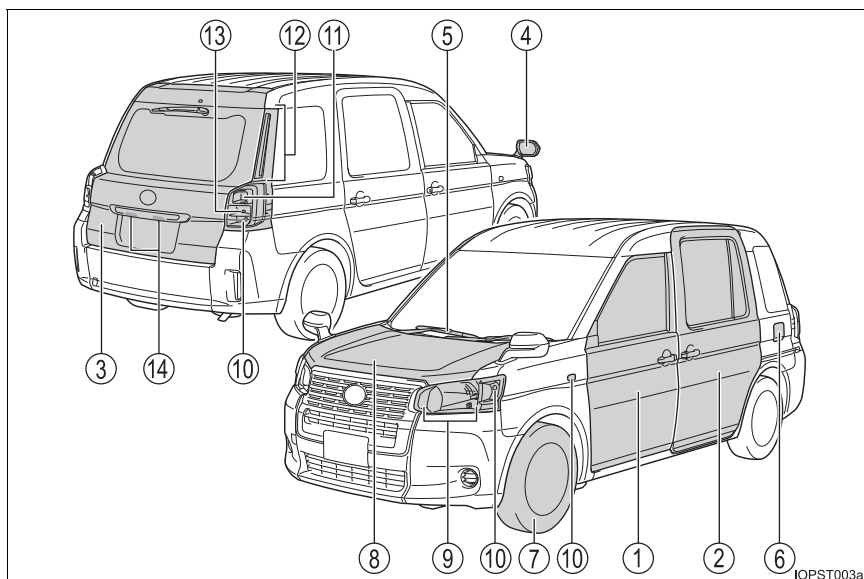
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



ランプの形状は、グレードなどで異なります。(→P. 376)

- ① ドアP. 118
 - 施錠／解錠P. 118, 119
 - ドアガラスの開閉P. 176
 - 警告メッセージP. 120
- ② スライドドアP. 121
 - 施錠／解錠P. 121
 - ドアガラスの開閉P. 176
 - 車内から開けるP. 122
 - 車外から開けるP. 122
 - 警告メッセージP. 120
- ③ バックドアP. 132
 - 施錠／解錠P. 132
 - 車外から開けるP. 132
 - 警告メッセージP. 120

- ④ アウターミラー.....P. 174
 鏡面の角度調整.....P. 174
 曇りを取る（ミラーヒーター）★.....P. 306
- ⑤ ワイパー.....P. 211, 214
 冬季の注意.....P. 300
 凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★.....P. 306
- ⑥ 燃料補給口.....P. 216
 補給（充てん）方法.....P. 217
 燃料の種類・燃料タンク容量.....P. 456
- ⑦ タイヤ.....P. 359
 サイズ・空気圧.....P. 459
 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 299
 点検・ローテーション.....P. 359
 パンク時の対処.....P. 416, 428
- ⑧ ボンネット.....P. 354
 開け方.....P. 354
 エンジンオイル.....P. 456
 オーバーヒート時の対処.....P. 447

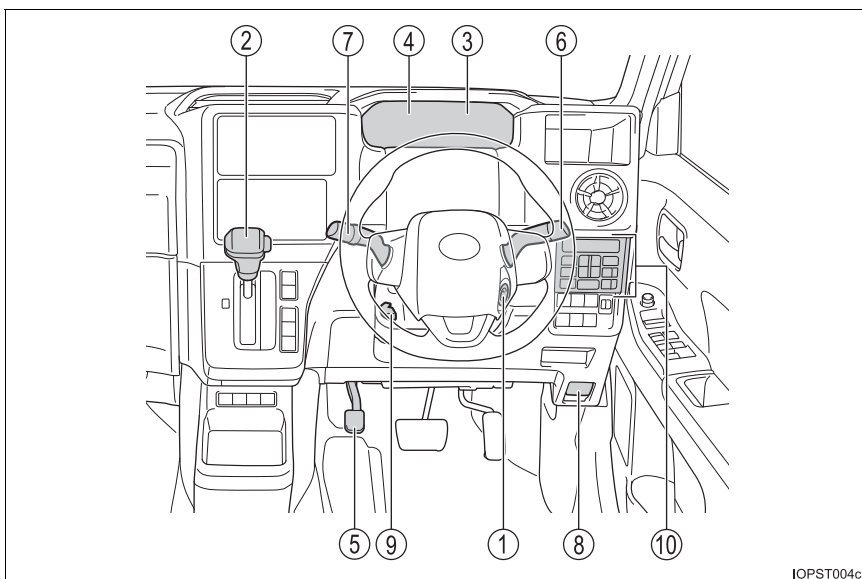
走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 376, ワット数：P. 460）

- ⑨ ヘッドランプ・車幅灯 LED デイライト★.....P. 202
- ⑩ 方向指示灯.....P. 200
- ⑪ 尾灯・制動灯.....P. 202
- ⑫ 尾灯★.....P. 202
- ⑬ 後退灯
 シフトポジションを R にする.....P. 197
- ⑭ 番号灯.....P. 202

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



IOPST004c

① パワースイッチ.....P. 190

- LPG ハイブリッドシステムの始動・位置の切りかえ.....P. 190, 191
- LPG ハイブリッドシステムの緊急停止.....P. 392
- LPG ハイブリッドシステムが始動できないときの対処.....P. 439
- 警告メッセージ.....P. 407

② シフトレバー.....P. 197

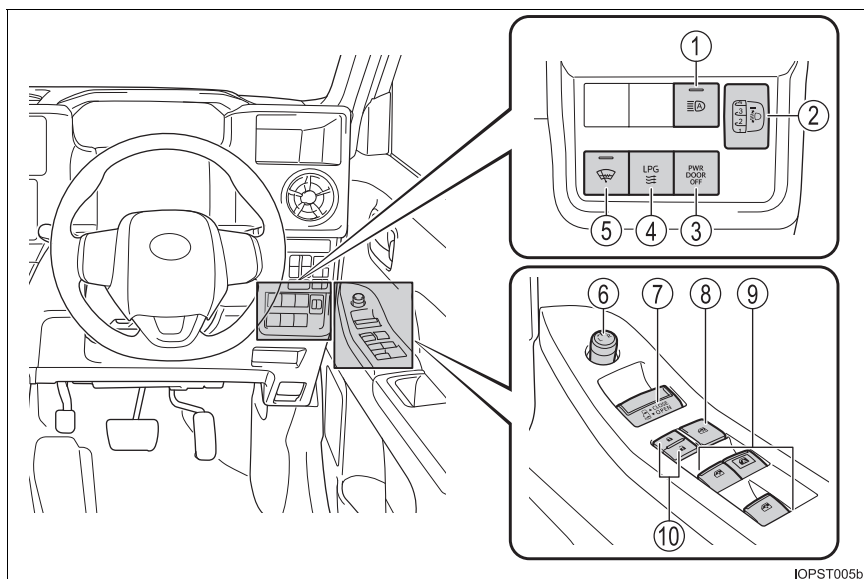
- シフトポジションの切りかえ.....P. 197
- けん引時の注意.....P. 396
- シフトレバーが動かないときの対処.....P. 198

③ メーター.....P. 102

- 見方・明るさの調整.....P. 102, 111
- 警告灯／表示灯.....P. 98
- 警告灯点灯時の対処.....P. 402

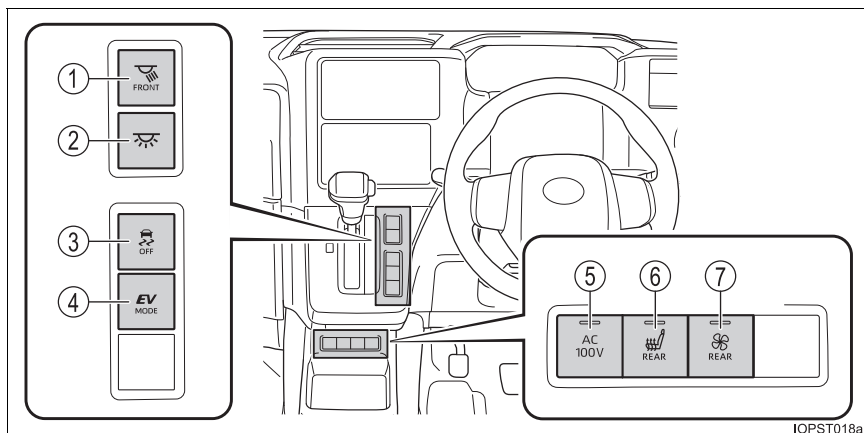
- ④ マルチインフォメーションディスプレイP. 105
 - 表示内容P. 105
 - エネルギーモニターP. 110
 - 警告メッセージ表示時の対処P. 407
- ⑤ パーキングブレーキP. 201
 - かける・解除するP. 201
 - 冬季の注意P. 300
 - 警告ブザー・警告メッセージP. 402, 407
- ⑥ 方向指示レバーP. 200
 - ランプスイッチP. 202
 - ヘッドランプ・車幅灯・尾灯P. 202
- ⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ（フロント）P. 211
 - ワイパー&ウォッシャースイッチ（リヤ）P. 214
 - 使い方P. 211, 214
 - ウォッシャー液の補充P. 358
- ⑧ ボンネット解除レバーP. 354
- ⑨ ハンドル位置調整レバーP. 171
- ⑩ オートエアコンP. 304
 - 操作方法P. 304
 - リヤウインドウの曇り取り
（リヤウインドウデフォグガー）P. 306

■ スイッチ類



IOPST005b

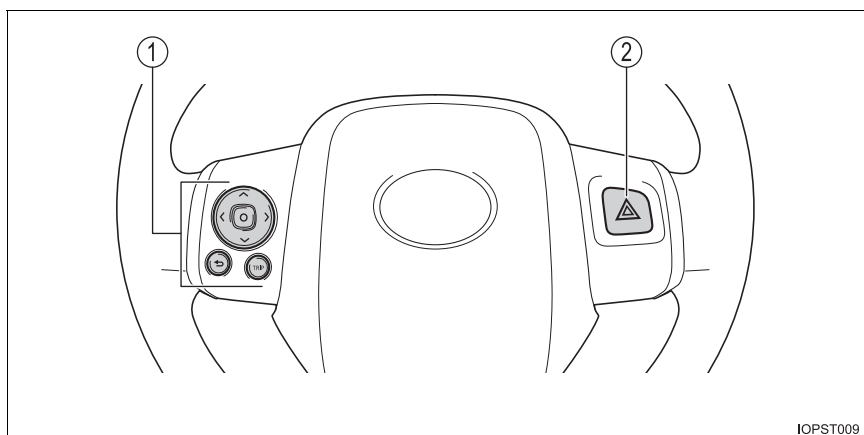
- | | |
|---------------------------|--------|
| ① オートマチックハイビームスイッチ..... | P. 207 |
| ② 手動光軸調整ダイヤル..... | P. 204 |
| ③ パワースライドドアメインスイッチ..... | P. 121 |
| ④ LPG 燃料冷却スイッチ..... | P. 219 |
| ⑤ ウインドシールドデアイサースイッチ★..... | P. 306 |
| ⑥ アウターミラースイッチ..... | P. 174 |
| ⑦ パワースライドドアスイッチ..... | P. 122 |
| ⑧ ウインドウロックスイッチ..... | P. 176 |
| ⑨ パワーウインドウスイッチ..... | P. 176 |
| ⑩ ドアロックスイッチ..... | P. 119 |



IOPST018a

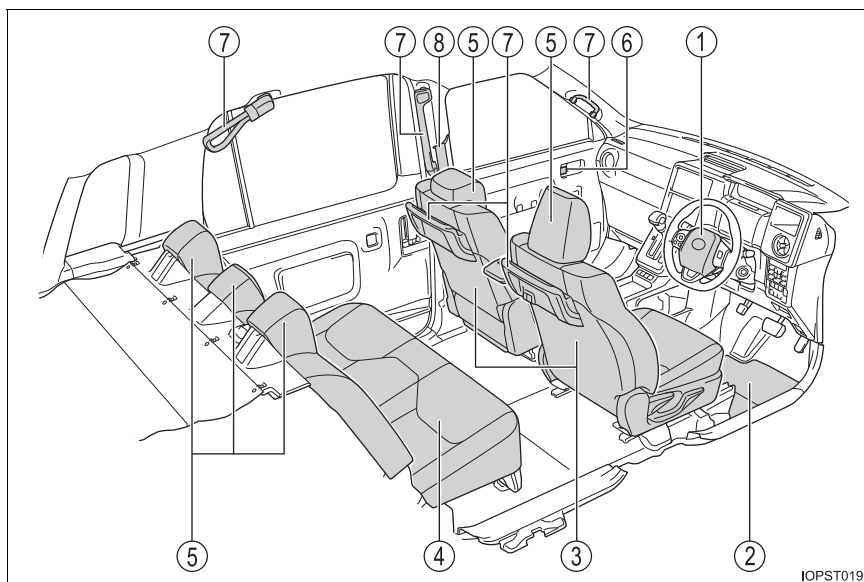
- ① 日報灯スイッチP. 316
- ② ルームランプスイッチP. 316
- ③ VSC OFF スイッチP. 291
- ④ EV ドライブモードスイッチP. 195
- ⑤ AC100V スイッチ★P. 327
- ⑥ リヤシートヒーターメインスイッチ★P. 313
- ⑦ 天井サーキュレーターメインスイッチ★P. 308

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



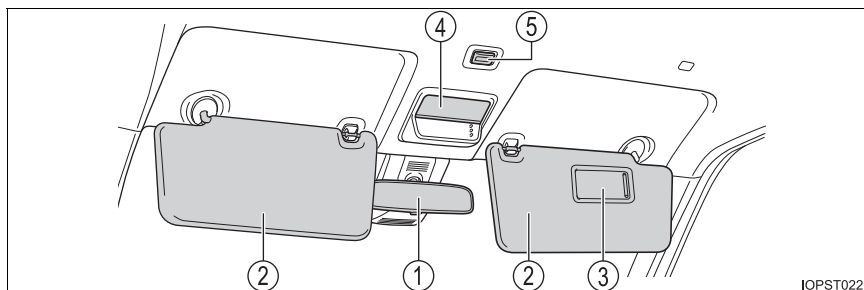
- ① メーター操作スイッチ.....P. 106
- ② 非常点滅灯スイッチP. 389

■ 室内



IOPST019

- ① SRS エアバッグP. 37
- ② フロアマットP. 28
- ③ フロントシート.....P. 136
- ④ リヤシートP. 150
- ⑤ ヘッドレストP. 138
- ⑥ ロックレバーP. 119
- ⑦ アシストグリップ／シートバックアシストボードP. 337
- ⑧ シートベルトP. 32



- ① インナーミラーP. 173
- ② サンバイザー※P. 325
- ③ バニティミラーP. 325
- ④ 日報灯.....P. 316
- ⑤ ヘルプネットボタンP. 70

※： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 50)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	28
安全なドライブのために	30
シートベルト.....	32
SRS エアバッグ.....	37
排気ガスに対する注意	45
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	46
チャイルドシート	47
1-3. コネクティッドサービス	
T-Connect	
エントリー (22)	65
1-4. LPG ハイブリッドシステム	
LPG ハイブリッドシステムの	
特徴	86
LPG ハイブリッドシステムの	
注意	90
1-5. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	95

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

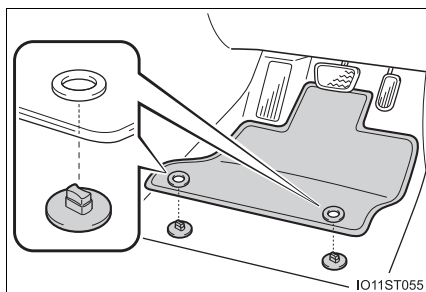
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

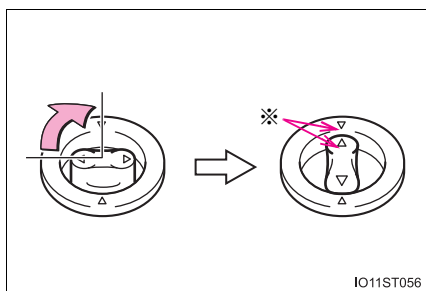
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

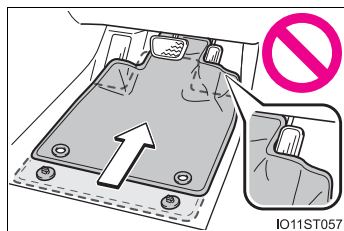
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- LPG ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する



スロープユニット

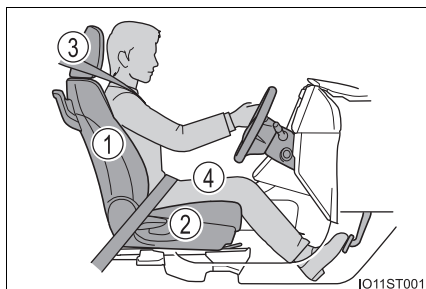
車いす、または人を乗せた車いすを車内に乗せるときは、スロープを使用してください。（→ P. 141）

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 136）
- ② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 136）



- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 138）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 32）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 32）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 47）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・アウターミラーを正しく調整してください。（→ P. 173, 174）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

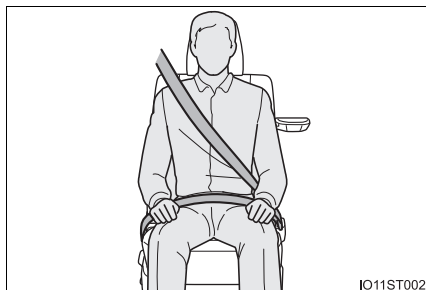
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

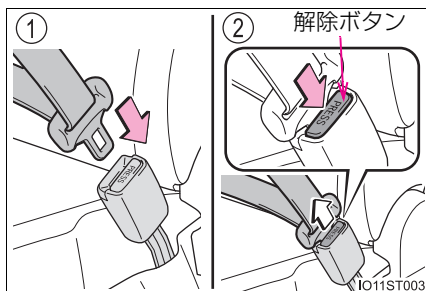
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



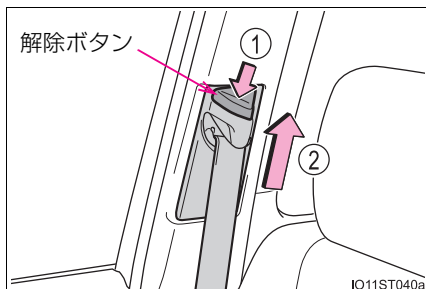
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



シートベルトの高さ調節（運転席）

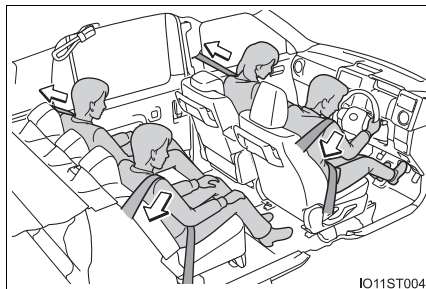
- ① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- ② アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

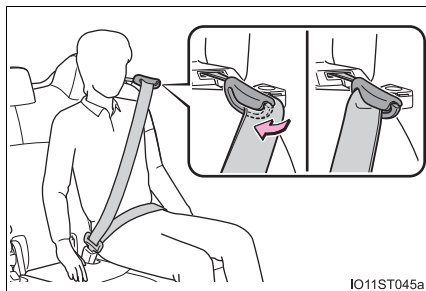
前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



シートベルトリーチャー（リヤ外側席）

リヤ外側席のシートには、シートベルトを引き出しやすくするためにシートベルトリーチャーが付いています。シートベルトを使用するときはシートベルトリーチャーに通してください。

シートベルトがシートベルトリーチャーからはずれているときは、戻してご使用ください。



知識

■シートベルトロックの解除方法

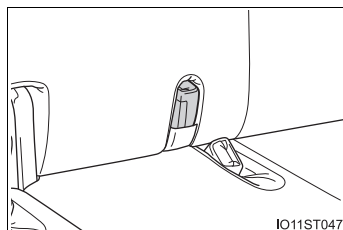
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 47）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 32）

- リヤ中央席のシートベルトを使用したあとは
バックルを格納してください。



- シートベルトプリテンショナーについて（フロント席・リヤ外側席）

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

- 予防連携機能について

PCS（プリクラッシュセーフティ）によって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

- シートベルトリーチャーについて（リヤ外側席）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、シートベルトリーチャーも再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

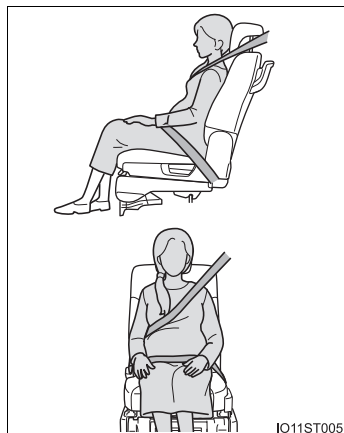
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 32)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→ P. 61

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて（フロント席・リヤ外側席）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

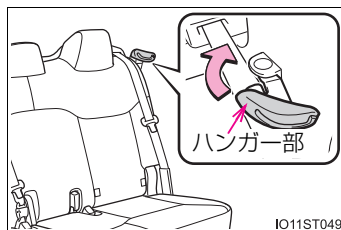
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

■シートベルトリーチャーの破損を防ぐために

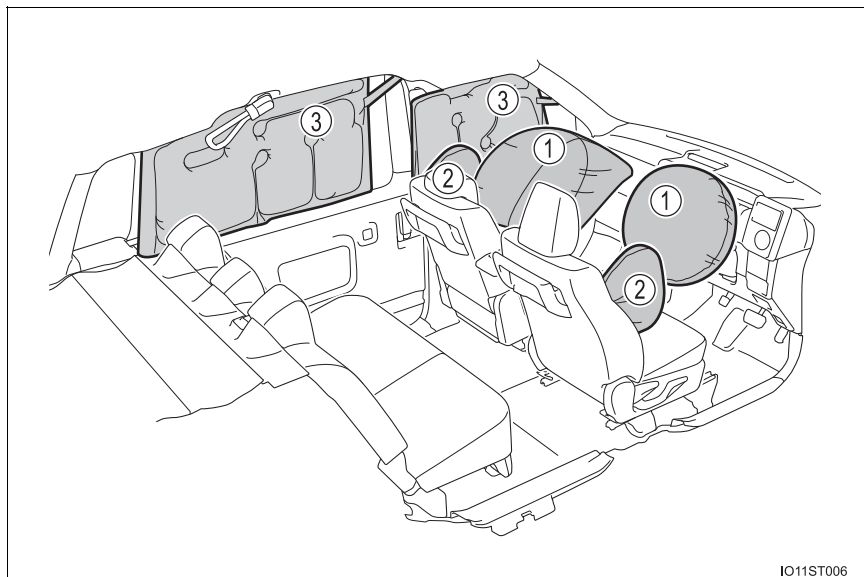
- シートベルトリーチャーに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。
- シートカバーを脱着するときにシートベルトリーチャーと干渉する場合があります。シートベルトをシートベルトリーチャーからはずし、ハンガー部を車両後方に回転させて固定してから作業を行ってください。



IO11ST049

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



IO11ST006

- ① フロント SRS エアバッグ (運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ)
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和
- ② SRS サイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

警告

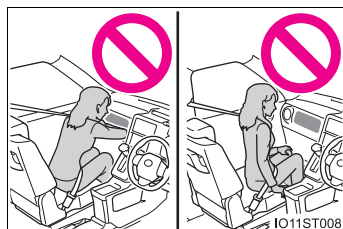
■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

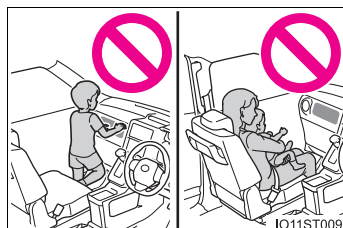
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 47)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



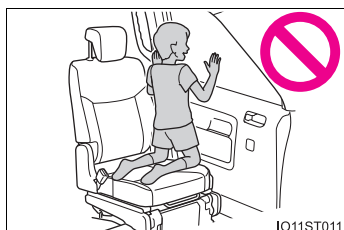
警告

■ SRS エアバッグについて

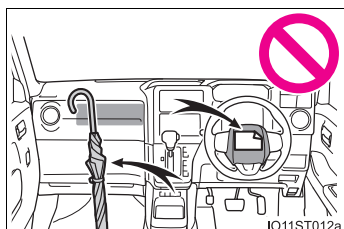
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



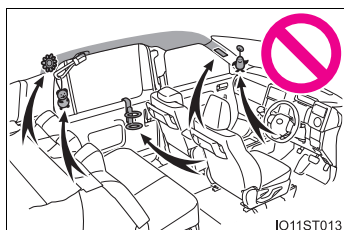
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→ P. 420）



 警告**■ SRS エアバッグについて**

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール

 警告

- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- LPG ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→ P. 91）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→ P. 291）
- 室内灯が自動で点灯します。（→ P. 317）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 389）

■ 緊急通報について

- T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ 車両に一定以上の衝撃を受けたオペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。（→ P. 65）

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
 - ・ シートベルトプリテンショナー

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

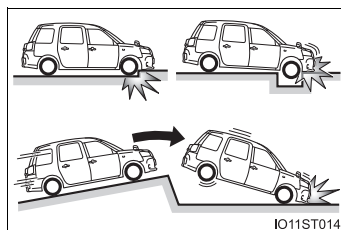
次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

- フロント SRS エアバッグ
- SRS サイドエアバッグ
- SRS カーテンシールドエアバッグ

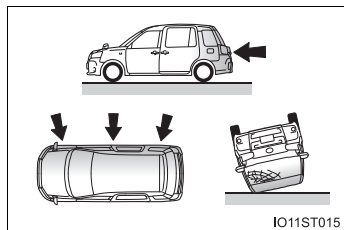


IO11ST014

■ SRS エアバッグが作動しないとき

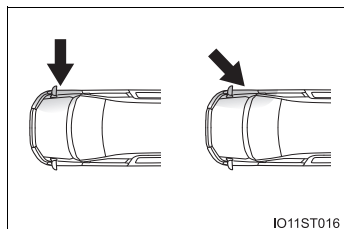
- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ



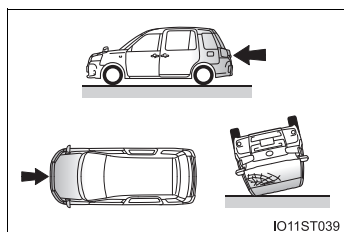
- 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



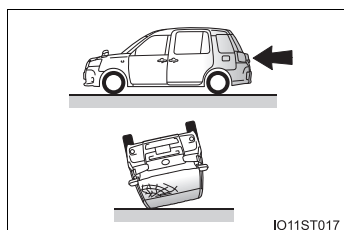
- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



- 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



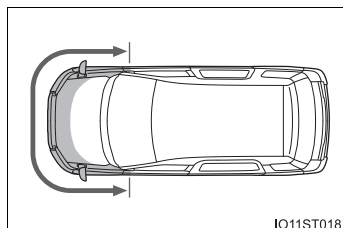
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

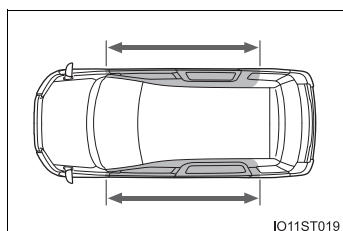
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

- ・ フロント SRS エアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー一部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、LPG ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間 LPG ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、LPG ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 47)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 119) ・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 176) をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 47 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。
お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	47
チャイルドシートを使用するときは	49
シート位置別チャイルドシートの適合性について	52
チャイルドシートの取り付け方法	59
・ シートベルトで固定する	60
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	62
・ トップテザーアンカレッジを使用する	63

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 52)

 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 52）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

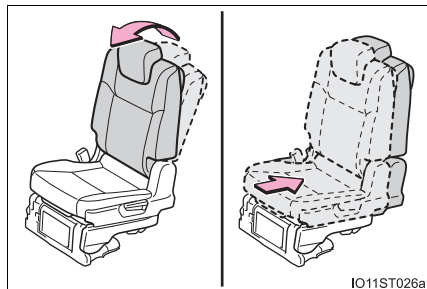
■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートのにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



● シートをいちばんうしろに下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

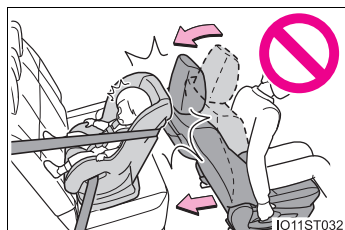


警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 53）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 57）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

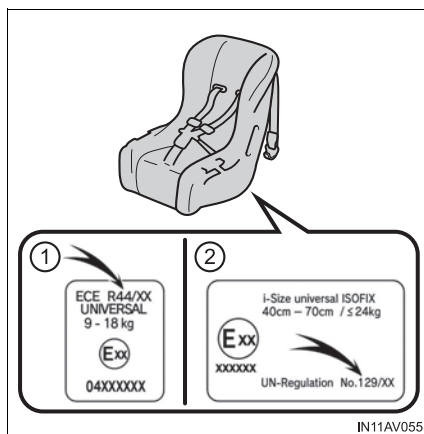
法規番号の表示例

① UN (ECE) R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク※²

対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な
体重が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

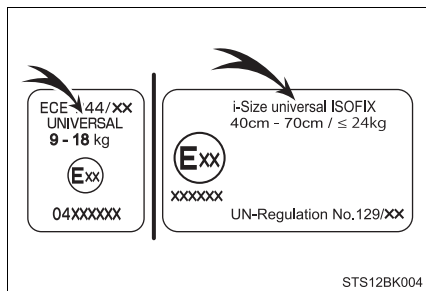
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

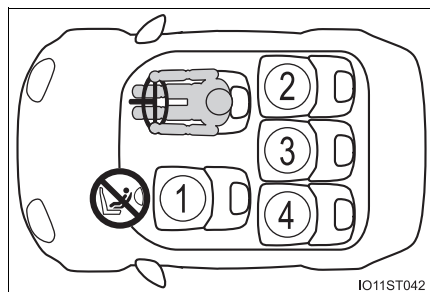
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



STS12BK004

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L ② ③ ④
③ ※2, 3, 5	U
④ ※2, 3	U L ② ③ ④



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 57）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-SizeチャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

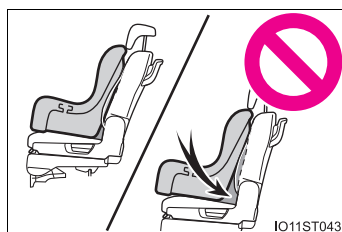


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※² 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの上にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

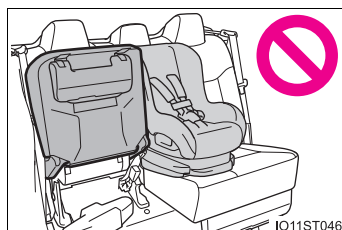


※³ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※⁴ チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※⁵ クッション部を持ち上げた状態でチャイルドシートを取り付けしないでください。



■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2, R2X, R3	×	R1, R2, R2X, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

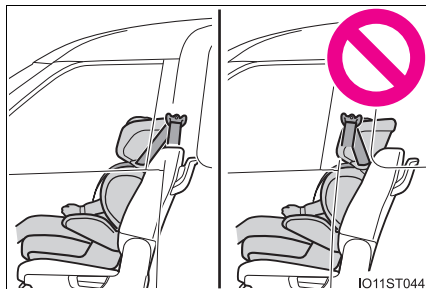
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83 cm (体重：～ 13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上 かつ、 身長：76 ～ 100 cm (体重：～ 18kg)	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100 ～ 150 cm (体重：15 ～ 36kg)	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

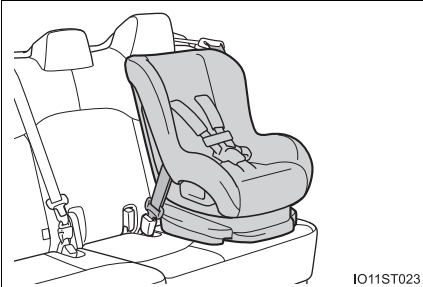
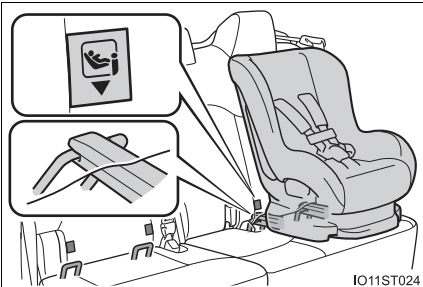
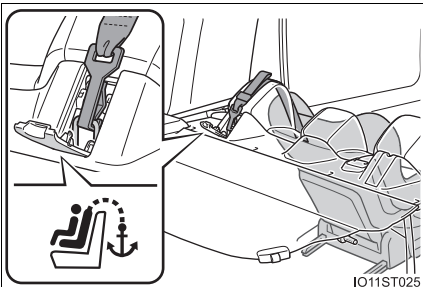
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する	 IO11ST023	P. 60
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 IO11ST024	P. 62
テザーベルトを固定する	 IO11ST025	P. 63

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

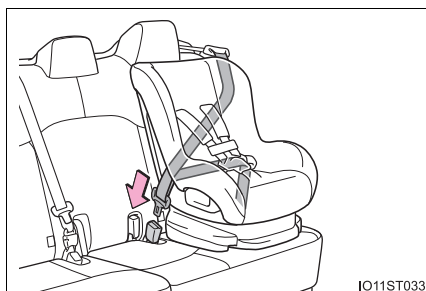
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 52, 53）

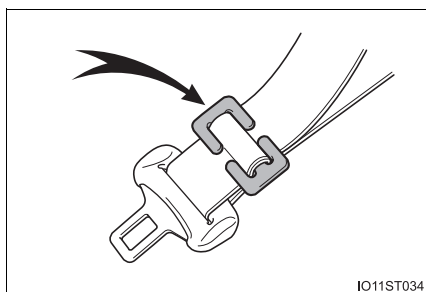
- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 49）

- 2 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 3 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 4 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する（→ P. 61）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

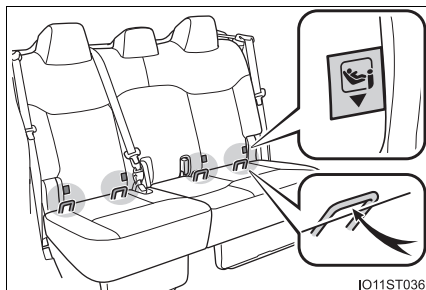
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



IO11ST036

■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

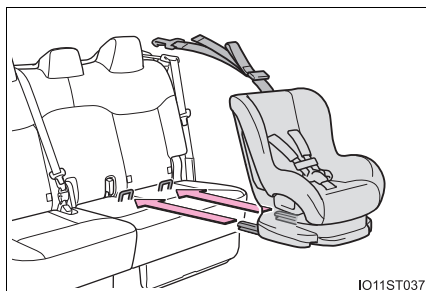
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 52, 53)

1 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



IO11ST037

2 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→ P. 61)

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

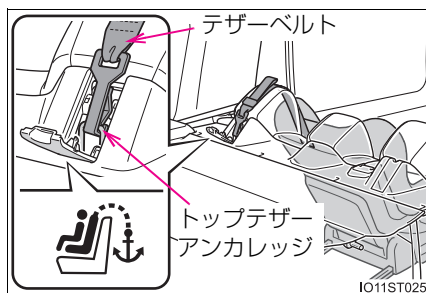
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

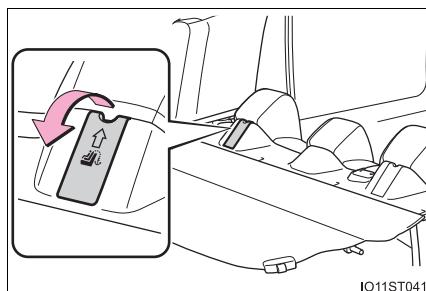
テザーベルトを固定するときに使います。



■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

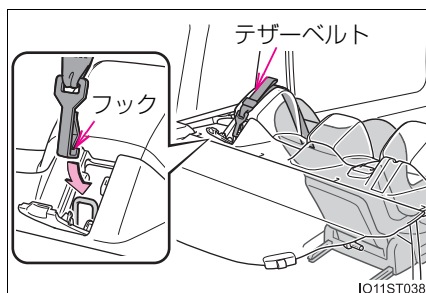
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 カバーを開ける



- 2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 61)



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

T-Connect エントリー (22)

ここでは、T-Connect エントリー (22) について記載しています。
T-Connect のご利用には、契約手続きが必要です。

T-Connect について

T-Connect は DCM (Data Communication Module) を介してお車がお客様と常につながることにより、安心・安全・快適なカーライフをサポートするトヨタ専用のコネクティッドサービスです。

■ T-Connect サービス

ご利用可能な T-Connect サービスは、T-Connect の WEB サイト (<https://toyota.jp/tconnectservice/>) をご覧ください。

安全にご利用するため注意すること

T-Connect をご利用になるときは、次の注意事項を必ずお守りの上、正しくお使いください。

■ 消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。

寿命による交換時期は、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯 (赤点滅) でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

通信機器について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

■ 通信モジュール（DCM）について

車両に装着した通信モジュール（DCM）で通信を行います。ご利用には T-Connect 利用申込みが必要です。通信費は T-Connect 利用料金に含まれます。利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の WEB サイト (<https://toyota.jp/tconnectservice/>) でご確認ください。

リコール情報などのお車に関する大切なお知らせをトヨタまたはトヨタ販売店からリモートメンテナンスメールによりお送りするため、T-Connect の利用契約の有無にかかわらず、通信を行う場合があります。

通信モジュール（DCM）について

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、インストルメントパネルに設置されています。

データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。

次の点をご理解の上、正しくお使いください。

- 通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。

サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。

なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。

- 次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。
 - ・ トンネルの中にいるとき
 - ・ 地下駐車場にいるとき
 - ・ 山奥などの通信圏外にいるとき
 - ・ 回線が混雑しているなど、発信規制中のとき
- 通信モジュール（DCM）の回線維持期間経過後に T-Connect を新たにご契約いただく場合、通信モジュール（DCM）の回線を接続するための費用が必要になることがありますので、あらかじめご了承ください。
- この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
(その場合には事前にご連絡します)

T-Connect を契約するには

T-Connect をご利用いただくには T-Connect 契約が必要となります。
初度登録から 5 年間無料でご利用いただけます。

■ 契約（申込み）する

以下のいずれかの方法でお申込みいただけます。

- T-Connect WEB 申込サイト
(https://tconnect.jp/webregist_tsc/)：手数料は無料です。
- トヨタ販売店：手数料は販売店により異なります。詳しくはトヨタ販売店にご確認ください。

■ 継続契約を行うには

契約の更新月が近付くとトヨタコネクティッド株式会社よりお知らせが届きます。そちらに記載の手続き方法に従って契約の更新を行うことができます。

T-Connect を利用するには

ご利用の際には各サービスの使用方法、留意事項を確認の上ご利用ください。

■ ご利用の前に

ヘルプネットの手動保守点検を行ってください。手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 各サービスを使うには

- ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）（→ P. 69）
- リモートメンテナンスサービス（→ P. 79）

上記以外のサービスの使用法はスマートフォンアプリのヘルプ、もしくは T-Connect の WEB サイト
(<https://toyota.jp/tconnectservice/>) をご確認ください。

■ WEB サイト

T-Connect サービスの概要などを確認することができます。

- ・ URL : <https://toyota.jp/tconnectservice/>
- ・ QR コード :



● My TOYOTA サイト

T-Connect の契約情報の確認などを行うことができます。

- ・ URL : <https://toyota.jp/member/mytoyota/>
- ・ QR コード :



■ スマートフォンアプリ

● My TOYOTA+ アプリ

お車に関する情報確認などを利用することができます。

- ・ URL : <https://toyota.jp/spapp/mytoyota/qrlink/>
- ・ QR コード :



T-Connect を解約する

お車を手放す場合など、T-Connect を解約する際は WEB サイトまたは T-Connect サポートセンターから行うことができます。

■ WEB サイトから解約するには

My TOYOTA サイトにログインして解約手続きをしてください。

URL : <https://toyota.jp/member/mytoyota/>

■ T-Connect サポートセンターから解約するには

T-Connect サポートセンターに連絡して解約してください。

全国共通・フリーコール：0800-500-6200

受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

必ず契約者本人から、次の情報を準備して、ご連絡ください。

- 自動車検査証（車検証）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話接続し、車内からの通報救援要請を補助支援するシステムです。

さらに、あおり運転などのトラブルのときでも、警察へ状況に応じて通報します。

また、交通事故発生時車両データの活用により、お客様の重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行う D-Call Net 機能に対応しています。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

サービス開始と解約について

ヘルプネットは、T-Connect を申込みの上、ヘルプネットの手動保守点検を正常に完了してからご利用いただけます。手動保守点検は必ず契約者本人で行うようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect 利用契約を解約すると、同時に解約されます。ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

緊急通報について

緊急通報は、利用開始操作の完了後に利用できる機能です。

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

■ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

各部の名称とはたらき

① マイク

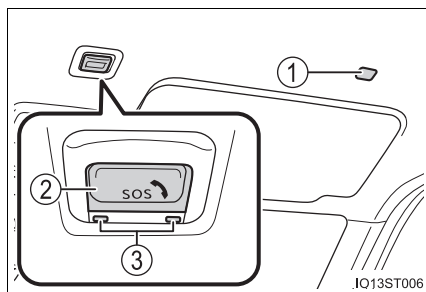
緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

② ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするとき、またはヘルプネットの利用開始操作をするときに押します。

③ 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。(→ P. 74)



ヘルプネットをお使いになる前に

ヘルプネットは、手動保守点検を実施してからご利用ください。

① 手動保守点検を行い、次の点を確認する

- 通信が正常に始まる
- 通話ができる
- 通報位置が正しい（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

② 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確認する

ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないときは、再度、手動保守点検をしてください。

緊急通報をする

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

- 1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

- 2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

- 3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。

- 4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

- 5 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

- 6 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

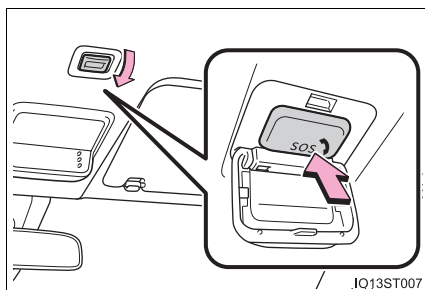
- 7 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

パワースイッチが“ACC” または “ON” のとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

- 1 ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを確認する
- 2 ヘルプネットスイッチパネルを開き、ヘルプネットボタンを押す



- 3 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。
- 4 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる
- 5 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える
手動通報時には、ヘルプネットセンターのオペレーターは、通報者の要請に基づき警察、消防などに接続します。通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。
- 6 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する
- 7 通話終了後、約 60 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 60 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 60 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

- 8 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅表示を終了します。
- 9 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

ヘルプネットの保守点検をする

■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

(株) 日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

- 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）
- ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

1 できるだけ見晴らしのよい場所に車を駐車する

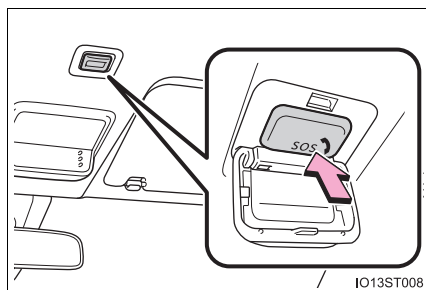
ビル谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 ヘルプネットスイッチパネルのカバーを開く

3 パワースイッチを“LOCK”にする

4 パワースイッチを“ACC” または “ON” にする

5 ヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯がともに点灯したら、すぐにヘルプネットボタンを約 10 秒間押し続ける



- 6

ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。
- 7

ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、次の確認が実施される

・ 車両の現在地

・ 手動保守点検をしていること

・ ヘルプネットセンターに会員登録されていること
- 8

データ通信完了後、通話モードになる
- 9

マイクを通して、ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。

「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。
- 10

通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯が点滅を終了します。

ヘルプネットスイッチパネルの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯でお知らせします。

機能		状況	作動対象
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき (携帯電話サービスエリア内)	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき (携帯電話サービスエリア外)	緊急通報できません。携帯電話サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき (携帯電話サービスエリア内)	携帯電話サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。

機能		状況	作動対象
緑	赤		
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		緊急通報に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。(→ P. 72)
		自動保守点検を何回も連続して失敗したとき (携帯電話サービスエリア外)	携帯電話サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。(→ P. 73) それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検に失敗したとき	約 10 秒後に表示が変化します。携帯電話サービスエリア内に移動してから、再試行してください。(→ P. 73)
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	パワースイッチを “ON” にしたとき (約 5 秒間)	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	

機能		状況	作動対象
緑	赤		
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	T-Connect サービスを契約してください。(→ P. 67)
		関連機器が動作していないとき	パワースイッチを“ACC”または“ON”にしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検をしていないとき	手動保守点検を行います。(→ P. 73)

緊急通報できない場合について

次のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出る場合があります。

■ T-Connect 利用契約の不成立または消滅

- 未契約のとき
- 契約が締結できないとき
- 契約の解除が実施されたとき
- 契約が終了したとき

■ ヘルプネット利用登録の不成立

- 未登録の場合
- 手動保守点検※を完了していない場合
- 登録情報が更新されていない場合

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

■ 関連機器の異常による通信不能

- 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル・マイク・スピーカー・通信モジュール・アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障
- 補機バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など
- 車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

■ 緊急通報センターシステムの位置評定エラー

GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいとき、位置評定が正常に行われないまたは誤差が大きいとき

ヘルプネットは、GPS から位置情報を取得しています。

■ ヘルプネットセンター／トヨタスマートセンターシステムの異常による通信不能

- センターシステムの故障など
- センターの火災などによる、センターシステムの損傷

■ ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能

- 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア外に、登録車両が位置するとき
- 本サービスに使用する携帯電話サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき
- 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき
- 本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき
- 本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

■ 緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止

- センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき
- 大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

■ その他の要因

手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症状	考えられること	処置
ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しない	手動保守点検※が正常に完了していない	手動保守点検※をする (→ P. 73)
緊急通報できない	パワースイッチを“ACC”または“ON”にした直後の点検中ではありませんか	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。(→ P. 72)
	電波状態は良好ですか	電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。 (→ P. 73)
	携帯電話のサービスエリア外で使用していませんか	携帯電話回線が混雑している
パワースイッチを“LOCK”にしても、ヘルプネットスイッチパネルの赤または緑の表示灯が点滅し続けた	緊急通報中ではありませんか	「緊急通報を終了しました」という音声案内が流れてから約 60 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
LPG ハイブリッドシステム始動後、ヘルプネットスイッチパネルの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect 利用契約がされていますか	T-Connect の利用契約をする (→ P. 67)

※ 手動保守点検は必ず契約者本人が行うようにしてください。

リモートメンテナンスサービスについて

お車の状態に関する情報を T-Connect センターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

車両に OBD(On-BoardDiagnostic) II 通信を行う機器を接続している場合、正しくサービスが行えない場合があります。

■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、専用のスマホアプリにメールでご連絡します。また、電話から、その場でトヨタ販売店への入庫予約を行うことができます。

■ e ケア

● 走行アドバイス ※

お車の警告灯が点灯した場合、My TOYOTA+ アプリから e ケアコールセンターまたはトヨタ販売店に問い合わせることができます。内容について、お車から発信される情報をもとに最適なアドバイスが受けられます。

※ サービスのご利用には、リモートメンテナンス店の登録が必要です。登録したリモートメンテナンス店を変更する場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ 通信モジュール (DCM) について

・通信モジュール(DCM)は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。製品本体のネームプレートはその証明ですので、ネームプレートの記載を削除しないでください。

・通信モジュール(DCM)を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

● フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dcm/toyota/>

■データ取得について

T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

■ヘルプネット

- いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。
- 事故発生時以外でも、エアバッグが作動したときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。
- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、サービスの利用契約をしていない状態でも緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報をする

- 緊急通報中に音声案内が流れているあいだは、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。
- 誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。ただし、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

注意

■ヘルプネット

- ヘルプネットスイッチパネルなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットスイッチパネルなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障不具合などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

 注意**■ ヘルプネットを安全にご利用いただくために**

- 関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。
- 緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話できません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 次の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。動作温度範囲：－20℃～＋60℃
- 実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。
- 呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを“LOCK”にしてください。

■ ヘルプネットの保守点検をする

- 自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを“LOCK”から“ACC”または“ON”にしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- 手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。
 - ・ 手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPSを受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。
 - ・ 手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度“LOCK”にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやりなおしてください。携帯電話サービスエリア内でやりなおしても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■ T-Connect をご利用になるときは**

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。

走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

■ ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

■ ヘルプネットを安全にご利用いただくために

- 安全運転を心がけてください。ヘルプネットは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。
- 緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。
- 緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じる時は、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。
- 手動保守点検は契約者本人が行い、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯していることを必ず確認してください。
- 本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 補機バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。
- 携帯電話サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

 警告

● 次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

- ・ 携帯電話サービスエリア外で使用している
- ・ 関連機器（ヘルプネットスイッチパネル・マイク・スピーカー・通信モジュール・アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
- ・ T-Connect が未契約、または契約期限が切れている
- ・ 手動保守点検を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

● 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

● 緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

● 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。

● T-Connect を解約してもヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。

● ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

● 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

■ **ヘルプネットをお使いになる前に**

● 次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。

- ・ 通信が始まらない
- ・ 通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う
- ・ 通話できない

● 手動保守点検後、ヘルプネットスイッチパネルの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。
表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■緊急通報をする**

- 呼び返し待機状態のあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段を取り、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。
- 緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・携帯電話サービスエリア外では緊急通報できません。緊急通報できなかったときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
 - ・携帯電話サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
 - ・緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットスイッチパネルの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

■ヘルプネットの保守点検をする

- 手動保守点検の途中で、パワースイッチを“LOCK”にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを“LOCK”にしてしまったときは、再度手動保守点検をやりなおしてください。
- 手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。手動保守点検が正常に終了しても緑の表示灯が点灯しない場合、緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■ ヘルプネットスイッチパネルの表示灯について**

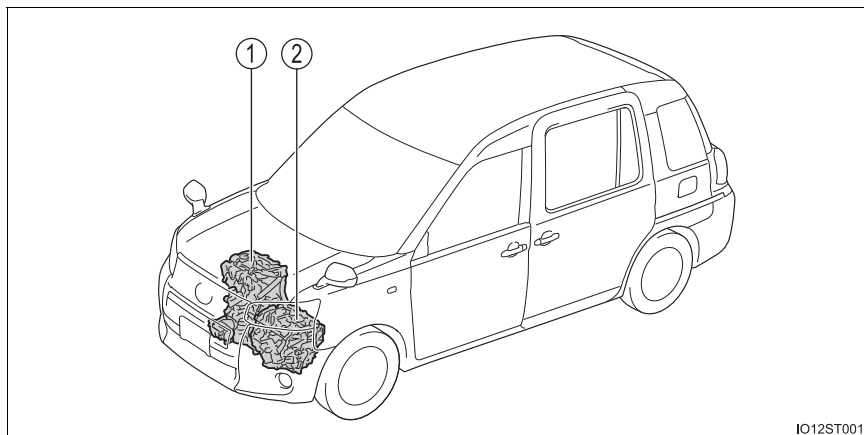
- 表示灯が次のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ LPG ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットスイッチパネルの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける
 - ・ LPG ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く
 - ・ 携帯電話サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く
 - ・ LPG ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない
- 表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。たとえば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

■ 故障とお考えになる前に

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

LPG ハイブリッドシステムの特徴

LPG ハイブリッドシステムは、電気モーターとLPG エンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- ① LPG エンジン
- ② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はLPG エンジンを停止※します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もLPG エンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやLPG エンジン暖機中など、LPG エンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 88）

◆ 通常走行時

LPG エンジンと電気モーターを効率よく制御し、走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、LPG エンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

LPG エンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

□ 知識

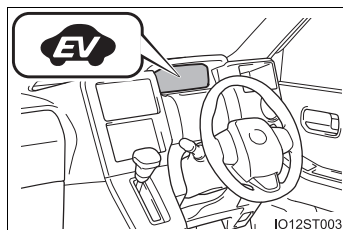
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケータについて

LPG エンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているとき、EV インジケータが点灯します。



■ マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■LPG エンジンの自動停止について

車両状態に応じて、LPG エンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります、燃費が低下する場合があります。
※

- LPG エンジン暖機中
- 駆動用電池充電中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 駆動用電池冷却用吸入口のフィルターにほこりがつまっているとき
(→ P. 366)
- 急加速・急減速をくり返したとき
- 長時間の LPG ハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき

※ 状況により、上記の他にも LPG エンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

LPG エンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、LPG ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 442

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

LPG エンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯して走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

LPG ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- LPGハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえるフロントシート下部および駆動用電池からの音
- LPGハイブリッドシステム始動時および停止時にフロントシート下部から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- LPG エンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- LPG エンジンの始動・停止による振動
- LPG エンジン始動前の燃料循環時に後方から聞こえる燃料ポンプの作動音
- 助手席下部にある吸入口から聞こえるファンの音
- エンジンルーム付近から聞こえる燃料遮断弁の作動音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

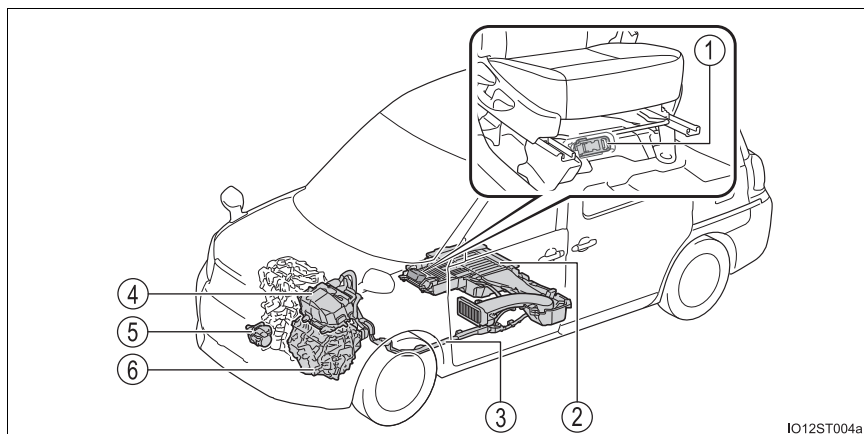
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

EV インジケーターを点灯しないようにするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→ P. 461)

LPG ハイブリッドシステムの注意

LPG ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 520V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため ⚠ 表示を含んだラベルが貼付されています。



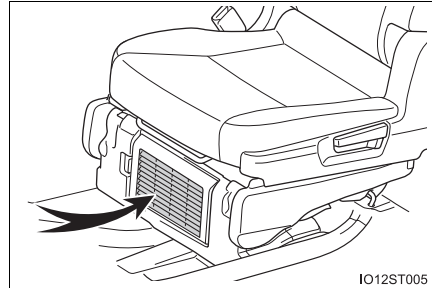
イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|-----------------|
| ① サービスプラグ | ④ パワーコントロールユニット |
| ② 駆動用電池 | ⑤ エアコンコンプレッサー |
| ③ 高電圧ケーブル（オレンジ色） | ⑥ 電気モーター |

駆動用電池冷却用吸入口

助手席下部には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



⚠ 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。
駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→ P. 366)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、LPG ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

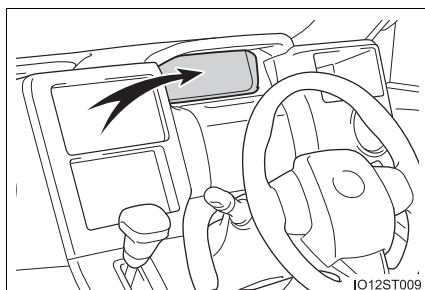
この場合、LPG ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

LPG ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断られたとき

LPG ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠で LPG ハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→ P. 403) が消灯するまで補給(充てん)してから再始動してください。少量の補給(充てん)では始動できない場合があります。(補給<充てん>量は車両水平状態で、タンク容量の16%以上が必要です。車両の傾きによって最少必要補給<充てん>量はわかります。傾いているときは、少し多めに補給<充てん>してください)

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部(遠距離通信)において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

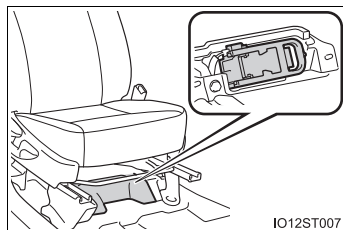
この車両は、ECE100(バッテリー電気車両安全)に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠ 警告

■ 高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■ 事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 396）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのまま LPG ハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

 警告**■ 駆動用電池について**

- 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動用電池について**

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

イモビライザーシステム

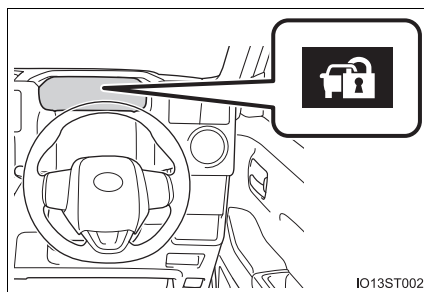
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではLPG ハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをパワースイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをパワースイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. メーターの見方

警告灯／表示灯.....98

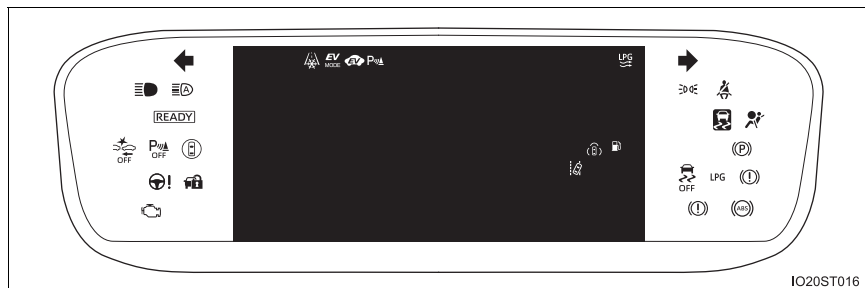
計器類.....102

マルチインフォメーション
ディスプレイ.....105

警告灯／表示灯

メーター・オーバーヘッドコンソール内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯

システム異常などを警告します。

※1



ブレーキ警告灯
(→ P. 402)

(赤色)

※1



電子制御ブレーキ警告灯
(→ P. 402)

(黄色)

※2



充電警告灯 (→ P. 402)

※1



スリップ表示灯
(→ P. 403)

※2



油圧警告灯 (→ P. 402)

※1



フロント席シートベルト
非着用警告灯 (→ P. 403)

※1



エンジン警告灯
(→ P. 402)

※3



リヤ席シートベルト非着用
警告灯 (→ P. 403)

※1



SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
(→ P. 402)

※1



燃料残量警告灯
(→ P. 403)



LPG 表示灯 (→ P. 403)



※1 クリアランスソナー OFF
表示灯 (→ P. 404)



※1 ABS & ブレーキアシスト
警告灯 (→ P. 403)



※2 ペダル誤操作警告灯
(→ P. 404)



(赤色/
黄色)

※1 パワーステアリング警告灯
(→ P. 403)



※1 PCS 警告灯 (→ P. 404)



※2 高水温警告灯 (→ P. 403)



※2 LDA 表示灯 (→ P. 404)



(黄色)

PDA 表示灯 (→ P. 404)



※1 運転支援情報表示灯
(→ P. 405)

※1 作動確認のためにパワースイッチを “ON” にすると点灯し、数秒後または LPG ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 オーバーヘッドコンソールに表示されます。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 200)



EV ドライブモード表示灯
(→ P. 195)



ハイビーム表示灯
(→ P. 203)



PCS 警告灯 (→ P. 232)



尾灯表示灯 (→ P. 202)



EV インジケーター
(→ P. 87)



パーキングブレーキ表示灯
(→ P. 201)



AHB 表示灯 (→ P. 207)



(緑色)

LDA 表示灯 (→ P. 250)



READY インジケーター
(→ P. 190)



(白色)

LDA 表示灯 (→ P. 250)



スリップ表示灯
(→ P. 291)



(黄色

[点滅])

LDA OFF 表示灯
(→ P. 250)



LPG 燃料冷却表示灯
(→ P. 219)



クリアランスソナー検知
表示灯★ (→ P. 272)



LPG 燃料冷却優先表示灯
(→ P. 219)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 292)



アウターミラーインジケーター★ (→ P. 272)



クリアランスソナー OFF
表示灯 (→ P. 273)



運転支援情報表示灯
(→ P. 272, 283)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



(白色)

PDA 表示灯 (→ P. 256)



※6

低温表示灯 (→ P. 102)



(緑色)

PDA 表示灯 (→ P. 256)

セキュリティ表示灯
(→ P. 95)

※1 作動確認のためにパワースイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはLPG ハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※3 システムがOFFのときに点灯します。

※4 システム作動時に点滅します。

※5 アウターミラーに表示されます

※6 外気温が約3℃以下のとき、約10秒間点滅後に点灯します。



知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両 (→ P. 100) は、クリアランスソナー機能のON / OFFの状態に関わらずシフトレバーをRにすると消灯します。



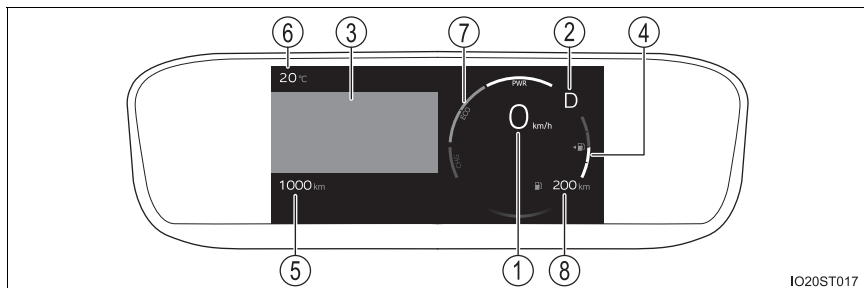
警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



IO20ST017

① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。

(→ P. 197)

③ マルチインフォメーションディスプレイ

- ・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 105)
- ・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることとお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 407)

④ 燃料計

燃料残量を示します。

⑤ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑥ 外気温表示

外気温度を -40°C ～ 60°C の間に表示します。

⑦ ハイブリッドシステムインジケーター

LPG ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→ P. 104)

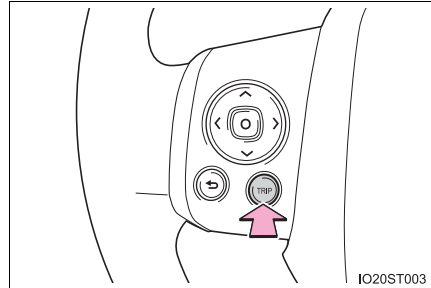
⑧ 走行可能距離

燃料残量による走行可能な距離を示します。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれのメーターの明るさを調整できます。(→ P. 111)

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

トリップメーターがリセットされます。

■外気温表示について

● 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下） のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

● 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

● 燃料補給量が少量（約 5L 以下）の場合、表示が更新されないことがあります。燃料補給の際はパワースイッチを“LOCK” にしてください。万一、パワースイッチを“LOCK” にせず燃料補給した場合、表示が更新されないことがあります。

■ハイブリッドシステムインジケーター

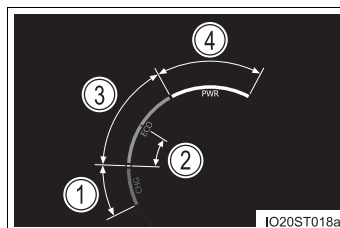
① チャージエリア

回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア

LPG エンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

LPG エンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。



③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

- ・インジケーターの表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。
- ・チャージエリアは、回生※状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■LPG ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりにマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（→ P. 407）が表示されます。「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または、「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」と警告メッセージが表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 447）

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

① コンテンツ表示エリア

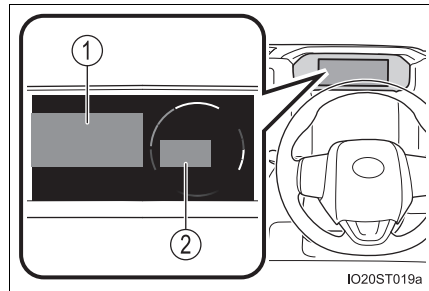
メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスを割り込み表示します。

② 走行支援システム表示エリア

運転支援機能情報表示以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 245)
- ・ PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→ P. 251)
- ・ RSA (ロードサインアシスト) (→ P. 258)



■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの**▲**または**▼**を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示

走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 106)



運転支援機能情報表示

運転支援システムの作動状況を表示します。(→ P. 109)



車両情報表示

エネルギーモニターや燃費の情報などを表示します。



設定

メーターの表示設定や、各システムの設定などを切りかえることができます。(→ P. 111)



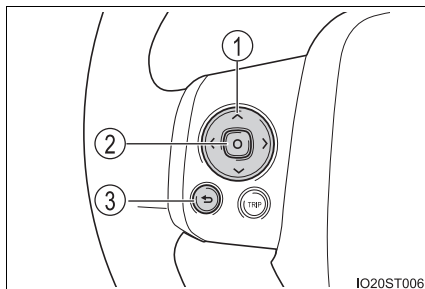
警告メッセージ表示

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。
(→ P. 407)

操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① : メニューの切り替え・ページ送り・カーソル移動
: 表示項目の切り替え・ページ送り・カーソル移動
- ② 決定/設定
- ③ ひとつ前の画面に戻る



IO20ST006

走行状態表示

■ 表示項目

- 燃費グラフ
- エコアクセルガイド/エコジャッジ
- 始動後走行時間/ EV 走行比率

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。

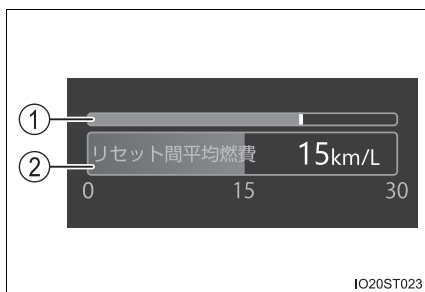
① 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

② 平均燃費

始動後・リセット後のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

メニューアイコンの から「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。



IO20ST023

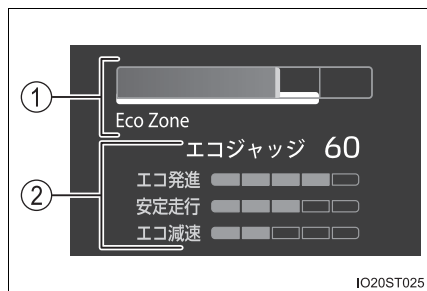
※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 始動後平均燃費は、LPG ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

※3 リセット後平均燃費の表示中に を押し続けると、リセットされます。

■ エコアクセルガイド／エコジャッジ

- ① エコアクセルガイド
- ② エコジャッジ



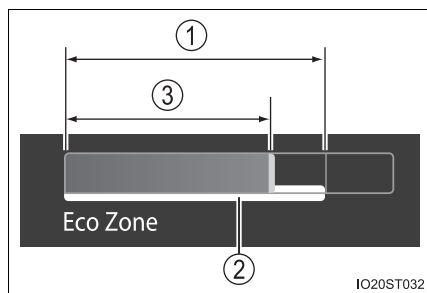
● エコアクセルガイド

- ① エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

- ② アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に白色のバーで表示されます。



この表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

- ③ 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダル操作を示す表示が、白色のバー表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→ P. 297）

● エコジャッジ

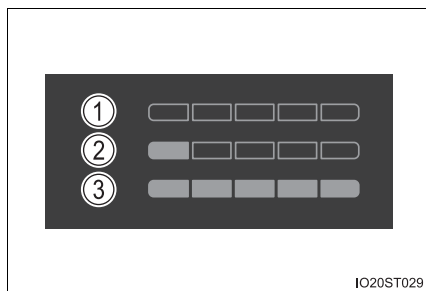
なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

- ① 採点結果
- ② エコ発進の状況
- ③ 安定走行の状況
- ④ エコ停車の状況



● エコジャッジ

- ① 未評価
- ② 低い
- ③ 高い



- ・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
- ・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

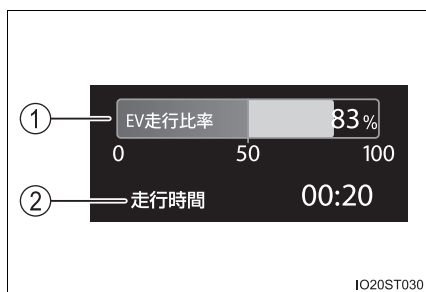
■ 始動後走行時間／EV 走行比率

① 始動後 EV 走行比率

LPG ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

② 始動後走行時間

LPG ハイブリッドシステムを始動してから現在までに走行時間を表示します。※



※ LPG ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

運転支援機能情報表示

■ 運転支援機能情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→ P. 245）
- RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 258）

車両情報表示

■ 表示項目

- ドライブインフォメーション
- エネルギーモニター

■ ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

各情報の内容は、「ドライブインフォタイプ」の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→ P. 462）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

● 始動後※

- ・ 平均車速：LPG ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：LPG ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：LPG ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

※ LPG ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間※

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチのを長押しします。

■ エネルギーモニター

車両の駆動状況、LPG ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

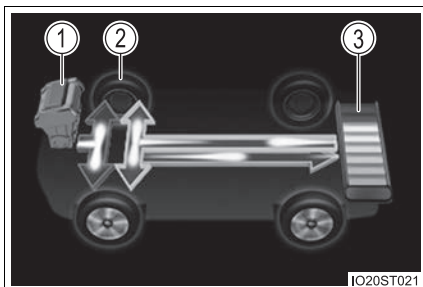
青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

- ① エンジン
- ② フロントタイヤ
- ③ 駆動用電池

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。



IO20ST021

設定

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ で ⚙ を選択し、 Ⓢ を押す。
- 2 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ で設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動し、 Ⓢ を押す。

機能の ON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、 Ⓢ を押すたびに機能の ON / OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、 Ⓢ を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

- 3 設定が完了したら、メーター操作スイッチの $\rightarrow$ を押す

■ 設定を変更できる機能（メーター表示）

-  **メーター調光**
車幅灯消灯時と点灯時それぞれのメーターの明るさを調整できます。
-  **単位**
燃費単位を選択することができます。
-  **EV インジケーター**
EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。
-  **燃費グラフ**
平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。（→ P. 462）
-  **ハイブリッドシステムインジケーター**
エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。（→ P. 462）
-  **表示コンテンツ**
エネルギーモニターの表示・非表示を選択することができます。
-  **ドライブインフォ項目**
1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

- マルチインフォメーションディスプレイの消灯
マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。
再度表示させるにはいずれかのメーター操作スイッチを押してください。
- 初期化
メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。
- 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）
→ P. 462
- クリアランスソナー（→ P. 273）
次の設定を変更することができます。
 - 機能の ON / OFF
クリアランスソナーの作動／非作動を変更することができます。
クリアランスソナー検知表示灯がある車両（→ P. 100）は、シフトレバーが R のときは、クリアランスソナー機能の ON/OFF を切りかえることができません。
 - 音量
クリアランスソナーの作動時のブザー音量を変更することができます。

知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

■ エコアクセルガイド／エコジャッジについて

- 走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。
- ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないときは、エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

■ 今回の走行結果表示について

LPG ハイブリッドシステムを停止すると、LPG ハイブリッドシステムを始動したときからの走行データを一覧で表示します。ドアをロックすると画面は消えます。

走行結果が表示されているあいだに、いずれかのドアを開けても、開いているドアの表示は行われません。

■液晶ディスプレイについて

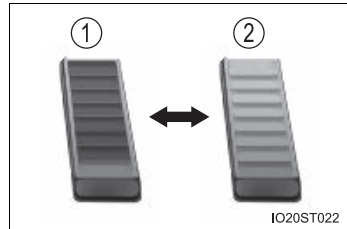
→ P. 103

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

- 表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

- ① 少ない
- ② 多い



⚠ 警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

- 安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、走行中は画面を見続けしないでください。
- LPG ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充填し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

 注意**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にLPGハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

各部の操作

3

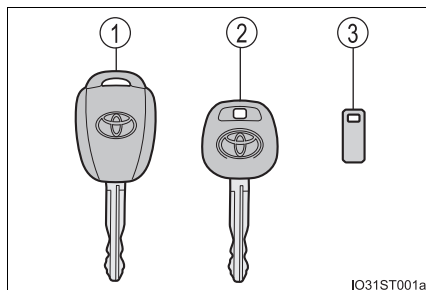
3-1. キー	
キー	116
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	118
スライドドア	121
バックドア	132
3-3. シートの調整	
フロントシート	136
ヘッドレスト	138
スロープユニット	141
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	171
インナーミラー	173
アウターミラー	174
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	176

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

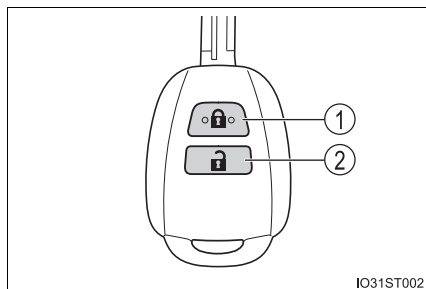
- ① キー（ワイヤレス機能装着）
・ ワイヤレス機能の作動
- ② キー（ワイヤレス機能非装着）
- ③ キーナンバープレート



IO31ST001a

ワイヤレスリモコン

- ① ドアの施錠（→ P. 118）
- ② ドアの解錠（→ P. 118）



IO31ST002

知識

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった

■電池の交換方法

→ P. 370

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

JP

ワイヤレスドアロックリモコンは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

01

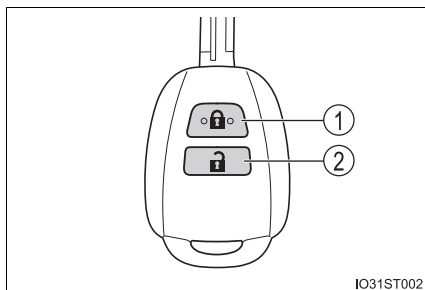
ドア

ワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外からの解錠／施錠

◆ ワイヤレスリモコン

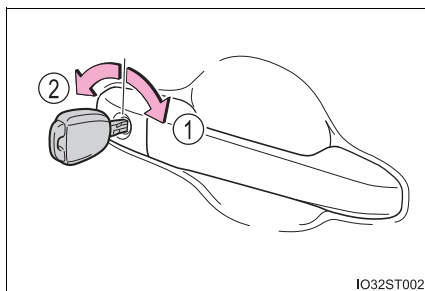
- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



IO31ST002

◆ キー（運転席）

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



IO32ST002

知識

■ 作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

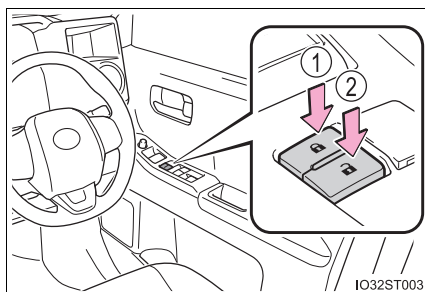
■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- キーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
- キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 370）

車内からの解錠・施錠

◆ ドアロックスイッチ

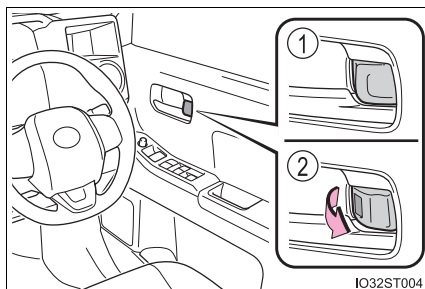
- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

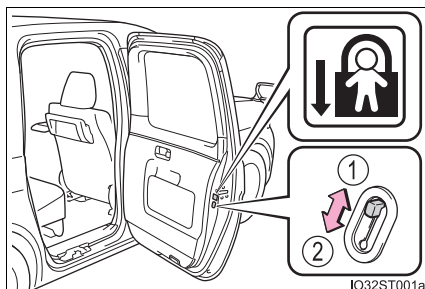
キーがパワースイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、右側リヤドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内から右側リヤドアを開けられないようにできます。



 知識**■ マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは**

いずれかのドアが確実に閉まっていません。各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。全ドアを確実に閉めてください。

■ ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスリモコンが近くにあるとき
- ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■ カスタマイズ機能

ワイヤレス機能を非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 461)

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→ P. 119）を使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

スライドドア

車外からの解錠／施錠

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 118

◆ キー（運転席）

→ P. 118

車内からの解錠・施錠

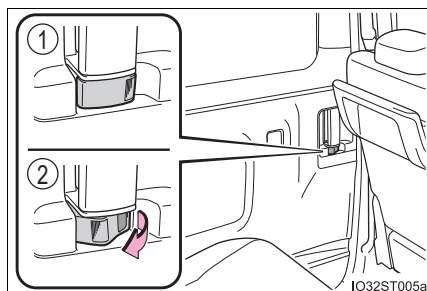
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 119

◆ ロックレバー

① 施錠

② 解錠



パワースライドドアを使用するときは

パワースライドドアメインスイッチを ON にする

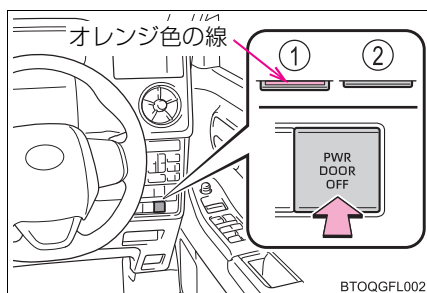
① ON※

パワースライドドアをパワースライドドアスイッチまたは、車外のスライドドアハンドルの操作により、電動で開閉できます。

※ ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色の線が現れます。

② OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。



スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

パワースライドドアメインスイッチ（→ P. 121）が ON のとき、次の方法でスライドドアを自動開閉できます。

◆ スライドドアハンドル

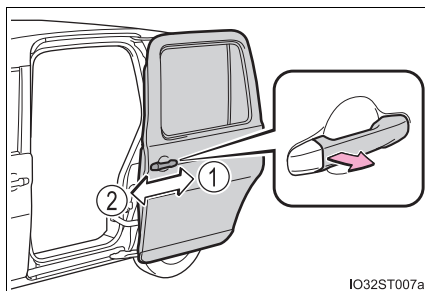
ドアハンドルを引いて開閉する

ロックが解除するまで確実にドアハンドルを引きます。

- ① 開く
- ② 閉じる

ドアハンドルを引くとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。

また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを引くと自動開閉作動が停止します。

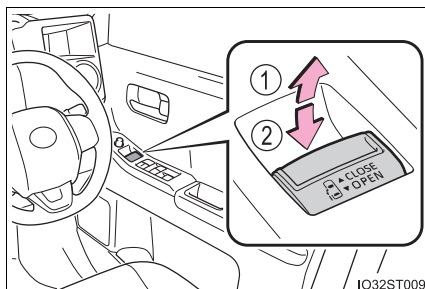


IO32ST007a

◆ パワースライドドアスイッチ

- ① 開ける
- ② 閉める

スイッチを操作しているあいだ開閉します。（安全のため、自動で全開、全閉しません）



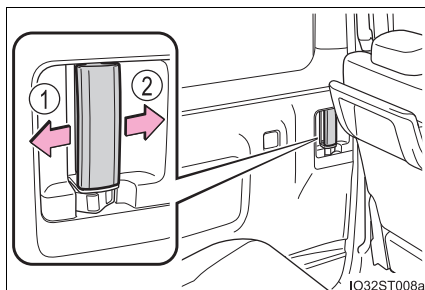
IO32ST009

スライドドアの手動開閉

◆ インサイドドアハンドル

- ① 開く
- ② 閉じる

ドアハンドルを操作するとドアが手動で開閉できます。



IO32ST008a

 知識**■ 作動の合図（パワースライドドア使用時）**

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 燃料補給口のフタが開いているとき

燃料補給口のフタが開いていると、スライドドアはわずかにしか開きません（ストッパー位置で停止します）。ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、いったんスライドドアを全閉にしてから、燃料補給口のフタを閉じ再度スライドドアを開けてください。

■ イージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが“LOCK” になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーが施錠側のときを除く）

■ パワースライドドアの作動可能条件

パワースライドドアメインスイッチが ON で、次の作動条件をすべて満たしているときに、電動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 燃料補給口のフタが閉じている
- 上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。（閉作動を除く）
 - ・ シフトレバーが P のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき

■ スライドドアを手動で開けるときの条件

次の条件をすべて満たしているときに、手動で開閉できます。

- スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）
- 燃料補給口のフタが閉じている
- 車速が 3km/h 以下（閉作動を除く）

■パワースライドドアの作動について

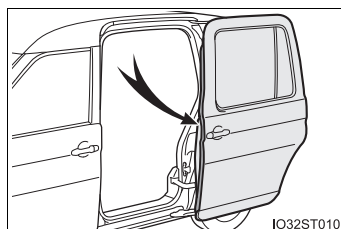
- パワースライドドアメインスイッチが ON のとき、車外のスライドドアハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。
- パワースライドドアメインスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。
- 燃料補給口のフタが開いているときに、自動でパワースライドドアを開けようとするとブザーが鳴り作動しません。
- パワースライドドア開閉中に燃料補給口のフタを開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。
- パワースライドドア開閉中に車内のスライドドアハンドルを操作すると、パワースライドドアの作動が停止します。
- パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、約 10cm 反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、次のように作動します
逆方向に動く：
・ 車外のスライドドアハンドルを引く
開方向に動く：
・ パワースライドドアスイッチを OPEN 側に引き続ける
閉方向に動く：
・ パワースライドドアスイッチを CLOSE 側に押し続ける
- スライドドアが全開状態のときに車内のスライドドアハンドルでロックを解除し、スライドドアを手動で閉めようとすると、自動で閉作動する場合があります。自動閉作動中はブザー音が断続的に鳴ります。
自動閉作動中に人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、作動を停止し、手動操作に切りかわる場合があります。再びパワースライドドアを使用するには、スライドドアのドアハンドルを操作して手動で一度全閉にしてください。

■補機バッテリーを再接続したときは

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期化を行ってください。スライドドアのドアハンドルを操作して手動で一度全閉にすることで初期化できます。

■挟み込み防止機構

パワースライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは約 10cm 反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について

スライドドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、スライドドア以外のすべてのドアが施錠され、スライドドアが閉まると同時にスライドドアも施錠されます。

- ① スライドドア以外のすべてのドアを閉じる
- ② スライドドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う
(→P. 118)

すべてのドアが閉まり施錠されると、非常点滅灯の点滅で知らせます。

予約ロック機能を解除するには、キーの解除ボタンを押してください。

- 予約ドアロック操作をしてスライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機構が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。
- 予約ロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、ワイヤレスリモコンを車内にもどすと、車内にワイヤレスリモコンが閉じ込められることがあります。
予約ロック機能を使用するときは、必ずワイヤレスリモコンを携帯した状態で行ってください。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■リヤシートリマインダー機能

- リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを“LOCK”にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ・スライドドアまたはリヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
- ・ハイブリッドシステムが始動している状態でスライドドアまたはリヤドアを開閉した

ただし、スライドドアまたはリヤドアを開けてから約 2 秒以内にスライドドアまたはリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤシートリマインダー機能は、スライドドアまたはリヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。
- リヤシートリマインダー機能作動時に施錠すると、施錠の合図(→P. 118、123)に加えて、非常点滅灯が 3 回点滅し、ブザーが 9 回吹鳴します。
- リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P. 467)

■ マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

→ P. 120

■ 自動洗車機を使うとき

→ P. 344

■ カスタマイズ機能

スライドドアスイッチの操作方法などの変更ができます。

(カスタマイズ一覧：→ P. 461)

 警告

■ 走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと思ってもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

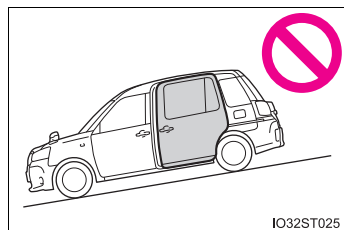
- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告**■ スライドドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

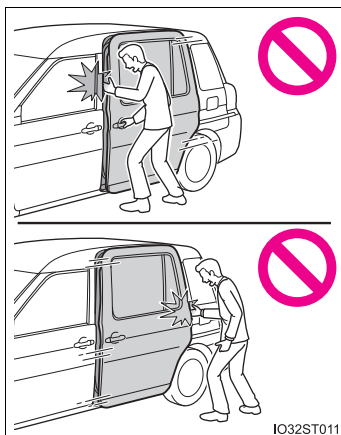
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・腕・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではスライドドアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所ではドアが突然動き出すおそれがあります。
- 車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります
- スライドドアがストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。
- 傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。ドアにあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でスライドドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。

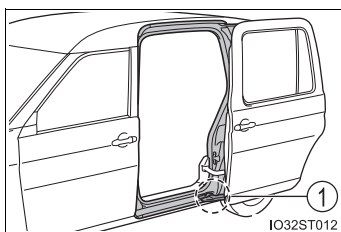


警告

- スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

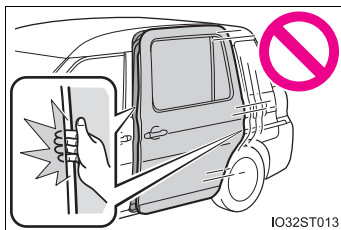


- スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。特に（①）の部分には十分注意してください。



■ イージークローザーについて

- スライドドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- イージークローザーは、パワースライドドアメインスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。
- ロックレバーが施錠側のとき、イージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

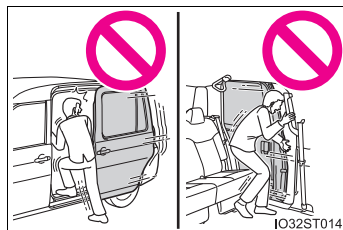
警告

■ パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

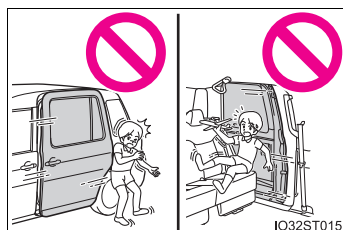
- パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



- ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



- 自動開閉中にパワースライドドアメインスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

- 自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

 警告

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ LPG ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを“ON” にしたり LPG ハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき
- ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。
- タイヤ交換時や洗車機を使用する際は、パワースライドドアメインスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチに触れたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（パワースライドドアメインスイッチ ON 時）

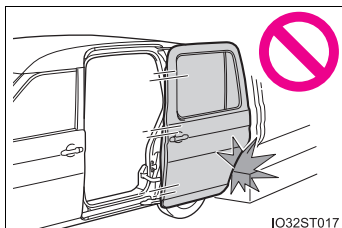
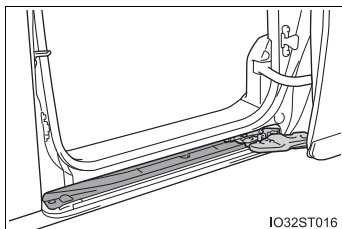
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意**■ スライドドアについて**

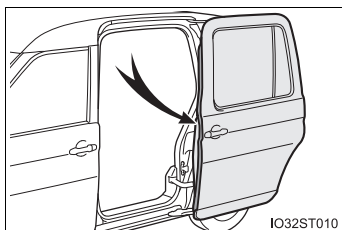
- スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。
- スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。
- スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。

**■ イージークローザーについて**

- イージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めを短時間にくり返すとイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、1 度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■ パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

車外からの施錠／解錠

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 118

◆ キー

→ P. 118

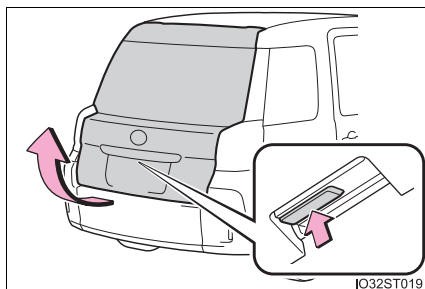
車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 119

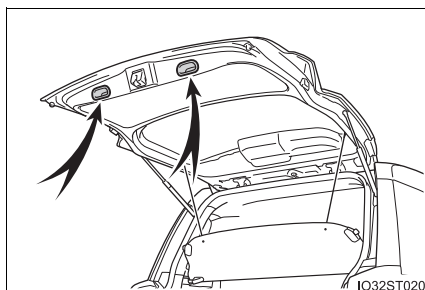
バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



バックドアを閉めるとき

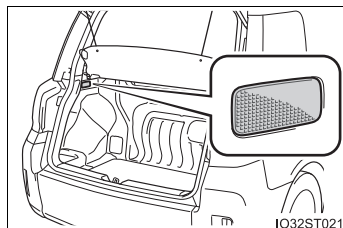
バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



 知識

■ ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。



■ マルチインフォメーションディスプレイにドアが開いているメッセージが表示されたときは

→ P. 120

 警告

■ 走行する前に

- 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

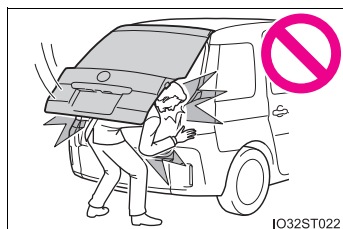
警告**■バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

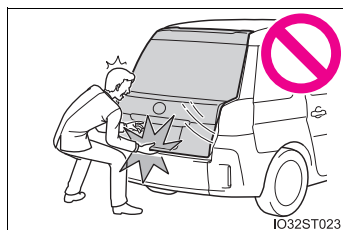
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

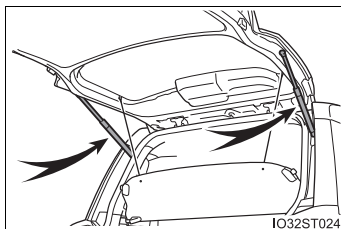


- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

 注意**■ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整（運転席のみ）
- ④ 腰部位置調整（ランバーサポート）（運転席のみ）



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

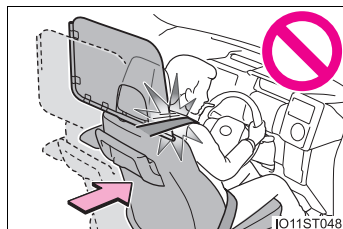
- 腕などがハンドル周辺にあたってけがをしないように注意してください。
- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害および、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

 注意**■ フロントシート後部にタクシー用品を取り付けたときは**

シートベルトと干渉しないようにシートを調整してください。タクシー用品がシートベルトと干渉すると、シートベルトが損傷するおそれがあります。



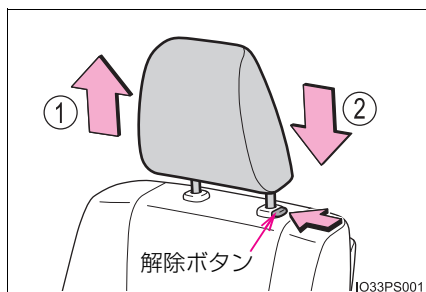
ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

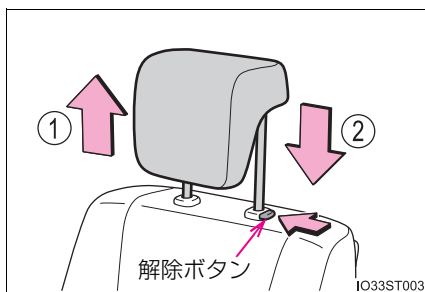
リヤ席に装備されているヘッドレストはシート一体式のため、調整できません。

上下調整するには

▶ 運転席



▶ 助手席



① 上げる

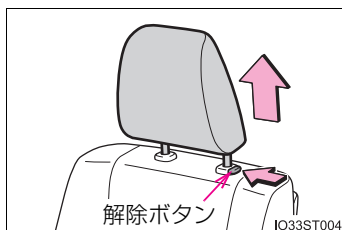
② 下げる ※

※ 下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

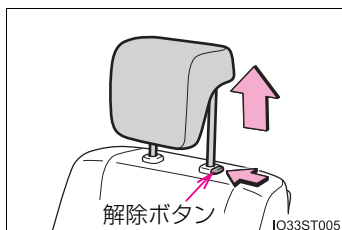
 知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引 ▶ 運転席
き上げます



▶ 助手席



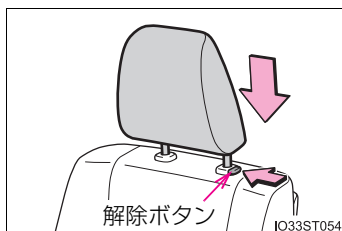
3

各部の
操作

■ヘッドレストを取り付けるとき

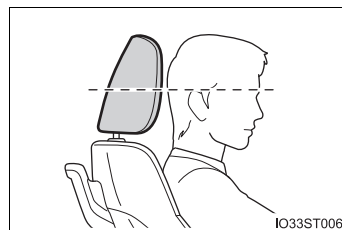
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、
ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



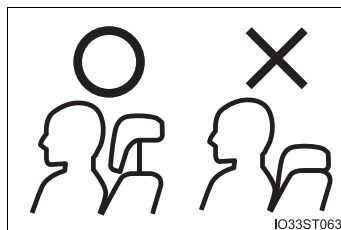
■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん
上のあたりになるよう調整してください。



■ 助手席のヘッドレストの使用について（上下調整式ヘッドレスト）

使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から、“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

**⚠ 警告****■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

スロープユニット

車いす、または人を乗せた車いすを、スロープ上を移動して車内に乗せることができます。

操作はすべて介助の方※が行ってください。

※ 介助の方とは、車いす利用者以外の方が対象となります。

警告

■ スロープを使用するときは

- スロープを落としたり、ぶつけたりしないでください。スロープが当たってけがをしたり、スロープが損傷したりするおそれがあります。
- スロープユニットは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車には使わないでください。また、車いすを乗せる・降ろす以外の目的で使用しないでください。

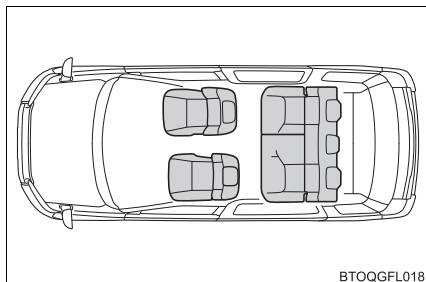
スロープを使用して車いすを車内に乗せるには

- 車いす乗車スペースを確保する (→ P. 149)
- スロープをセットする (→ P. 152)
- 車いすを固定する (→ P. 159)
- シートベルトを着用する (→ P. 164)
- スロープを収納する (→ P. 166)

室内レイアウト

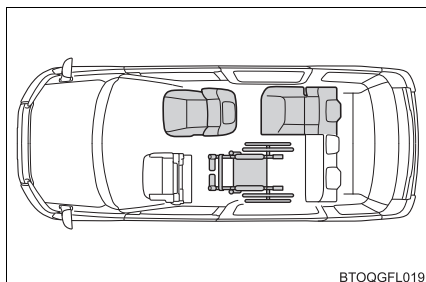
▶ 車いすを乗せないとき

乗車定員 5 名（運転者含む）



▶ 車いすを乗せるとき

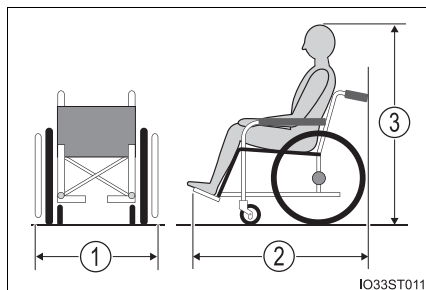
乗車定員 3 名（運転者含む）
（2 名 + 車いす 1 名）



乗車可能な車いすについて

- 車いすのフレーム形状によっては、車いす固定装置のフックが正しくかけられない場合があります（→ P. 159）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 車いすのアームレスト下側にカバーなどがある場合、シートベルトを正しく着用できない場合があります（→ P. 164）。その際はトヨタ販売店にご相談ください。
- 乗車可能な車いすのサイズは、次のとおりです。乗降口の高さは、車いすの座面と乗車される方の体格に配慮してください。

- ① 幅：700mm 以下
- ② 長さ※：1200mm 以下
- ③ 高さ：1300mm 以下



※ 長さは、フットレストの先端から介助ハンドル後端までの距離です。ご利用者のつま先からの距離ではありません。

- 標準的な車いすのサイズ（JIS 規格：幅 700mm、長さ 1200mm、高さ 1200mm）以内であれば乗車が可能です。
- 乗車可能な車いすのサイズであっても、車いすの形状や回転性能によっては乗車できないことがあります。
- リクライニング機構付き車いすの場合、リクライニング状態で乗車可能なサイズ内であれば乗車が可能です。
- スロープの耐荷重は 300kg です。スロープに乗り入れる「車いす + 車いす乗車の方 + 手荷物 + 介助の方」の合計重量が 300kg 以下であることを確認してください。
- 車いすのタイヤが適正な空気圧でないと、車いすを固定する力が弱くなり、車いすを確実に固定することができません。お使いの車いすの取扱説明書を参照し、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

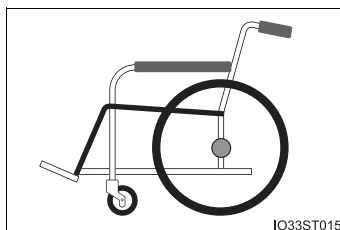
 知識

■ 車いすについて

本書では車いすについて、次のように定義しています。

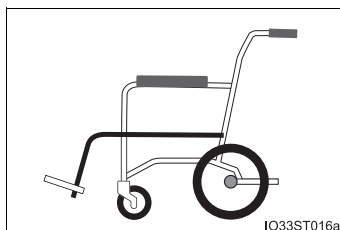
▶ 大径タイヤの車いす

ご乗車の方が操作する自走用車いす



▶ 小径タイヤの車いす

介助の方が操作する介助用車いす

 警告

■ 損傷を防ぐために

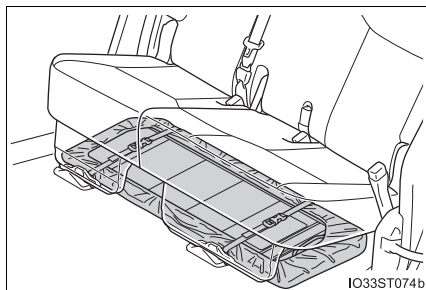
スロープの耐荷重 300kg をこえないようにしてください。スロープが損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

スロープユニットについて

■ スロープの収納位置について

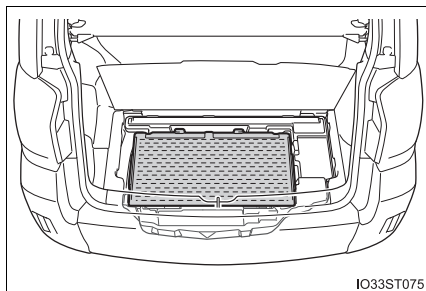
▶ スロープ No.1

リヤシートの下に収納されています。



▶ スロープ No.2

ラゲージルーム内のデッキボード下に収納されています。



■ スロープ No.1、スロープ No.2 について

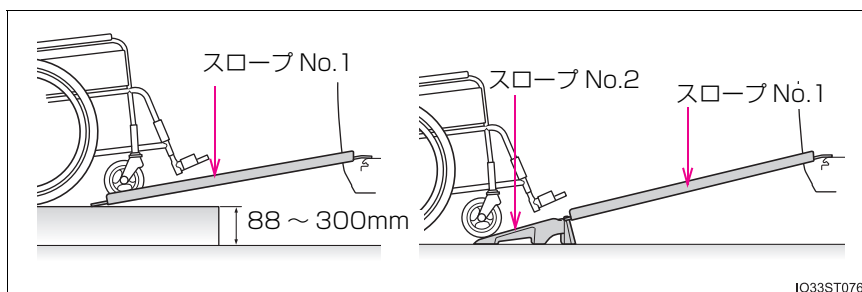
スロープを設置する際、歩道の有無や高さに対応するため、スロープユニットが 2 分割になっています。歩道（高さ 88 ～ 300mm）がある場所で設置するときはスロープ No.1 のみを使用し、歩道が無い場所や歩道の高さが 88mm 未満の場所で設置するときは、スロープ No.1 ・ No.2 の両方を使用します。

必要なスロープが設置できるスペース ※ を確保してください。

※ スロープの長さ

スロープ No.1 : 1100mm

スロープ No.1 + No.2 : 1464mm



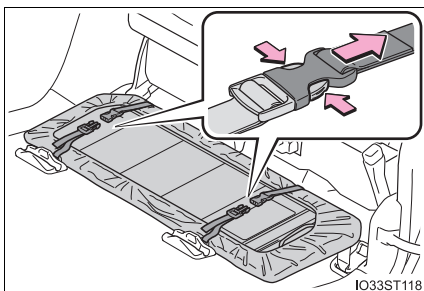
スロープユニットを使用する前に

■ お車を使用する前に

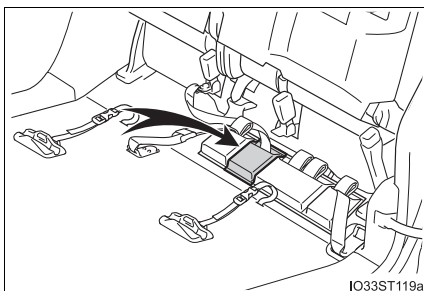
リヤシートのクッション部をたたみ（→ P. 150）、次の準備をおこなってください。

スロープユニットの使用後にもとにもどす必要はありません。

1 スロープ No.1 を取りはずす



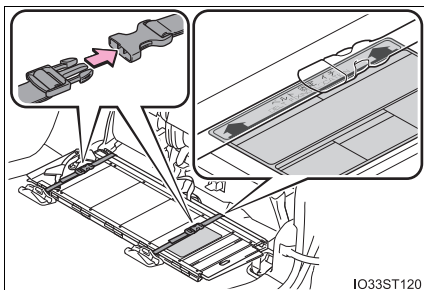
2 シートベルト延長用ベルト（灰色）のテープを切り、リヤシート下のポケットに収納する



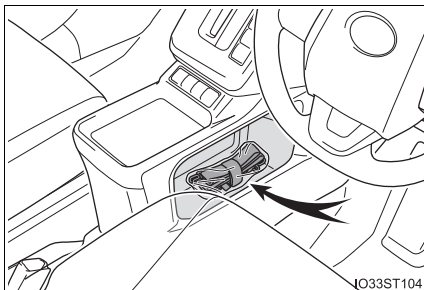
3 スロープ No.1 のカバーをはずして固定する

スロープのラベルにある線にバンドを合わせてください。

カバーは、ラゲージルームに収納してください。



- 4 スロープ収納ベルトをコンソール（運転席側）の小物入れ（→ P. 320）から出して、ラゲジルームに収納する



■ スロープユニットを使用するときは

- 使用する前にベルト類の点検をし、ベルトにほつれ・すり切れができたり、正常に作動しなくなったときは、トヨタ販売店で交換してください。
- 作業を行うときは、安全で平坦な場所に停車し、シフトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 周囲の安全に配慮し、作業中は非常点滅灯を点滅させ、運転席ドア、右側リヤドアは開けたままにしないでください。
- 車両周辺および下側に人や突起物がないことを確認してください。

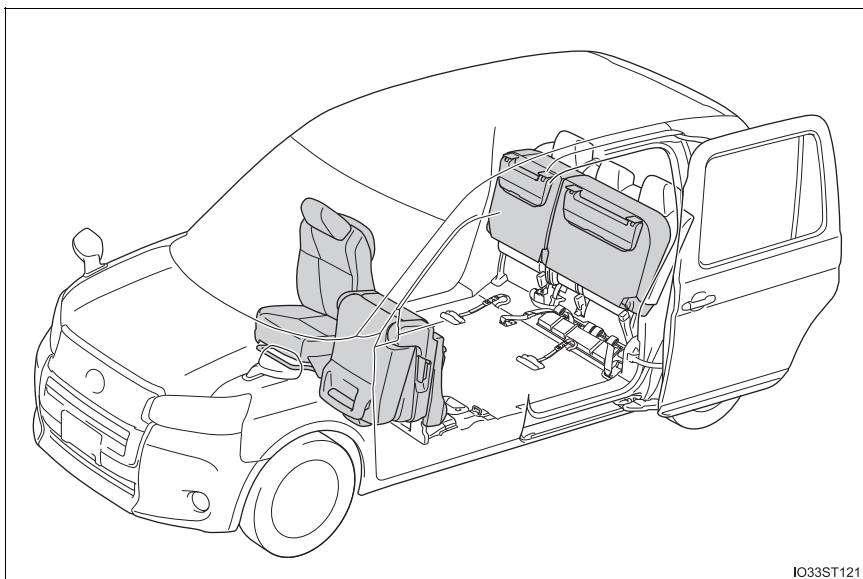
警告

■ 車両の駐車場所について

- 安全で平坦な場所で駐車してください。
狭い所や不整地、傾斜地でスロープを使用すると、思わぬ事故や車両の損傷につながるおそれがあり危険です。
- 可燃物付近に駐車しないでください。
車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。

車いす乗車スペースを確保する

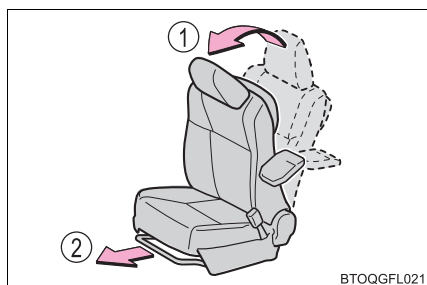
各シートを操作し、車いすを乗せるのに必要なスペースを確保します。



IO33ST121

1 運転席の位置を調整する (→ P. 136)

- ① 背もたれをいちばん前に倒す
ロックがかからない位置まで倒します。
- ② シートをいちばん前にする
ロックがかからない位置までスライドします。

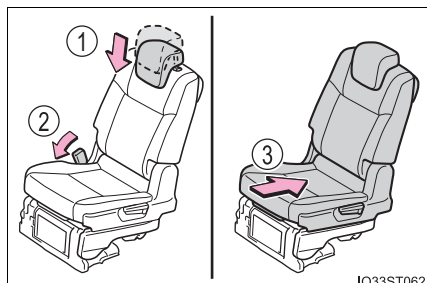


BTOQGFL021

2 料金トレイをはずす(→ P. 339)

3 助手席の位置を調整する

- ① ヘッドレストを下げる
(→ P. 138)
- ② バックルを下げる
- ③ シートをいちばんうしろに下げる (→ P. 136)

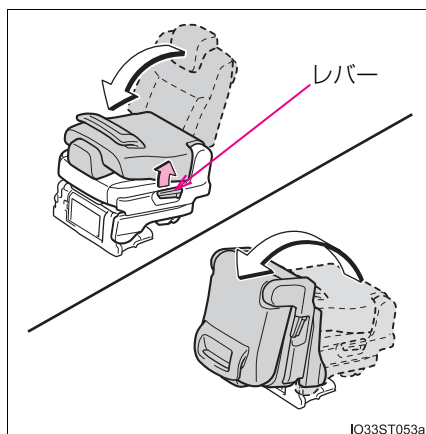


IO33ST062

4 リクライニングレバーを引いて 助手席をタンブルする

リクライニングレバーを引くと、背もたれが前方に倒れ、シートが起き上がります。

助手席をタンブルしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。



IO33ST053a

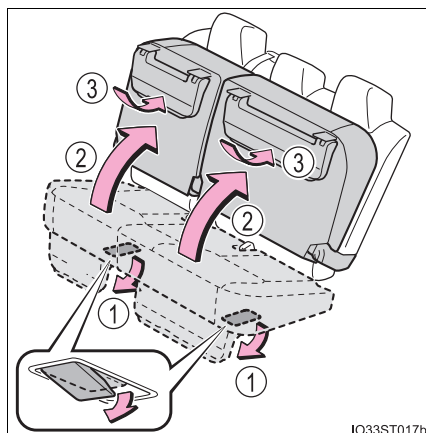
5 リヤシートのクッション部をたたむ

① ロック解除レバーを下方に引く

② クッション部の前端を持ち上げる

引っかかりがないことを確認して、ロック解除レバーを引きながら持ち上げてください。

クッション部を持ち上げたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。



IO33ST017b

③ シート前脚をたたむ

！警告**■シートを操作するときは**

次のことをお守りください。

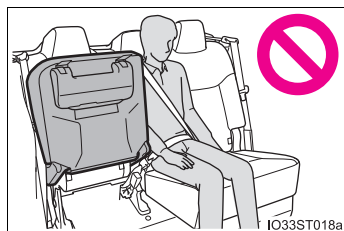
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 必ず平坦な場所でシフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- 走行中はシートを操作しないでください。
- シートを操作したあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートを調整するときは、同乗者や荷物にあてないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないようにしてください。
- シートに人が乗っている状態でシートを調整しないでください。

■リヤシートのクッション部を持ち上げたときは

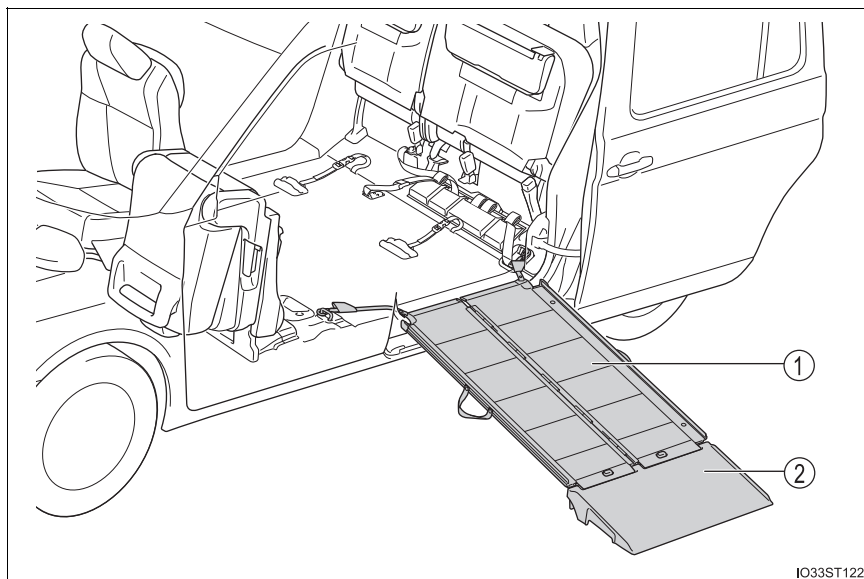
走行するときは、リヤシートのクッション部を持ち上げた状態で中央のシートに座らないでください。

事故のときにクッション部が体を十分に支えきれず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



スロープをセットする

車いすを乗せるのに必要なスロープを車体に組み付けます。



I033ST122

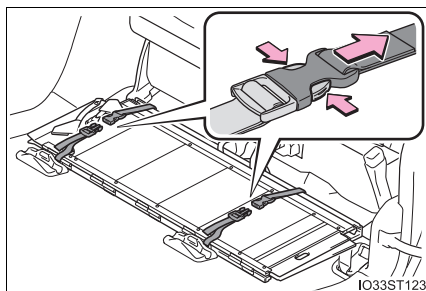
① スロープ No.1

② スロープ No.2

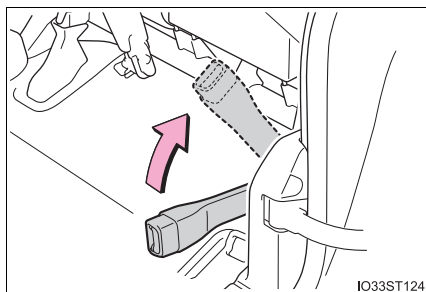
■ スロープをセットするには

- ▶ 歩道の高さが 88mm 以上の場合

- 1 バンドをはずしてスロープの固定をはずす



- 2 車いす乗員用バックルを上げる

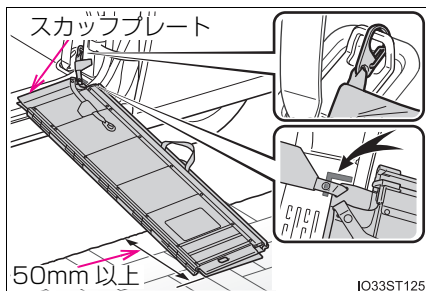


- 3 スロープNo.1のアタッチメントがついているほうの端を車両のスカッププレートにかけ、スロープNo.1の固定ベルトを車体うしろ側の固定箇所固定する

スロープ No.1 のアタッチメントがついていないほうの端を歩道にのせる

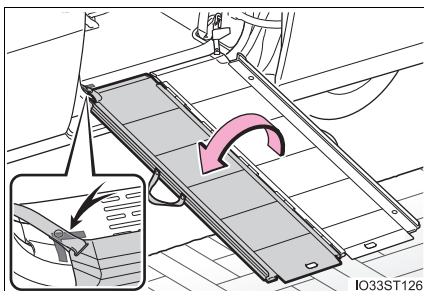
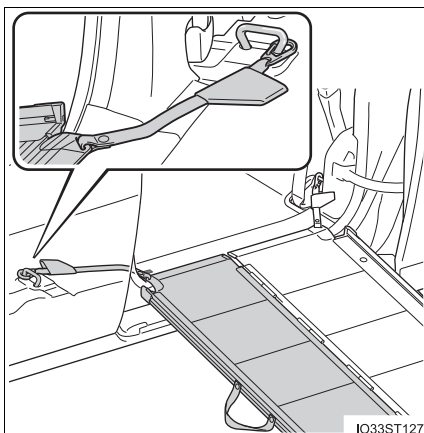
スロープの角をスカッププレートの黄色い線に合わせる

歩道にスロープの端が 50mm 以上かかっていることを確認する

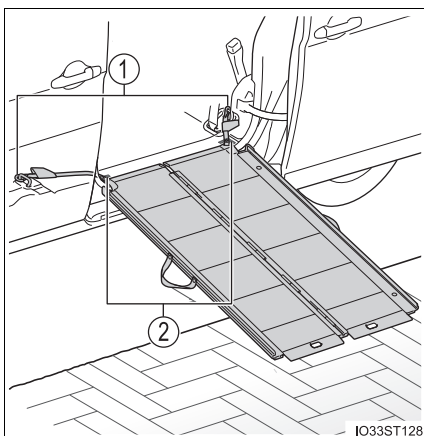


4 スロープ No.1 を開く

スロープの角をスカッフプレートの黄色い線に合わせる

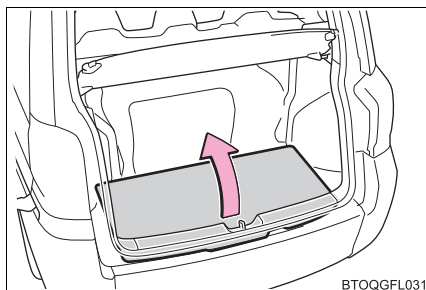
**5** スロープNo.1の固定ベルトを車体前側の固定箇所に固定する**6** 次のことを確認する

- ① スロープNo.1の固定ベルトが確実にロックされているか
- ② スロープNo.1の角がスカッフプレートの黄色い線に合っているか



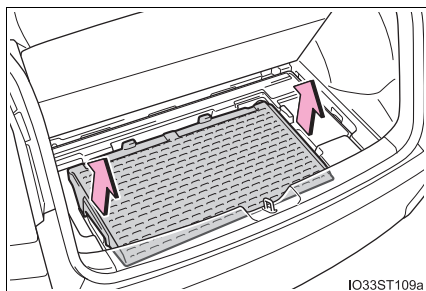
▶ 歩道の高さが 88mm 未満の場合

- 1 バックドアを開け、デッキボードを起こす



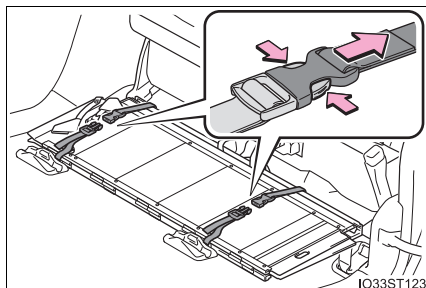
BTOQGFL031

- 2 スロープ No.2 を取り出す



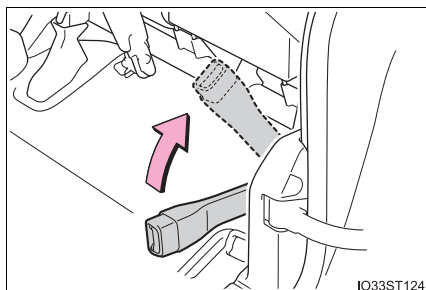
IO33ST109a

- 3 バンドをはずしてスロープの固定をはずす



IO33ST123

- 4 車いす乗員用バックルを上げる



IO33ST124

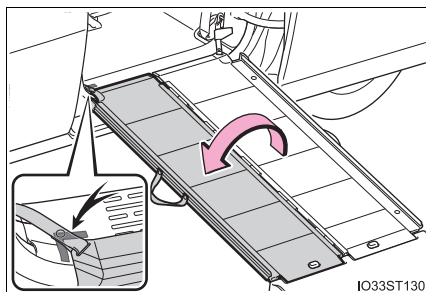
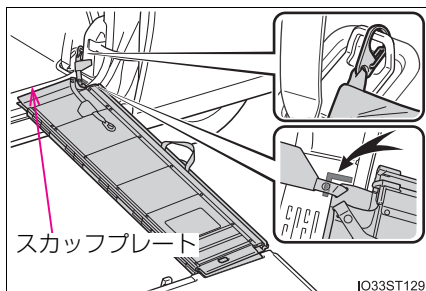
- 5 スロープNo.1のアタッチメントがついているほうの端を車両のスカッフプレートにかけ、スロープNo.1の固定ベルトを車体うしろ側の固定箇所固定する

スロープ No.1 のアタッチメントがついていないほうの端をスロープ No.2 の上にのせる

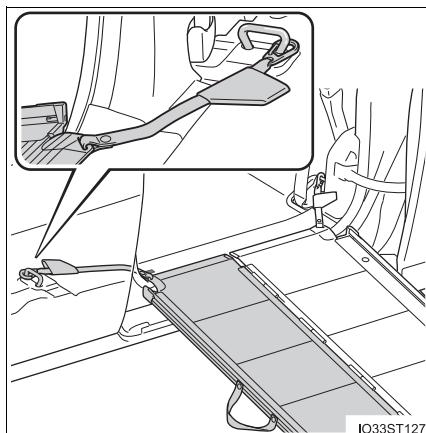
スロープの角をスカッフプレートの黄色い線に合わせる

- 6 スロープ No.1 を開く

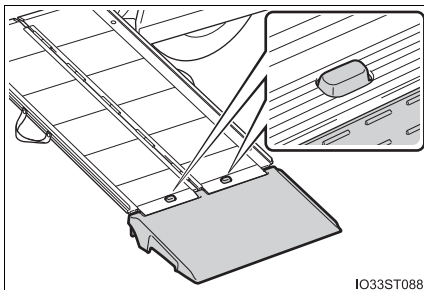
スロープの角をスカッフプレートの黄色い線に合わせる



- 7 スロープNo.1の固定ベルトを車体前側の固定箇所に固定する

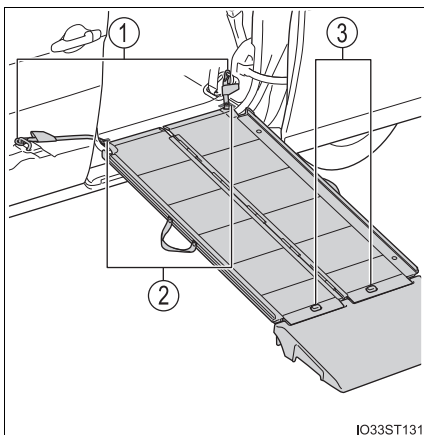


- 8 スロープNo.2の突起とスロープNo.1の穴を合わせる



- 9 次のことを確認する

- ① スロープNo.1の固定ベルトが確実にロックされているか
- ② スロープNo.1の角がスカッププレートの黄色い線に合っているか
- ③ スロープ No.2 の突起がスロープNo.1の穴に入っているか

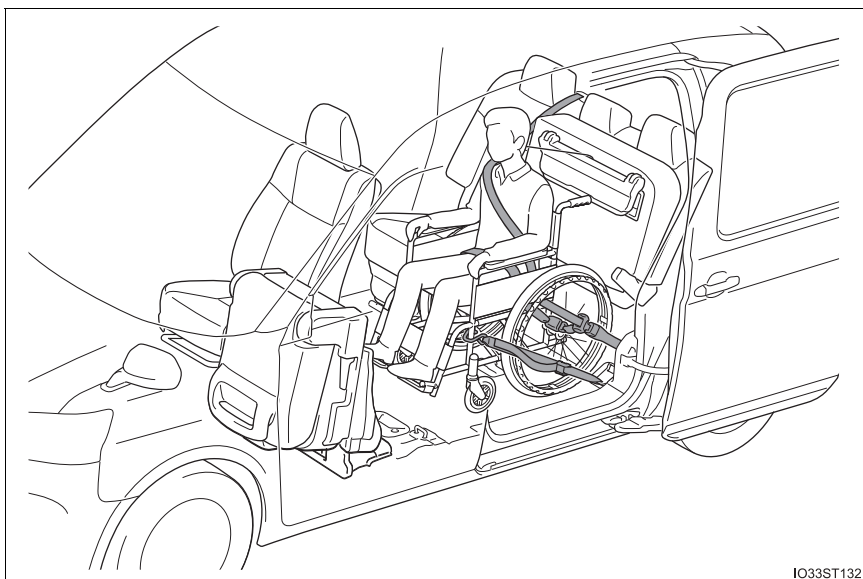


 警告**■ スロープを使用するときは**

- スロープをセットしたあと、スロープ先端が完全に接地していることを確認してください。
段差やスロープ下部にものがあたるなどによりスロープ先端の接地が不十分な状態で乗降すると、介助の方が足を踏みはずして転倒したり、スロープから車いすが転落したりするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、スロープが破損するおそれもあります。
- 乗降は、必ず介助の方が安全に十分注意しながら行ってください。
- 車いすを車両に乗せるときは、必ず車いすが前向き状態で乗せてください。
- 乗降中はハンドルをしっかり持ち、スロープの途中で手を離したり、車いすを放置したりしないでください。
- スロープ表面がぬれている状態で車いすをスロープに乗り入れないでください。スロープ表面がぬれているとすべりやすくなります。スロープ表面の水分をふき取ってから使用してください。
雨天時など、完全に水分をふき取れない場合は、足元に十分注意してください。風の強い場所や風雨の強い日、降雨時や降雪時などは特に注意してください。スロープが風にあおられてけがをするおそれがあり危険です。
- スロープに乗降するときは足元に注意し、スロープ中央を通ってください。中央以外を通ると足を踏みはずし、スロープから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
傾斜したスロープは車いすがバランスをくずしやすく、脱輪や転倒のおそれがあります。車いすの動きに注意し、ゆっくり乗降してください。
- スロープをセットしたまま車を移動させないでください。スロープが損傷したり、スロープが車外の人やものに当たったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車いすを固定する

スロープを使って車いすを車内に乗せ、固定ベルトで車いすを固定します。

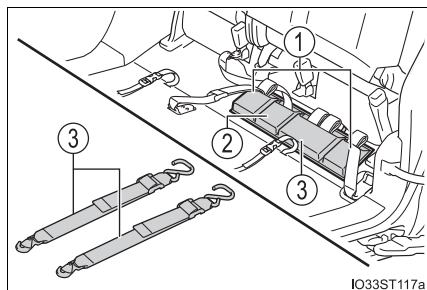


IO33ST132

■ ベルト類の収納位置について

- ① うしろ側固定ベルト（緑色）
- ② シートベルト延長用ベルト（灰色）
- ③ 前側固定ベルト（青色）

※ 前側固定ベルト（青色）は、小径タイヤの車いすを 4 点固定する際に使用します。小径タイヤの車いすをのせる場合は、前側固定ベルト（青色）を取り出しておきます。



IO33ST117a

■ 車いすを固定するには

- 1 スロープを使って車いすを車内に乗せ、車いすを反時計回りに 90° 回転させる

車いすの左手側タイヤが車いす乗員用バックルのすぐ内側にくるように位置を調整してください。

車いすとシートや車いす固定ベルトのアタッチメントが干渉する場合は、干渉しないように車いすの位置を調整してください。

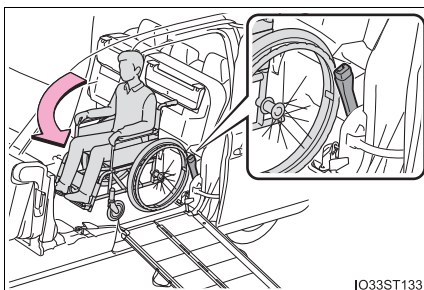
電動車いすの場合、バッテリーがシートクッションに干渉するときは、バッテリーを取りはずしてください。

▶ 大径タイヤの車いす

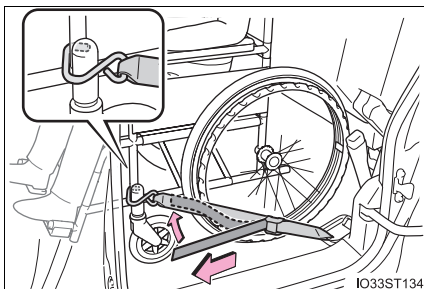
- 2 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、助手席側のうしろ側固定部と車いすを固定する

固定ベルトがドアに挟まれないように端をマジックテープで留めてください。

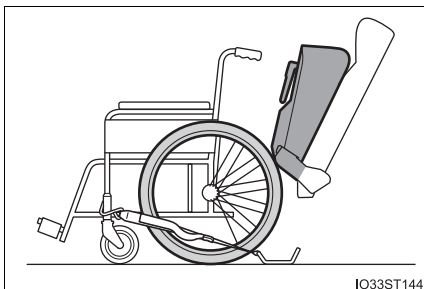
車いす固定ベルトを引っ張るときは、車いすを車両後方に押し、車いすのタイヤをシートクッションに押しつけてから固定する



IO33ST133

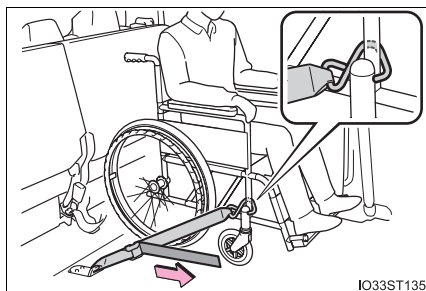


IO33ST134

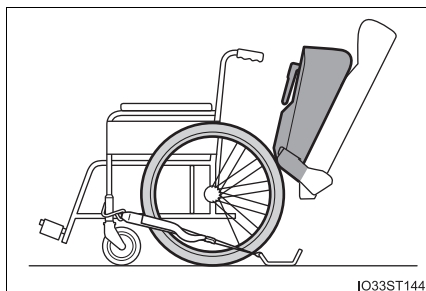


IO33ST144

- 3 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、運転席側のうしろ側固定部と車いすを固定する



車いす固定ベルトを引っ張るときは、車いすを車両後方に押し、車いすのタイヤをシートクッションに押しつけてから固定する

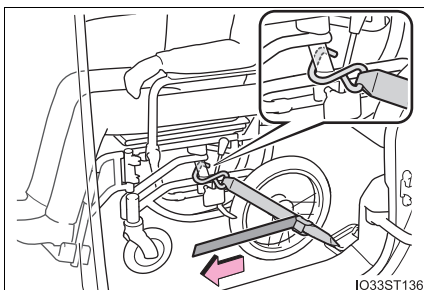


- 4 車いす本体のタイヤのロックをかける

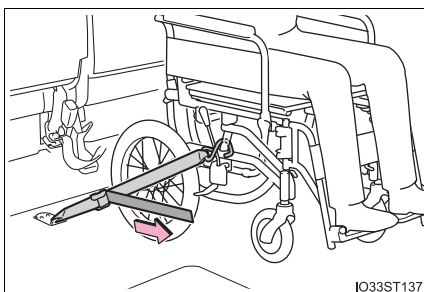
▶ 小径タイヤの車いす

- 2** 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、助手席側のうしろ側固定部と車いすを固定する

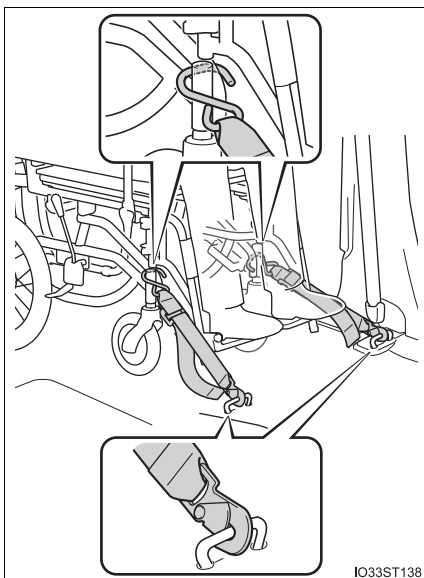
固定ベルトがドアに挟まらないようにしてください。



- 3** 車いす固定ベルトのうしろ側固定ベルト（緑色）を使って、運転席側のうしろ側固定部と車いすを固定する



- 4** 車いす固定ベルトの前側固定ベルト（青色）を使って、前側固定部と車いすを固定する



- 5** 車いす本体のタイヤのロックをかける

 知識

■ リヤシートのクッション部をもとにもどすときは

シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認してください。

 警告

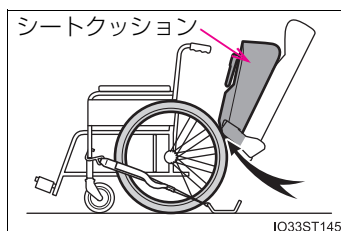
■ 車いすを固定するときは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車いすのタイヤとシートクッションが、しっかり当たっていることを確認してください。

また、タイヤが当たる前に車いすのハンドグリップが当たる場合は、車いす固定ベルトの前側固定ベルト（青色）を使って 4 点固定で固定してください。



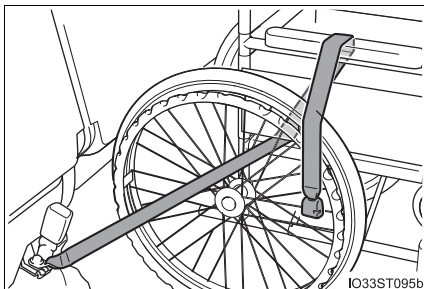
- 車いすを固定したときは、車いす固定ベルトにたるみ、ゆるみがなく、確実に固定されていることを確認してください。
- 車いすを固定したときは、車いすのブレーキを両輪とも確実にかけてください。車いすのブレーキをかけずに走行すると、走行中に車いすが動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シートを操作するときは

運転席を元に戻すときは、車いす乗車の方にあたらないことを確認しながらゆっくりと行ってください。

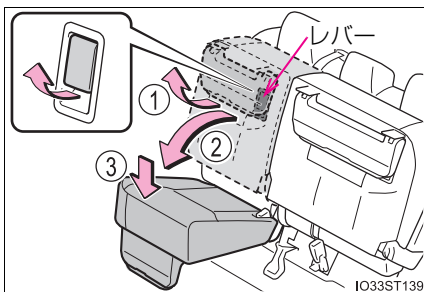
シートベルトを着用する

- 1 シートベルト延長用ベルト（灰色）（→ P. 159）を車いすの右手側アームレストにかける



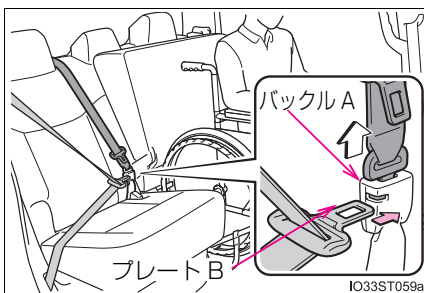
- 2 運転席側リヤシートのクッション部をもとにもどす

- ① シート前脚をおこす
- ② クッションを手で押さえてレバーを引き、レバーを引きながらクッションをおろす
- ③ クッション部の前端を押さえ、シートを固定する



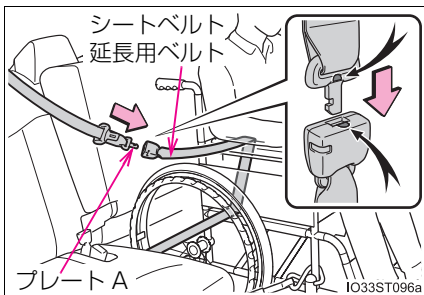
クッション部をおろすときは、シート前脚でものを挟み込んでいないことを確認してください。

- 3 プレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する



- 4 シートベルト延長用ベルト（灰色）のバックルにプレート A を“カチッ”と音がするまで挿し込む

黄色いシールがある側を合わせてください。



- 5 プレート B を車いすの左手側アームレストの下側および車いすのスポークのあいだを通し、バックル B に“カチッ”と音がするまで挿し込む

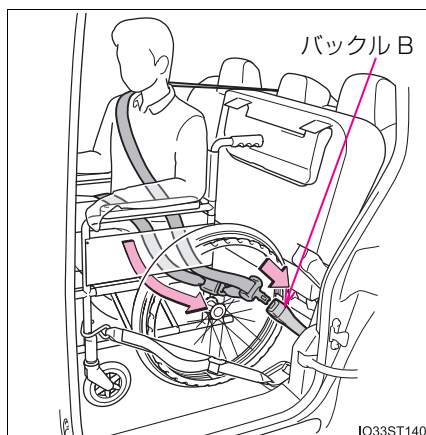
- ・ 肩部ベルトは肩に十分かけ、首にかかったり肩からはずれないようにしてください。肩からのベルトずれが気になるときは、リルーターを使用してください。

(→ P. 168)

- ・ 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。

- ・ シートベルトにねじれがないようにしてください。

- ・ シートベルト装着後に、シートベルトおよび車いす固定ベルトにたるみ、ゆがみがないことを確認してください。



警告

■シートベルトを着用するときは

- シートベルトの着用は必ず介助の方が行い、正しく着用されていることを確認してください。

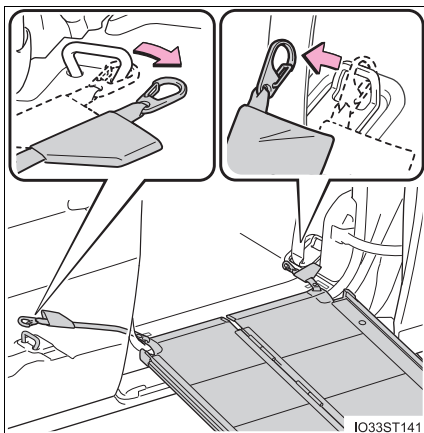
シートベルトは正しく着用しないと、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトは必ずアームレストの下側およびスポークのあいだを通してください。

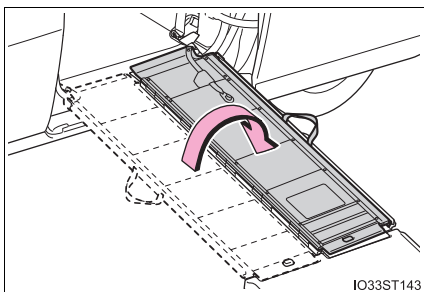
シートベルトがアームレストにかかった状態で着用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スロープを収納する**■ スロープ No.1 をたたむ**

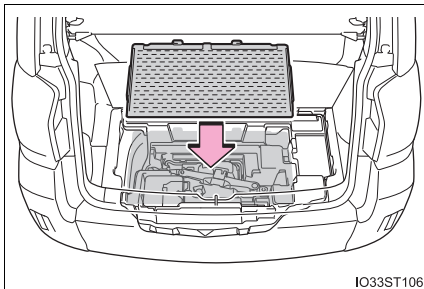
- 1 スロープ No.1 の固定ベルトを車体の固定箇所からはずす



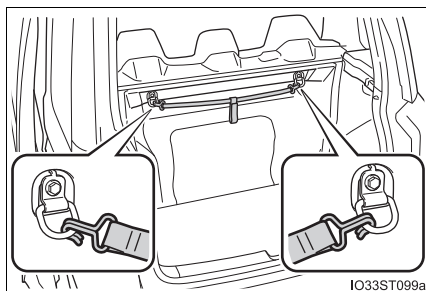
- 2 スロープ No.1 を折りたたむ



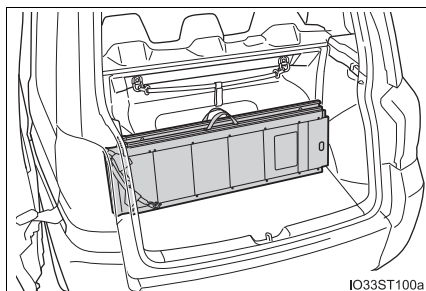
- 3 歩道の高さが 88mm 未満の場合：スロープ No.2 をラゲージルーム内のデッキボード下に収納する



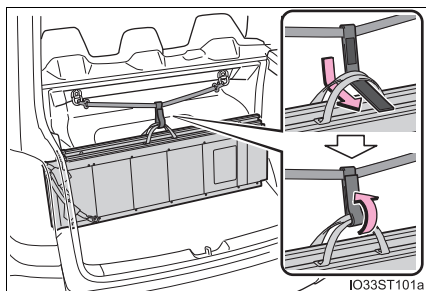
- 4 スロープ収納ベルト
(→P. 148)のフックをラゲージルーム内のフックに引っ掛ける



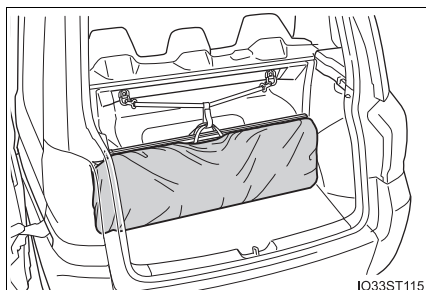
- 5 スロープNo.1をラゲージルーム内に立てかける



- 6 スロープ No.1 の取っ手にスロープ収納ベルトを通して留める



- 7 スロープNo.1にカバーをかける

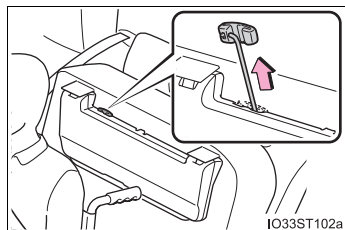


 知識

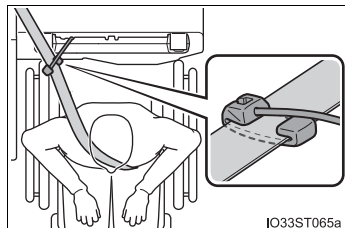
■ リルーターについて

シートベルトを装着した際に、肩からのベルトずれが気になるときは、リルーターを装着してください。リルーターはリヤシート前脚の裏側に収納されています。

1 リルーターを取り出す



2 リルーターにシートベルトを通す



■ スロープの手入れについて

水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ってください。

■ ベルト類の手入れについて

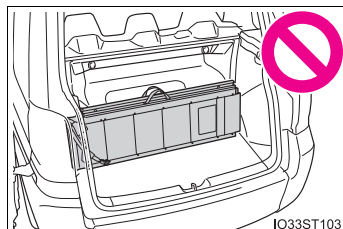
中性洗剤またはぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ってください。

ベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 注意

■ スロープ No.1 をラゲージルームに収納するときは

- 必ずフックに引っ掛けて収納してください。(→ P. 167)



- スロープ No.1 のラゲージルームへの収納は、車いすで乗車しているときのみに行ってください。車いすを固定していないときは、リヤシートの下に収納してください。

車いすの固定を解除・車内から降ろす

車内に乗せて、固定したときと逆の手順で行います。

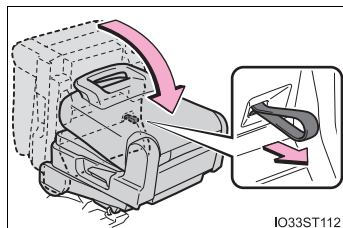
📖 知識

■ リヤシートのクッション部をもとにもどすときは

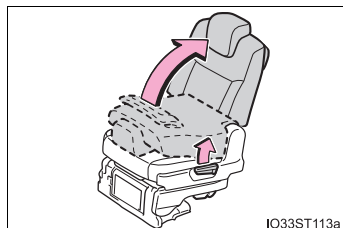
シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認してください。

■ 助手席をもとにもどすときは

- 1 ストラップを引いてシートを回転させる



- 2 リクライニングレバーを引いて背もたれをもどす



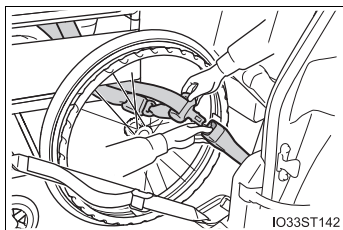
助手席をもどしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

警告**■ 車いすを降ろすときは**

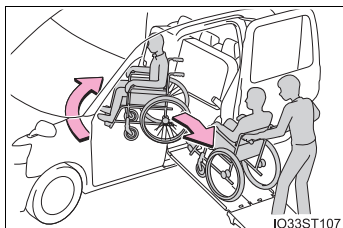
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

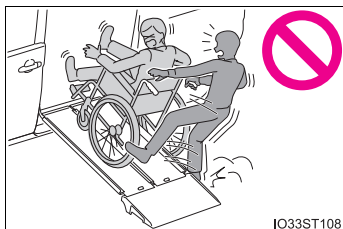
- シートベルトをはずすときは、プレート B をしっかり手で持ってはずしてください。手で持てはずさないでシートベルトが勢いよくもどり、プレート B が顔などに当たる場合があります。



- 車いすを車両から降ろすときは、車いすを車内で時計回りに 90° 回転させ、車いすとスロープを平行にしてから、車いすがうしろ向きの状態で降ろしてください。



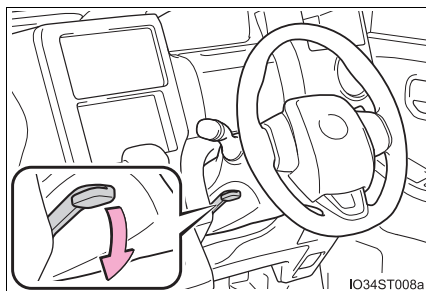
- 車いすを車両から降ろすときは、車いすのハンドルをしっかり持ち、後方にも注意しながら降ろしてください。



ハンドル

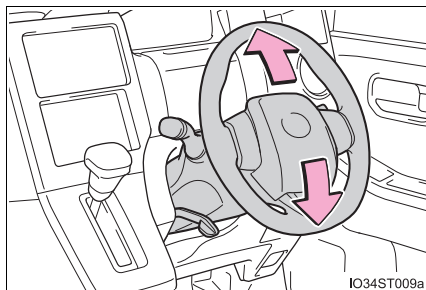
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



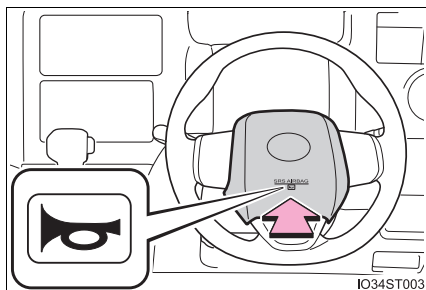
- 2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

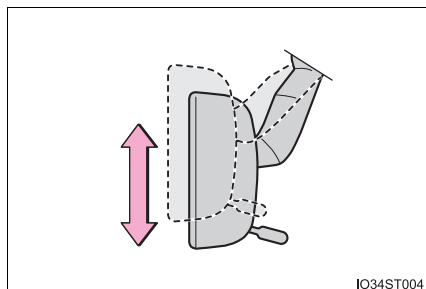
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

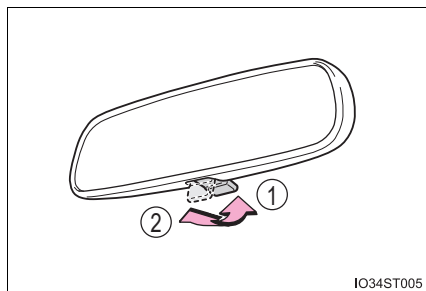
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

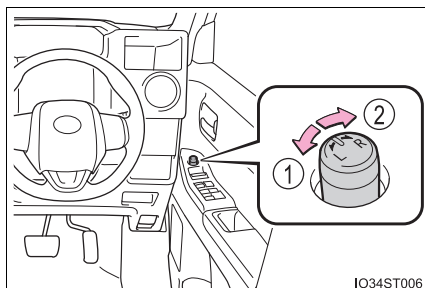
アウターミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

調整のしかた

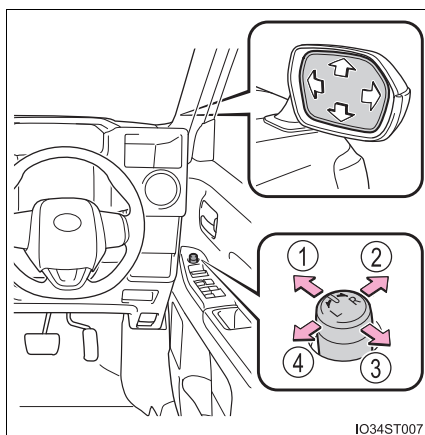
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ACC” または “ON” のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 306）

■ 寒冷時にアウターミラーを使用するとき

寒冷時にアウターミラーが凍結していると、アウターミラーの鏡面の調整ができない場合があります。アウターミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- 走行前に必ず、運転席および助手席側のミラーを正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

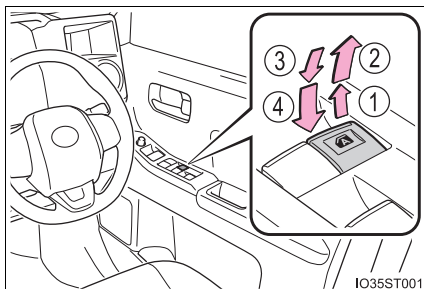
パワーウィンドウ

開閉のしかた

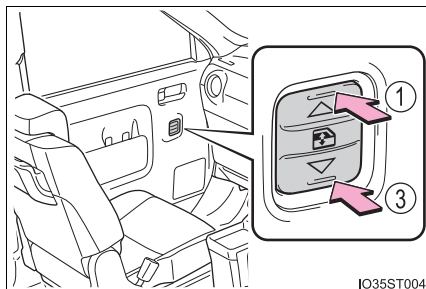
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ 運転席



▶ 助手席・リヤ左側席



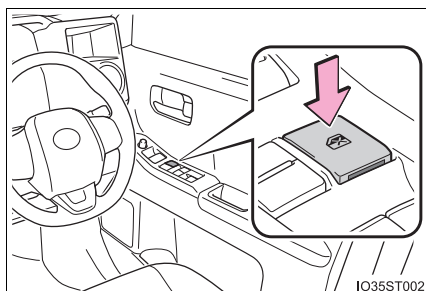
- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席）※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ LPG ハイブリッドシステム停止後の作動（運転席のみ）

パワースイッチを“ACC” または“LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないとき（運転席のみ）

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、パワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、パワースイッチを“ON” の状態で、挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- ① パワースイッチを“ON” にする
- ② パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- ③ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- ④ パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- ⑤ いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- ⑥ 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

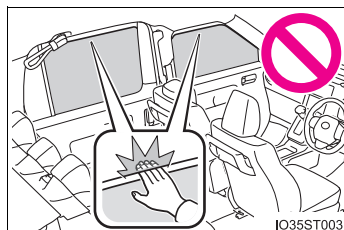
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 176)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはパワースイッチを“LOCK”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能（運転席のみ）

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	180
荷物を積むときの注意	189

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション） スイッチ	190
EV ドライブモード	195
トランスミッション	197
方向指示レバー	200
パーキングブレーキ	201

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	202
AHB（オートマチック ハイビーム）	207
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	211
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	214

4-4. 燃料補給のしかた

燃料補給口の開け方	216
-----------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	222
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	232
LDA（レーンディパーチャー アラート）	245
PDA（プロアクティブ ドライビングアシスト）	251
RSA（ロードサイン アシスト）	258
発進遅れ告知機能	263
BSM（ブラインド スポットモニター）	265
クリアランスソナー	272
PKSB（パーキングサポート ブレーキ）	281
パーキングサポートブレーキ （前後方静止物）	287
運転を補助する装置	290

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転の アドバイス	297
寒冷時の運転	299

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

LPG ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 190

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 197)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 201)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
停車する場合は、シフトレバーを P にします。(→ P. 197)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 201)、シフトレバーを P にする (→ P. 197)
- 3 パワースイッチを “LOCK” にして LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め[※]を使用してください。
[※]輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- ・ R に切りかえたとき ※
- ・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように LPG ハイブリッドシステム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ 停車するときは

シフトレバーが N では、LPG エンジンが回転していても、駆動用電池は充電されません。

N レンジで一定時間停車すると、駆動用電池の残量が低下し、走行不能となるおそれがあります。

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 290）

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常の LPG 車と同様の心がけが必要です。（→ P. 297）

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■冷間時の短距離走行について

冷間時に、短距離走行などで LPG エンジンの暖機が完了する前に LPG ハイブリッドシステムを停止すると、LPG エンジン内に発生した水分がエンジンオイルに混入することがあります。

この水分は暖機後の走行で徐々に蒸発するので、性能への影響はありません。

■LPG ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 404）

■ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止（→ P. 291）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 291）
- タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→ P. 111）
 - ・パワースイッチを“ON”にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。
 - ・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。



警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にLPGハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にLPGハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 392を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 197)
- 走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、LPGハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、LPG ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、または LPG ハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ず LPG ハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故や LPG ハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■床下に衝撃を受けたとき

走行中、車両床下に強い衝撃を受けたときは思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。ただちに安全な場所に停車し、LPG ハイブリッドシステムを停止して車両下部に損傷が無いか確認してください。

 注意**■運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

 注意**■ 部品の損傷を防ぐために**

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 416, 428 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでの LPG エンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- LPG エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良
- LPG ハイブリッドシステムの異常

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノカバー
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

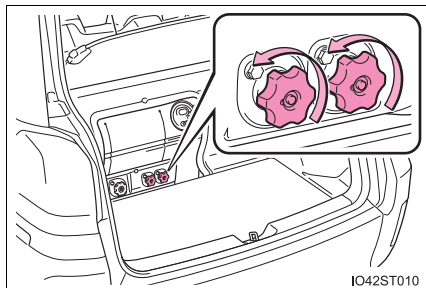
- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

パワー（イグニッション）スイッチ

LPG ハイブリッドシステムを始動する前に

- 1 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーをはずす（→ P. 217）
- 2 燃料取り出しバルブ（メインバルブ、リターンバルブ）をゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く



- 3 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーを取り付ける

LPG ハイブリッドシステムの始動のしかた

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかり踏む
- 4 パワースイッチを“START”の位置にまわす

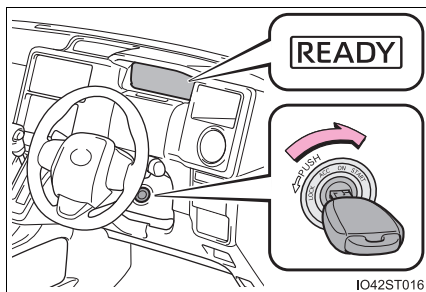
READY インジケーターが点灯すれば、LPG ハイブリッドシステムは正常に作動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

LPG表示灯が点滅することがありますが、異常ではありませんので消灯するまでお待ちください。

- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅または消灯している状態では走行できません。

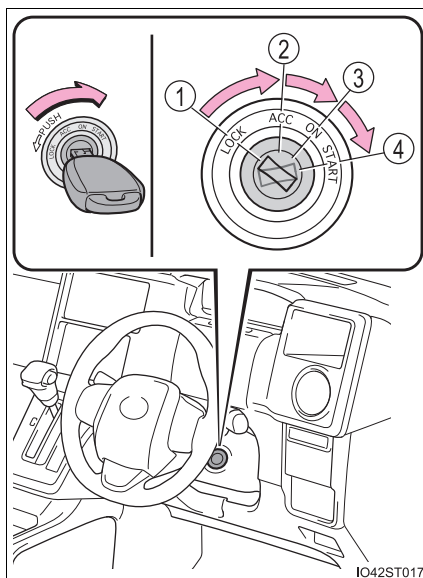


LPG ハイブリッドシステム停止のしかた

- ① 車両を完全に停止させる
- ② パーキングブレーキをかけて（→ P. 201）シフトレバーを P の位置にする
- ③ パワースイッチを “ACC” または、“LOCK” の位置にまわす（→ P. 191）

パワースイッチの位置の切りかえ

- ① “LOCK”（OFF）
キーを抜き挿しできます（シフトレバーが P のときのみ）。
- ② “ACC”
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”
すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
LPGハイブリッドシステムが始動できます。



IO42ST017

LPG ハイブリッドシステムが始動できないときは

燃料過流防止弁が作動していることがあります。次のことを行ってください。

- 1 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーをはずす (→ P. 217)
- 2 左側のメインバルブを右にいっぱいまでまわして締めてから、再度メインバルブを左に $1/3 \sim 1/2$ まわす

右側のリターンバルブは開けたままにしておいてください。

- 3 LPG ハイブリッドシステムを始動する

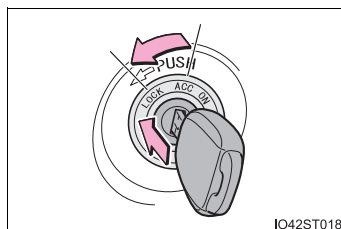
LPG ハイブリッドシステムが始動したら、左側のメインバルブを左にいっぱいまでまわして開けます。

LPG ハイブリッドシステムが始動しない場合の対処法は P. 439 を参照してください。

知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 89

■外気温が低いときは

LPG ハイブリッドシステム始動時に READY インジケータの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケータが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■LPG ハイブリッドシステム始動時、パワー スイッチを“ON”にして、LPG 表示灯が点滅したときは

→ P. 403

■走行中、LPG 表示灯が点滅したときは

→ P. 311, 403

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

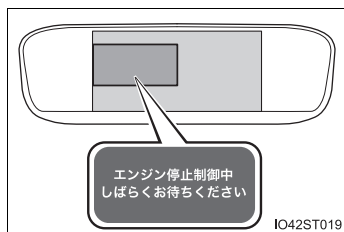
正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■LPG エンジンの始動性の悪化を防ぐために

寒冷時に短距離走行などでLPGエンジンの暖機が完了する前にLPGハイブリッドシステムを停止すると、点火プラグに排気ガス中の水分が付いて、LPG エンジンの始動性が悪くなることがあります。

寒冷時にLPGエンジンの暖機が完了する前にLPGハイブリッドシステムを停止する場合は、約3分半程度LPGハイブリッドシステムの作動を継続させてから停止してください。

また、LPG ハイブリッドシステムを停止しても、LPG エンジンがしばらくの間作動し続けることがあります。システムの正常な作動であり故障ではありません。LPG エンジン作動中は、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン停止制御中 しばらくお待ちください」が表示されます。



■LPG ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります（→ P. 95）。トヨタ販売店へご連絡ください。

●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。LPG ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P以外の位置にするとLPG ハイブリッドシステムを始動することができない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「始動時はPレンジに入れてください」が表示されます。

■LPG ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 92

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

 警告**■ LPG ハイブリッドシステムを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はパワースイッチを“LOCK”にしないでください。

緊急時、走行中に LPG ハイブリッドシステムを停止したい場合には“ACC”にしてください。ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に LPG ハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあります。(→ P. 392)

 注意**■ 補機バッテリーあがりを防止するために**

LPG ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ LPG ハイブリッドシステムを始動するとき

もし LPG ハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

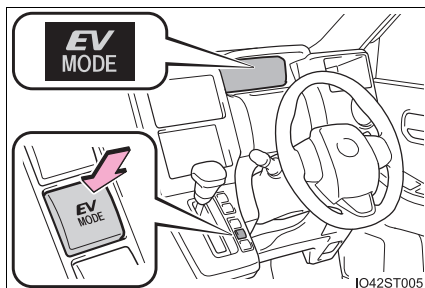
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON / OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（LPG エンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- LPG ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- LPG ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- LPG エンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 110）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ LPG エンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

LPG エンジンが冷えているときに LPG ハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のため LPG エンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

LPG ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、LPG エンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（LPG エンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 110）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

LPG ハイブリッドシステムは、通常走行（LPG エンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードに現在切りかえできません」と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EV モードが解除されました」と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。



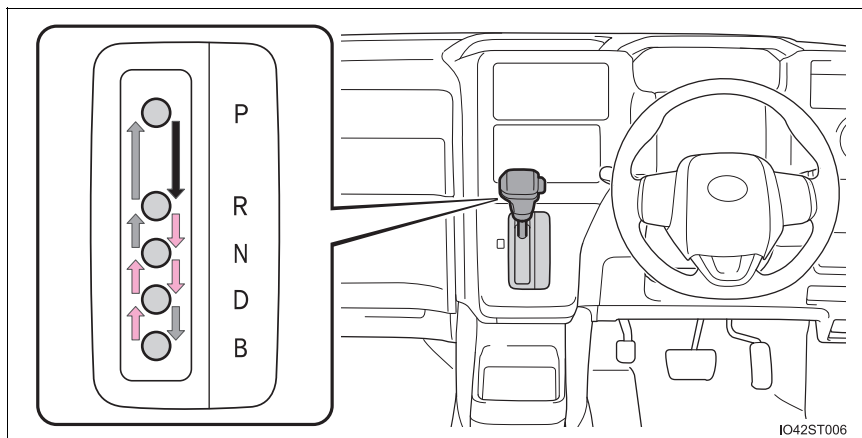
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置が作動していないときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



← パワースイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーボタンを押したまま操作します。

← シフトレバーボタンを押したまま操作します。

P から他ポジションへ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車または LPG ハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 181

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

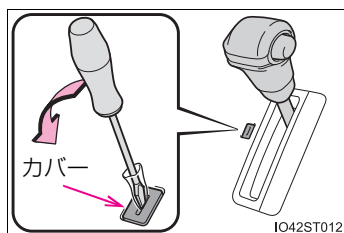
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを“LOCK”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 カバーをはずす

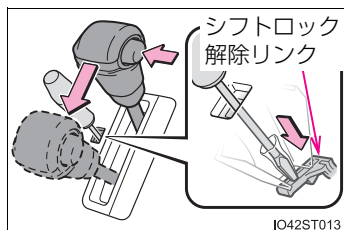
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの工具の先端に、布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除リンクを押す

解除リンクを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



 警告**■ すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジnbrレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除リンクを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除リンクを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、LPG エンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

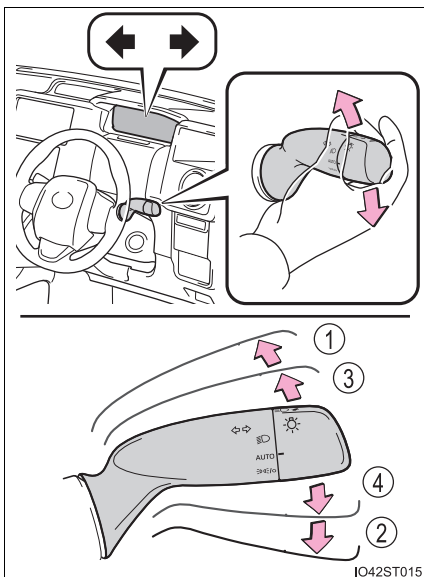
操作のしかた

- ① 左折
- ② 右折
- ③ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

- ④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

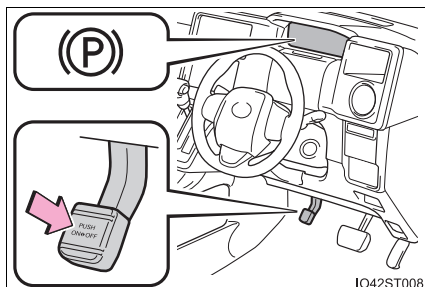
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）



知識

- 駐車するとき
→ P. 180
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 300
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 405

注意

■ 走行前の注意

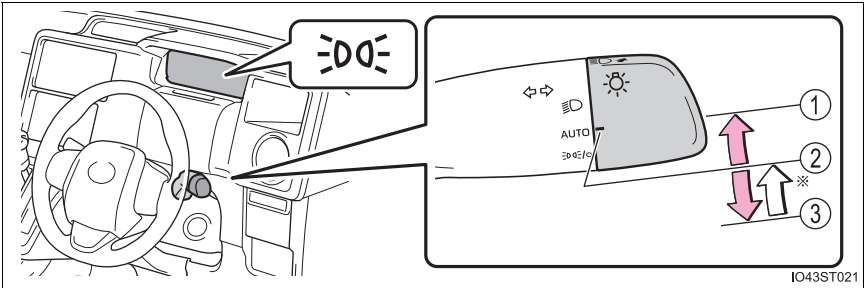
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※ ¹	LED デイライト非装着車： ヘッドランプ・スモールランプが消灯 LED デイライト装着車： LED デイライト (→ P. 204) が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

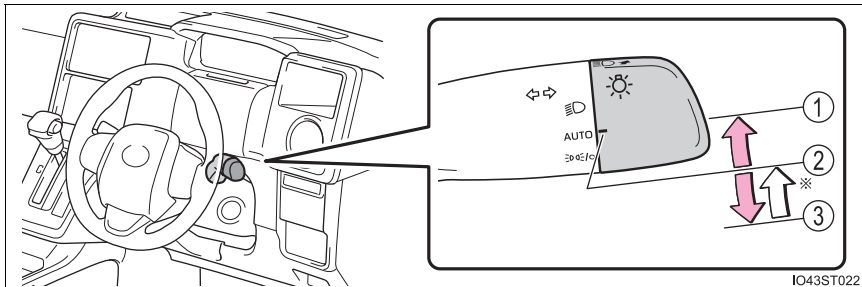
※¹ 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☀ スイッチを③  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①  か③  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ 	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト★ (→ P. 204) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

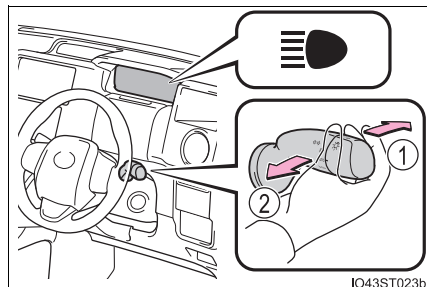
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

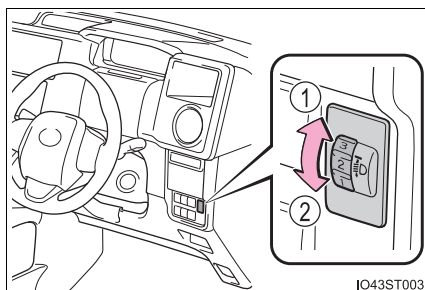


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	ハロゲンランプ	LED ランプ
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	1	1.5
全乗員	ラゲージルーム満載時	1.5	1.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5	3.5

□ 知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ LED デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、LPG ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

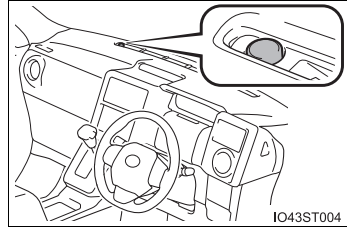
■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを“ACC”または“LOCK”にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

パワースイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに「ライトが点灯しています」が表示されます。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが“LOCK”の状態ではヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを“ON”にすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 461)

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

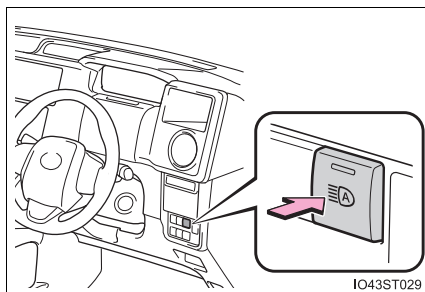
LPG ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

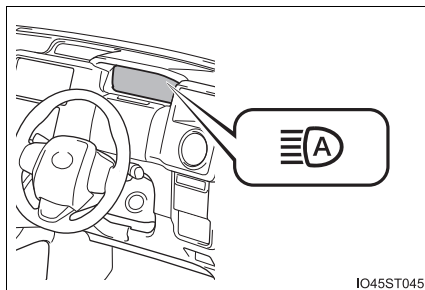
オートマチックハイビームを使うには

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチを AUTO または  にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。

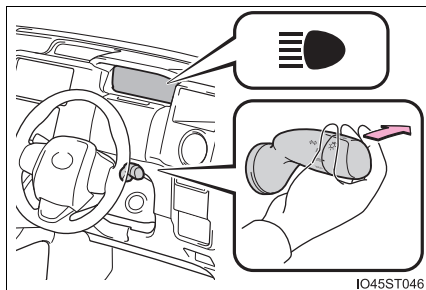


手動制御に切りかえるには**■ ハイビームへの切りかえ**

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

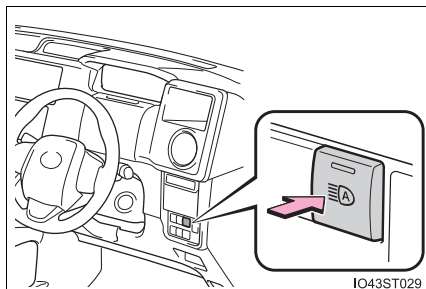
オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

**■ ロービームへの切りかえ**

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

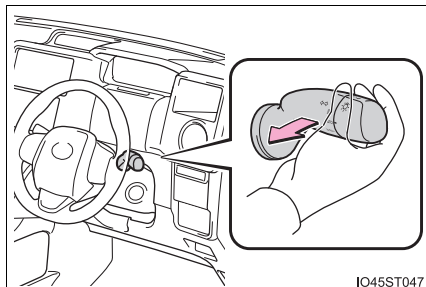
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

**一時的なロービームへの切りかえ**

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



 知識**■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
 - ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 228
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるとき
 - ・ システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 223
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 228

 警告**■ 安全にお使いいただくために**

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 223

 注意**■ オートマチックハイビームを正しく作動させるために**

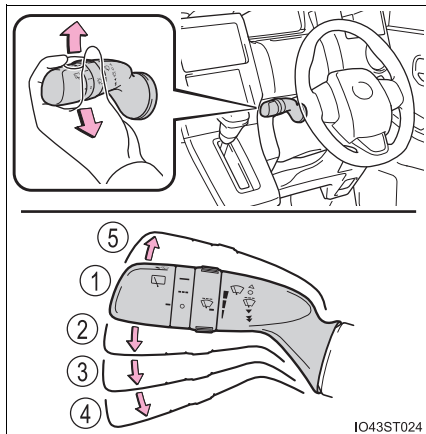
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

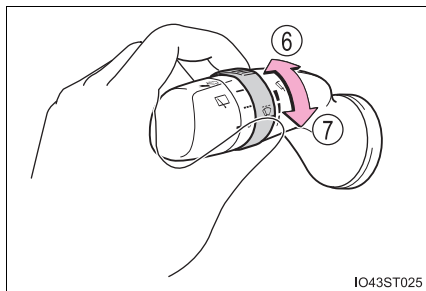
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① ○ 停止
- ②  間欠作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼ 高速作動
- ⑤ △ 一時作動



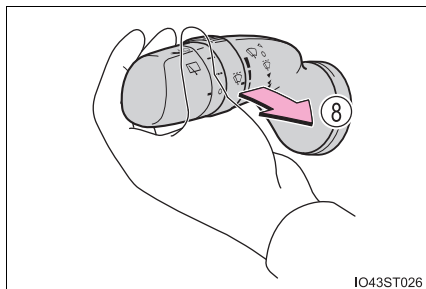
間欠作動を選択しているとき、間欠作動の作動頻度を調整することができます。

- ⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（減）
- ⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



- ⑧  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ 車速による作動への影響

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。(間欠ワイパーの作動頻度が最大に調整されているときは、低速作動を続けます)

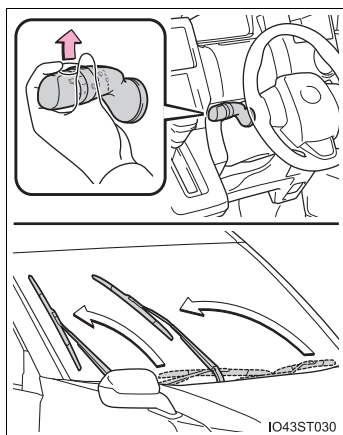
■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ サービスポジションへ切りかえる

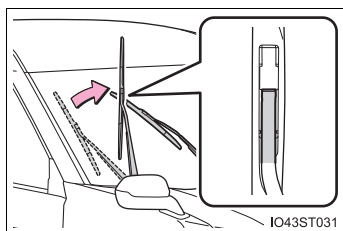
パワースイッチを“LOCK” にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを ▲ の位置で約 2 秒以上保持する。

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



■ ワイパーを格納位置に戻すには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパーを操作してください。作動後は格納位置で停止します。

 警告**■ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

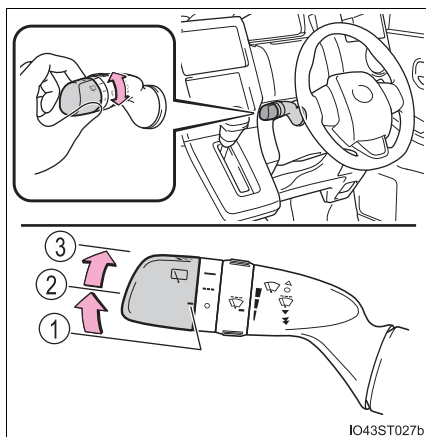
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

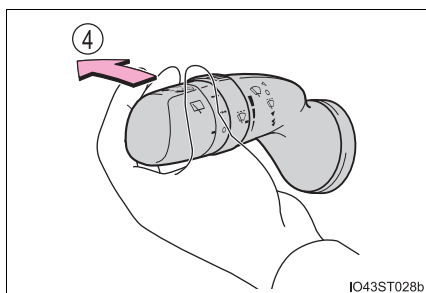
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーまたは、ウォッシャーが作動します。

- ① ○ 停止
- ② --- 間欠作動
- ③ — 通常作動



- ④  ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



 知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトレバーを R にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

 注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがり防止のために

バッテリーあがり防止のためにエンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

燃料補給口の開け方

補給（充てん）する前に

ドアとドアガラスを閉めて、パワースイッチを“LOCK”にしてください。

知識

■ 燃料の種類

LP オートガス

■ スライドドアが全開にならない状況

燃料補給口のフタが開いていると、スライドドアはわずかにしか開きません。
(→ P. 123)

パワースライドドア開閉中に燃料補給口のフタを開けるとブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。

警告

■ 補給（充てん）について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- LP オートガス補給（充てん）は、スタンドの係員におまかせください。また LP オートガス補給（充てん）時は、スタンド指定の場所以外で火気を取り扱わないでください。引火するおそれがあり危険です。
- 指定燃料は LP オートガスです。指定以外の燃料を補給（充てん）しないでください。

注意

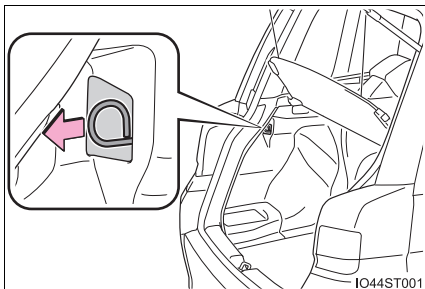
■ 補給（充てん）するときは

車両に入っている燃料のプロパン率と、スタンドの燃料のプロパン率が異なると補給（充てん）しにくくなることがあります。例えば、プロパン率 100%の燃料が入っている車両に、プロパン率 30%の燃料を補給（充てん）しようとすると、補給（充てん）できないことがあります。

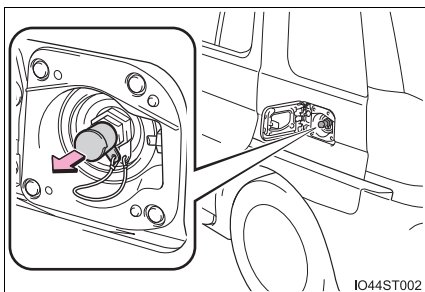
いつも同じスタンド（同じプロパン率）で補給（充てん）することをおすすめします。

燃料を補給するときは

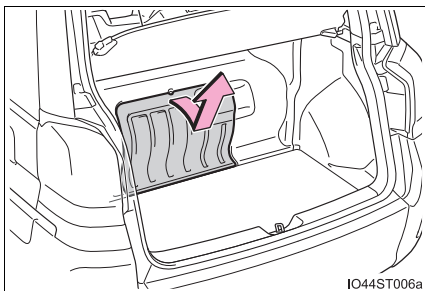
- 1 バックドアを開け (→ P. 132)、
レバーを引いて燃料補給口のフタを開ける



- 2 燃料補給口のビニールキャップをはずす

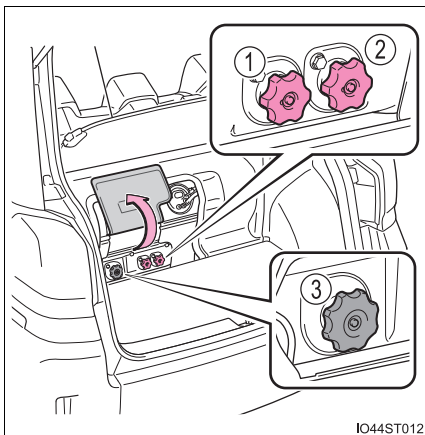


- 3 カバーをはずす

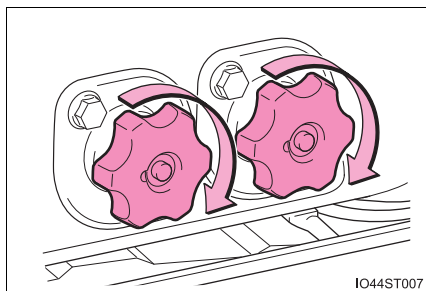


- 4 インナーカバーを上げる

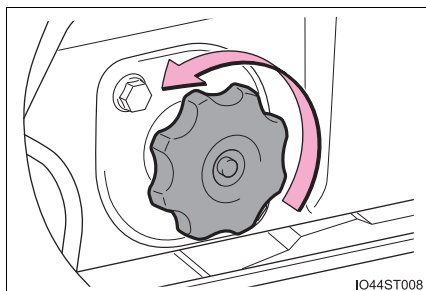
- ① 燃料取り出しバルブ (メインバルブ)
- ② 燃料取り出しバルブ (リターンバルブ)
- ③ 燃料充てんバルブ



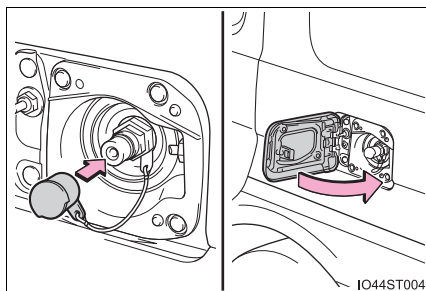
- 5 燃料取り出しバルブ（メインバルブ、リターンバルブ）を右にいっぱいまでまわして締める



- 6 燃料充てんバルブを左にいっぱいまでまわして開く



- 7 LP オートガス充てんガンを実際にセットし注入する
- 8 燃料充てんバルブを右いっぱいまでまわして締める
- 9 メインバルブ、リターンバルブをゆっくりと左にいっぱいまでまわして開く
- 10 燃料取り出しバルブのカバーとインナーカバーを取り付ける
- 11 LP オートガス充てんガンははずし、補給口にビニールキャップを付けて燃料補給口のフタを閉める



知識

■ LPG 燃料冷却システムについて

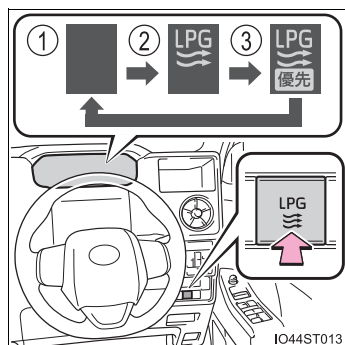
LPG 燃料冷却システムは、LPG エンジンから燃料タンクにもどる燃料を冷却しタンク内燃料温度の上昇を抑制することで、タンク内圧の上昇を抑制します。これにより、スタンドでの燃料補給（充てん）をしやすくします。燃料冷却にはエアコンの冷媒を利用しており、エアコンが作動しているときに燃料冷却システムが作動します。

LPG 燃料冷却システムを作動させるには、エアコンを作動させ、LPG 燃料冷却スイッチを押します。

LPG 燃料冷却スイッチを押すごとに、次のようにモードが切りかわります。

LPG 燃料冷却スイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに現在のモードが表示されます。

- ① オフ（システム停止）
- ② ノーマル（通常作動）
- ③ 優先（優先作動）



下表を参考に LPG 燃料冷却システムのモードを使い分けてください。

モード	作動内容
オフ (システム停止)	燃料冷却が必要な時以外は、オフ（システム停止）を選択し、LPG 燃料冷却システムが停止した状態を推奨します。
ノーマル (通常作動)	燃料冷却が必要な場合の通常モードです。 燃費と空調を優先させて、必要な時に必要な分だけ燃料を冷却します。
優先 (優先作動)	ノーマル（通常作動）で補給（充てん）できない場合に使用してください。 LPG 燃料冷却システムを優先するため、エアコンのききや燃費が悪化することがあります。

■LPG 燃料冷却システムを使用するときは

LPG 燃料冷却システムを使用するときは下図を参考に使用してください。

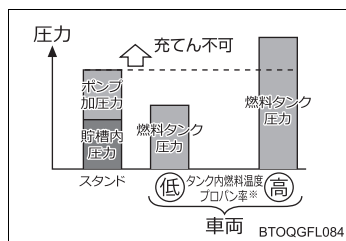
季節	使用タイミング
夏期 (気温 25℃以上)	常時 LPG 燃料冷却システムを作動させてください。
春・秋期 (気温 10～25℃)	燃料補給(充てん)前に LPG 燃料冷却システムを作動させておいてください。 LPG 燃料冷却システム作動後、およそ 3 時間以内に補給(充てん)できるようになります。
冬期 (気温 10℃以下)	常時 LPG 燃料冷却システムを作動させてください。

■エアコンの点検について

エアコンが故障していたり、冷媒が不足していたりすると、燃料冷却不足となり燃料補給できなくなる場合がありますため、定期的にエアコンを点検してください。

■LPG ガス補給(充てん)のしくみ

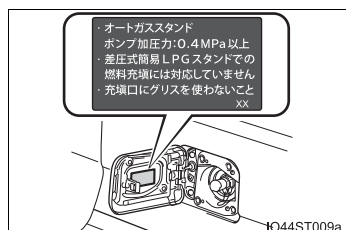
スタンドの補給(充てん)装置のポンプ加圧力と、車両の燃料タンク圧力の関係は右図のようになります。



※ LPG 燃料中に含まれるプロパン成分の割合をプロパン率といいます。

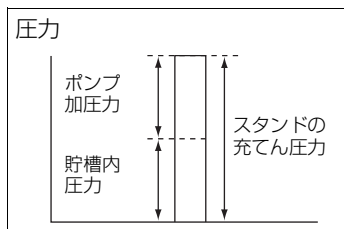
■補給(充てん)できるスタンドの条件

ポンプ加圧力が 0.4MPa 以上のスタンドで補給(充てん)できます。補給(充てん)の際は、スタンドにご確認ください。
なお、差圧式簡易 LPG スタンドでの補給(充てん)には対応していません。



■ポンプ加圧力とは

スタンドの補給（充てん）装置のポンプ加圧力のことです。



■燃料タンク容量（参考値）

58L

保安基準により、タンク容量の 80%が最大補給（充てん）量となります。

■燃料の補給（充てん）について

LPG ハイブリッド車も、燃料がなければ走行できません。燃料が少なくなる前に、早めに補給（充てん）してください。燃料残量警告灯（→ P. 403）が点灯したら、すみやかに燃料を補給（充てん）してください。

■燃料タンクの所有者表示について

LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、車両の所有者とタンクの所有者が異なる場合は、タンクには所有者表示が義務付けられています。

■燃料タンクの検査について

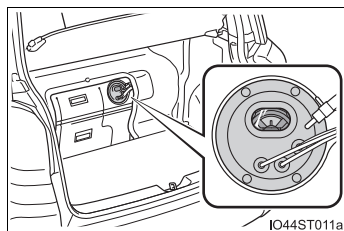
LP オートガスは「高圧ガス保安法」の適用を受けますので、タンクおよびバルブには定期的な検査が義務付けられています。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■燃料計について

燃料計はラゲージルーム内にあります。外周の数字がタンク内の燃料容量を%表示で表します。

燃料計はメーター内にもあります。

（→ P. 102）



■燃料補給口のフタ閉め忘れ防止について

READY インジケーターが点灯しているときに燃料補給口のフタが開く、または燃料補給口のフタが開いた状態で LPG ハイブリッドシステムを始動すると、マルチインフォメーションディスプレイに「LPG 充填口開検知 安全な場所に停車して閉じてください」が表示され、警告ブザーが鳴ります。

走行中の場合は安全な場所に停車して、燃料補給口のフタを閉めてください。また、LPG ハイブリッドシステムを始動する場合は燃料補給口のフタを閉めてください。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。
対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

 警告**■ システムを OFF にする必要があるとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

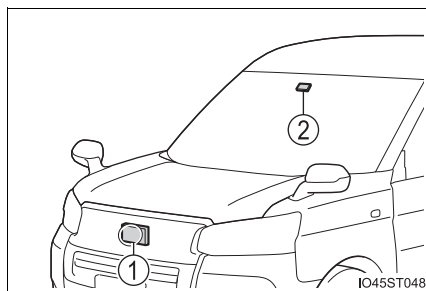
- AHB（オートマチックハイビーム）
→ P. 207
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→ P. 232
- LDA（レーンディパーチャーアラート）
→ P. 245
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
→ P. 251
- 発進遅れ告知機能
→ P. 263
- RSA（ロードサインアシスト）
→ P. 258

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

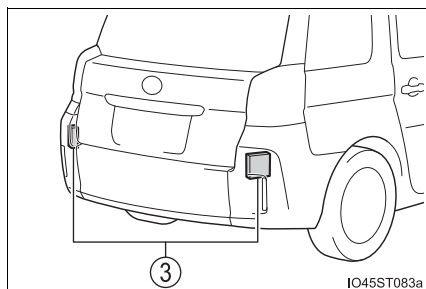
複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

- ① 前方レーダー
- ② 前方カメラ



- ③ 後側方レーダー★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

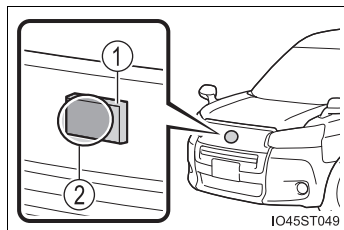
● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

① レーダー

② レーダー専用カバー



● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ ヒーター機能付レーダー専用カバーについて★

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性がある場合とシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

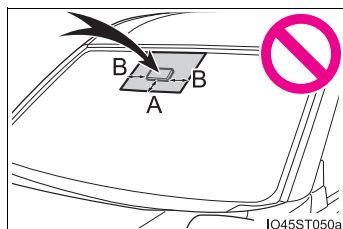
フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

- ・フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：約 4cm

B：約 4cm



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せず交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない

 警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

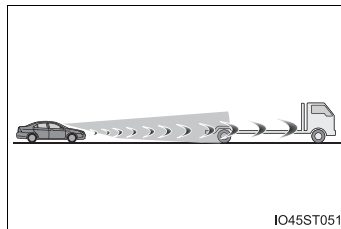
フロントウインドウガラスが曇る可能性があるときシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 知識

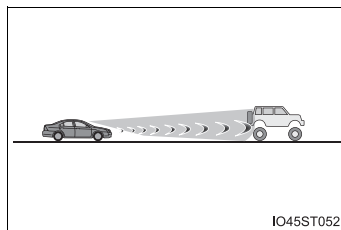
■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール
 - ・ ガードレール
 - ・ 鉄板
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれているとき
- 対象車両に雪や泥などが付着しているとき
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・ 左右に傾きのある道
 - ・ 路面に深いわだちがある道
 - ・ 整備されていない荒れた道
 - ・ 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定なとき
- 車線内での自車の位置が一定でないとき
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC等の安全システムが作動時
- VSC、TRC等の安全システムがOFFのとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。
どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増してください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 233）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 244）

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件により異なります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・安全にお使いいただくために：→ P. 222

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 223

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、作動対象が異なります)

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

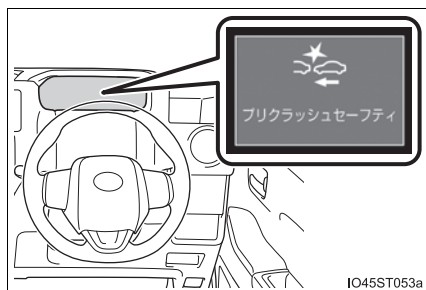
※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

機能一覧

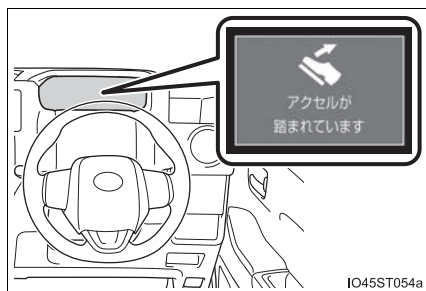
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ ブリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ ブリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

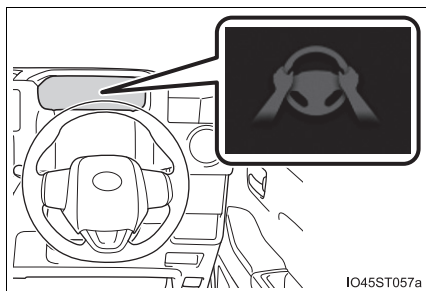
■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

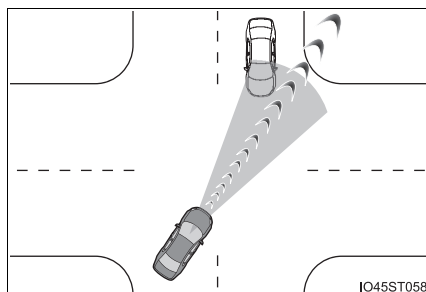


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

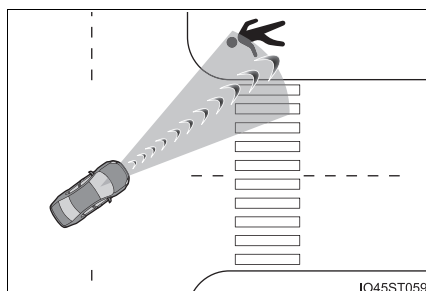
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



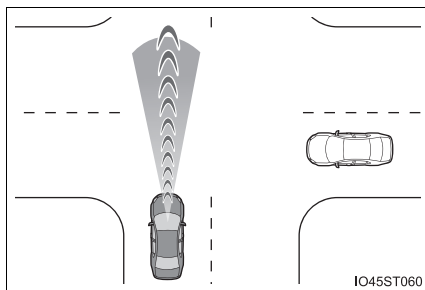
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

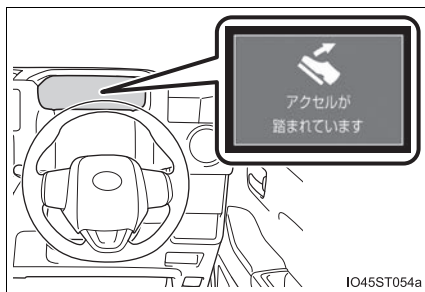
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、LPG ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに図で示すアイコンとメッセージを表示します。



 警告**■プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - ・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
 - ・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

 知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●ブリクラッシュブレーキ

作動対象	自転車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自転車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自転車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	-	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	-	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	相手車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	・ 自車速度以下 ・ 約40km/h以下	約 5 ～ 60km/h

自車速度が約 40km/h 以上のときは、相手車速度が約 40km/h 以下の場合しか作動しません。

相手車速度が自車速度以下の場合しか作動しません。

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

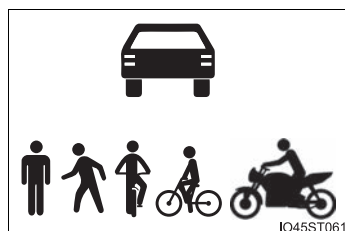
- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

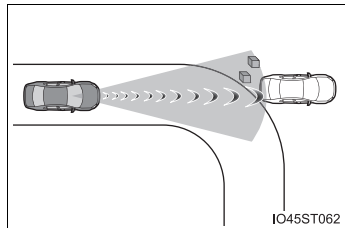
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



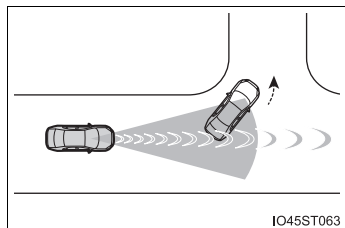
■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

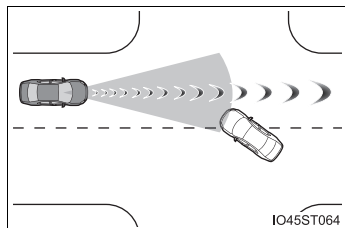
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



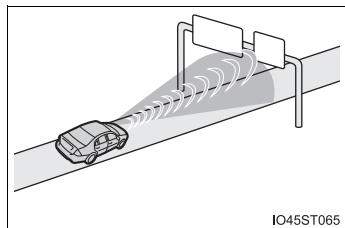
- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

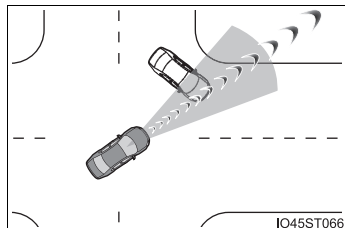


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

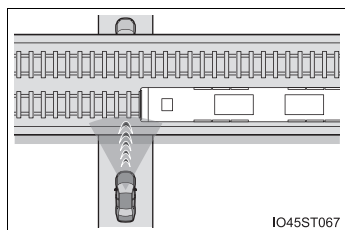


- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車自車が自車の前方を通過したとき

- ・ 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



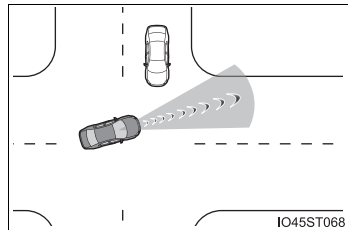
- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき



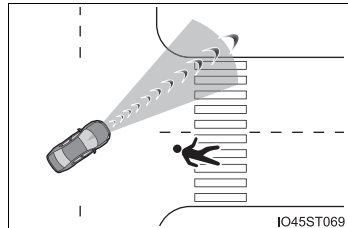
■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
 - ・ 自車や作動対象がふらついているとき
 - ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
 - ・ 作動対象に急接近したとき
 - ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
 - ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
 - ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
 - ・ 作動対象が複数重なっているとき
 - ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
 - ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
 - ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
 - ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
 - ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき

- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車(チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など)
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき(レインコート・ロングスカートを着用している場合など)
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い(朝方・夕方など)、または周囲が暗い(夜間やトンネル内など)など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ LPG ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくる



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
- ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
 - ・ 対向車がいるとき

- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
 - ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
 - ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
 - ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
 - ・ 壁が生垣など草木のとき
 - ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
 - ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 461)
パワースイッチが“ON”になるとシステムは ON になります。
 - システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
 - カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→ P. 461)
 - 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。
- 「 (遅い)」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

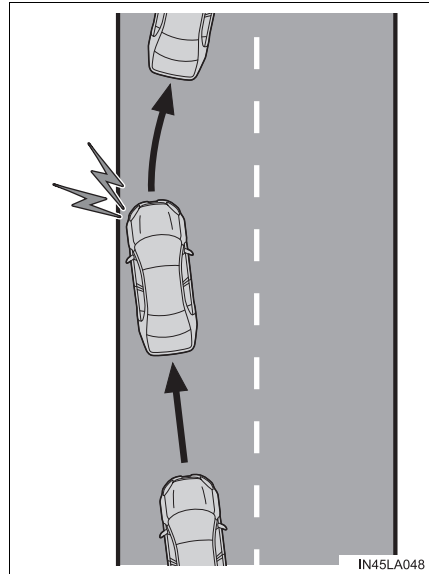
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



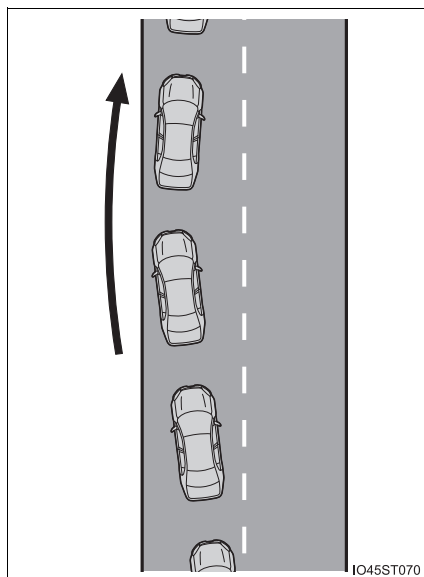
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

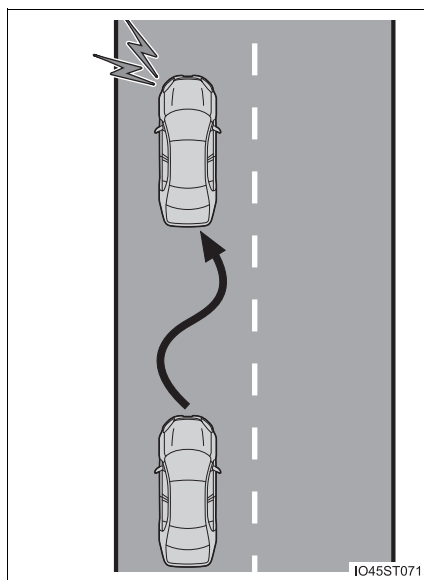
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



 警告**■ LDA をお使いになる前に**

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 知識**■ 各機能の作動条件****● 車線逸脱警報／抑制機能**

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。（カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき）
- ・ システムが車線または走路※を認識しているとき（車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ VSC または TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 247）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

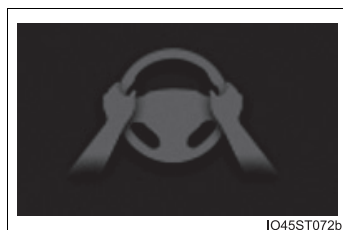
■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき
- ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 461)
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→ P. 461)

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ P. 230
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 228
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 230
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 223

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→ P. 252）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→ P. 254）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 228
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 223

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト (OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	・ 歩行者 ・ 自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないように、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。 ハンドルの支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	・ 歩行者 ・ 自転車運転者 ・ 駐車車両
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	・ 先行車 ・ 自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
操舵アシスト (SA)	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし

 知識

■ システムの作動車速

- 道路を横断する作動対象に対する支援
約 30km/h ～ 60km/h
- 道路脇の作動対象に対する支援
約 30km/h ～ 60km/h
- 先行車に対する減速支援
約 20km/h 以上
- カーブに対する減速支援
約 20km/h 以上
- 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援
約 30km/h ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）
- 車線に対する操舵支援
約 10 ～ 140km/h

■ システムの作動が停止するとき

- 次のときシステムは作動を停止します
 - ・ PCS が OFF のとき
 - ・ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 230
 - ・ シフトポジションが P、R または N のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していないとき
- 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
 - ・ 車速が約 15km/h 以下のとき
 - ・ 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
- 次のときシステムは作動を停止する場合があります
 - ・ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
 - ・ 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
 - ・ 車線が検出できなくなった場合
 - ・ ブレーキ操作を行った場合
 - ・ アクセル操作を行った場合
 - ・ 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
 - ・ 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

 警告**■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P. 230
- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき

警告

- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きするとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m 以下、または約2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき
（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）
ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- LPG ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→ P. 461）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→ P. 461）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

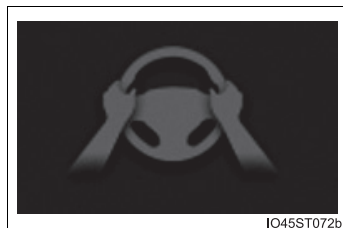
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切りかえないと表示されません。

表示	意味
	・ 白色：作動対象監視中 ・ 緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	・ 道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している ・ 操舵支援が作動中
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

 知識

■ 手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

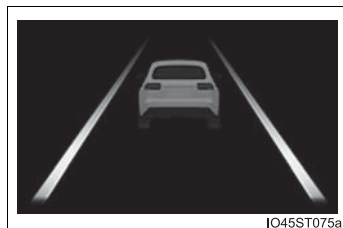


- 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ 先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラを使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■ RSA を使用してはいけない状況

システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 223

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 228

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラによって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。

車の仕様によっては表示される標識が制限される場合があります。

 知識

■ 標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき

次の状況では、標識の表示が消えることがあります。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■ 表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。



知識

■ 告知機能の作動条件

- 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・ 最高速度を表示しているとき

- 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
- ・ 進入禁止標識の間を通過するとき

- 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
- ・ 一定以上の減速がないとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・ 先行車がないとき

■告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
 - ・ 右左折等により標識が検知できないとき
 - ・ 信号機が矢印信号のとき
 - ・ 信号機が点滅信号のとき
 - ・ 信号機の底で発光部の一部が隠れているとき
 - ・ ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
 - ・ 停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
 - ・ 停止線などの路面ペイントがかすれているとき
 - ・ 停止線に対し信号機が遠くにあるとき
 - ・ 交差点間の距離が近いとき
- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
 - ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
 - ・ 標識や信号機が多数あるとき
 - ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
 - ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
 - ・ 信号機の灯色が黄色のとき
 - ・ 信号機が矢印信号のとき
 - ・ 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。



最高速度



はみ出し通行禁止



車両進入禁止



転回禁止



一時停止



赤信号

RSA の設定を変更する

- RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→ P. 461)

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかかったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切り替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 228

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があります

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 461)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→ P. 461)

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、アウターミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品

① メーター操作スイッチ

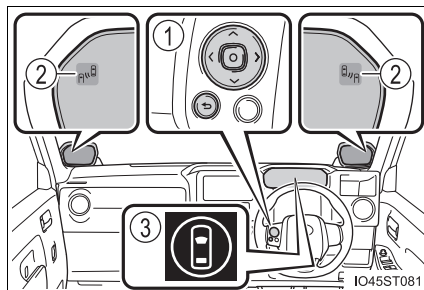
ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

② アウターミラーインジケーター

アウターミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のアウターミラーインジケーター（→ P. 100）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、アウターミラーインジケーターが点滅します。

③ 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ **アウターミラーインジケーターの視認性について**

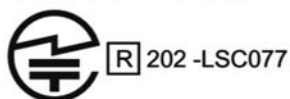
強い日差しのもとでは、アウターミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 461)

■ **後側方レーダーセンサーの取り扱いについて**

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



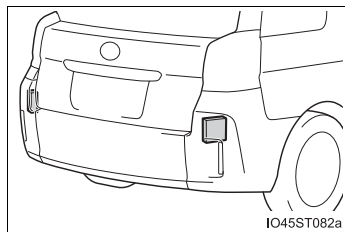
C3-001

警告**■ システムを正しく作動させるために**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→ P. 270）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
 - ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください。

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 461)

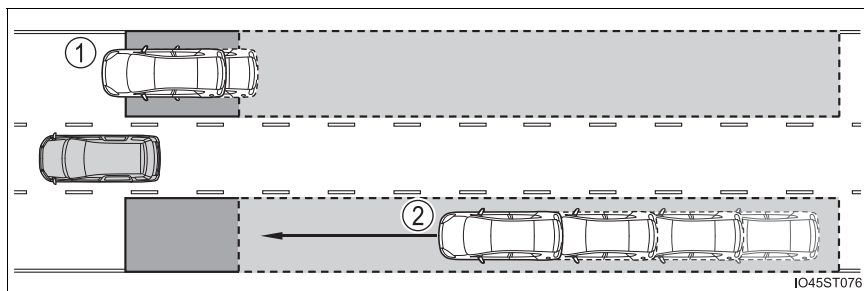
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯 (→ P. 100) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが “ON” になると、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

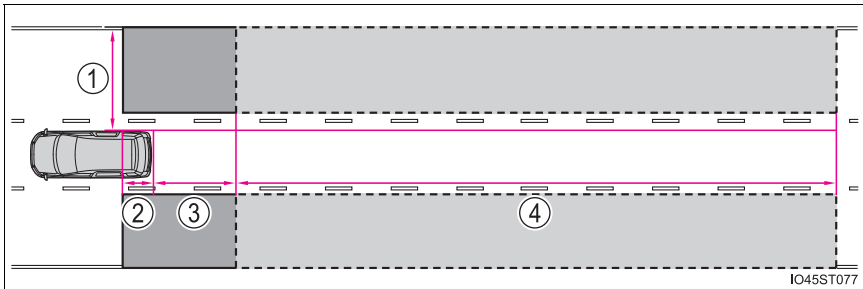
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、アウターミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- ① アウターミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- ② 後方からアウターミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- ① 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※¹
- ② リヤバンパーから約 1m 前方の領域 ※²
- ③ リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- ④ リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※³

※¹ 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※² 自車が追いこされる場合には、リヤバンパーから約 3m 前方まで車両の検知を継続します。

※³ 自車と他車の速度差が大きいほど、アウターミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については P. 245 を参照してください。

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが “ON” のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 大きい速度差で自車が追いこす他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

● 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
- ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
- ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
- ・ けん引しているとき

● 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・ けん引しているとき

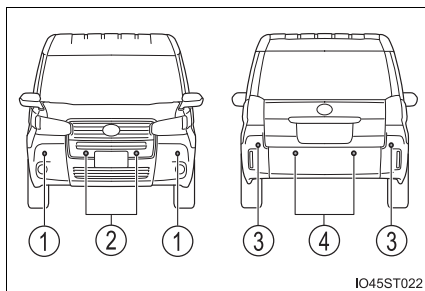
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー



■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 273）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→ P. 461）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→ P. 100）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→ P. 461）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを“LOCK”にしたあとで再度“ON”にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

 警告**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムをOFFしてください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが“ON” のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。
クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります
- センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音がならないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

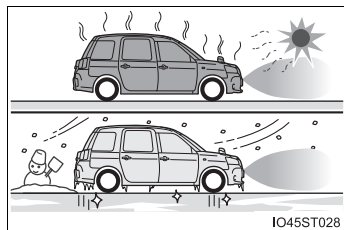
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



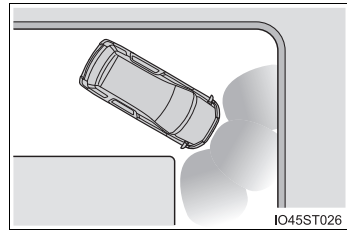
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパー・トリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

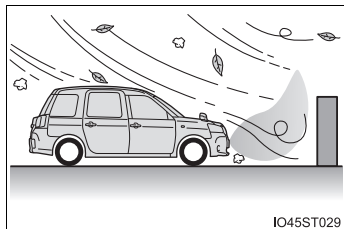
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

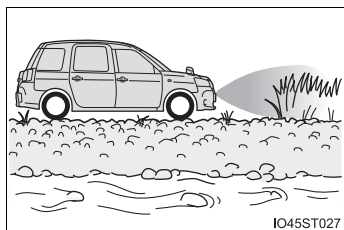


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

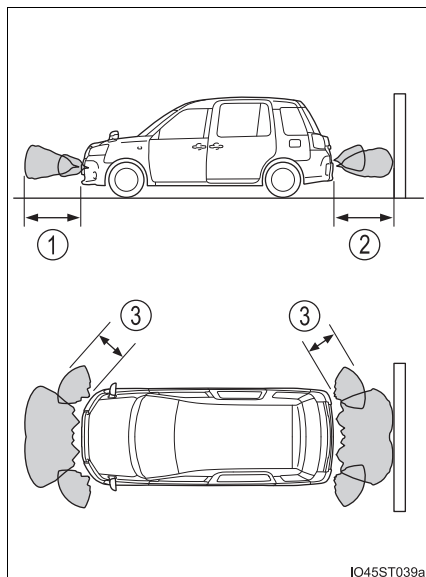
距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

- ① 約 100cm
- ② 約 150cm
- ③ 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。
ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサーセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンサーセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→ P. 280)

ブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。
静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナーの音量を切りかえることができます。(→ P. 461)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナーのブザー音がミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が一定値以上になったとき
 - ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
 - ・ パワースイッチを “LOCK” にしたとき

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ抑制で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

→ P. 287

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

 警告**■ パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を利用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 461)

PKSB (パーキングサポートブレーキ) が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→ P. 100) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF (非作動) に切りかえて、PKSB (パーキングサポートブレーキ) を停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→ P. 461) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。

(パワースイッチを “LOCK” にしたあとで再度 “ON” にしても、復帰しません)

LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中 (加速制限制御)

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「加速抑制中です」

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中 (出力最大抑制制御)

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「ブレーキ！」

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー (単発音)

- ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「ブレーキ！」

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

- システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：「アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください」、「ブレーキを踏んでください」

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

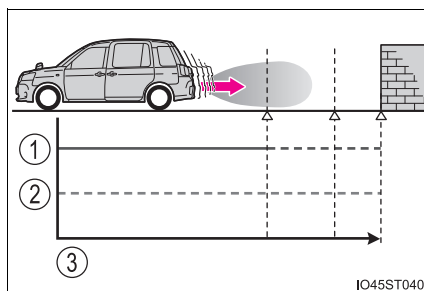
PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物）を検知したとき、LPG ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

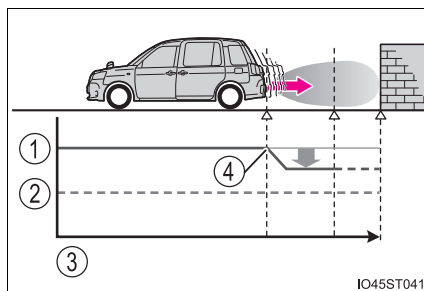
- 図 1（PKSB [パーキングサポートブレーキ] 非作動時）

- ① LPG ハイブリッドシステム出力
- ② 制動力
- ③ 時間



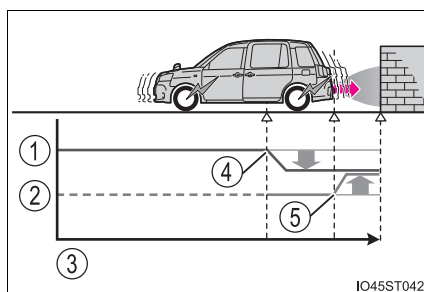
● 図 2 (LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御時)

- ① LPG ハイブリッドシステム出力
- ② 制動力
- ③ 時間
- ④ LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)



● 図 3 (LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時)

- ① LPG ハイブリッドシステム出力
- ② 制動力
- ③ 時間
- ④ LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
(作動対象と衝突の可能性がある
とシステムが判断したとき)
- ⑤ ブレーキ制御開始
(作動対象と衝突の可能性が非常
に高いとシステムが判断したとき)



 知識**■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは**

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん“LOCK”にしてから、再度“ON”にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→ P. 100）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく（→ P. 273）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→ P. 283）、ブレーキ制御と LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

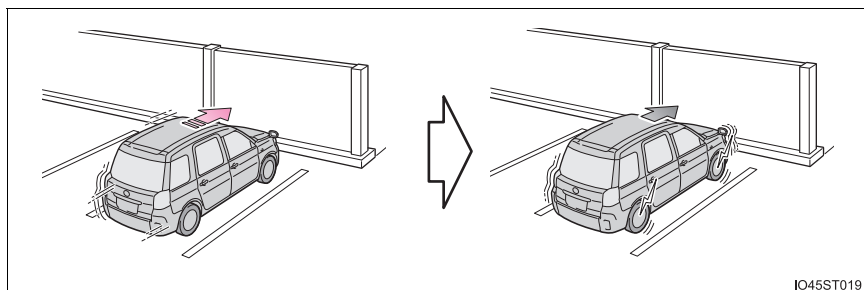
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

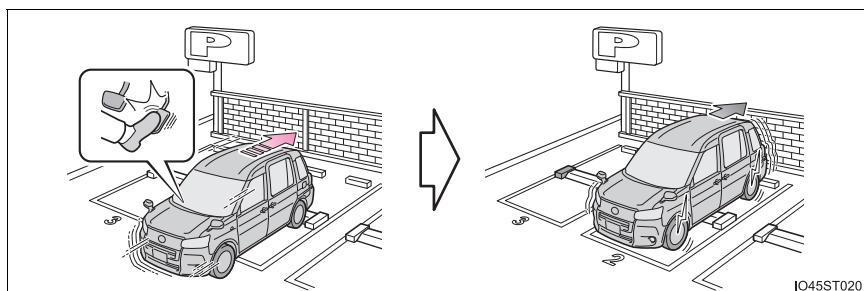
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

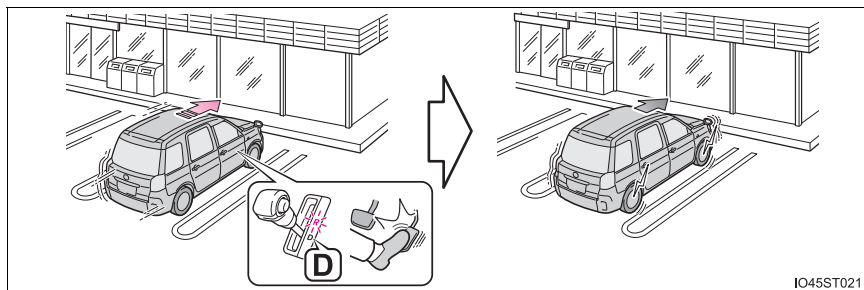
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



- アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションをDにして前進してしまったとき



センサーの種類

→ P. 272

⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

→ P. 274

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→ P. 286

■ 洗車時の注意

→ P. 274

 知識**■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件**

運転支援情報表示灯が点灯（→ P. 98）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km/h 以下
- ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● LPG ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 279）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→ P. 276

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→ P. 277

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

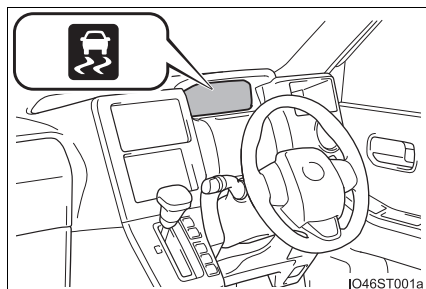
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

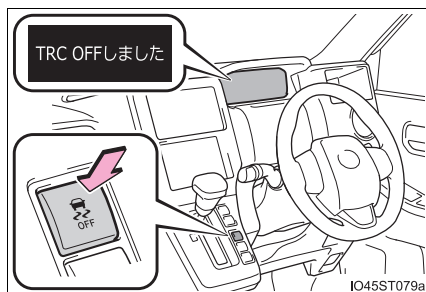
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもLPGハイブリッドシステムの出力が上が

らず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。

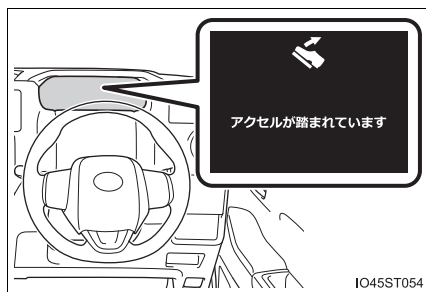
もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによる LPG ハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、マルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRCとVSCを停止するには、停車時に  を押し3秒以上保持してください。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS 警告灯が点灯し、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。(→ P. 238)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R のとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっている
- パワースイッチが “ON”

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーがDなどの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーがR以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- パワースイッチが“LOCK”

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- LPGハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECBの作動音

次のような場合にECBの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- 運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- LPGハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを“LOCK”にしたとき
- （TRCのみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、LPG ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■ セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■ 衝突時の急加速抑制について

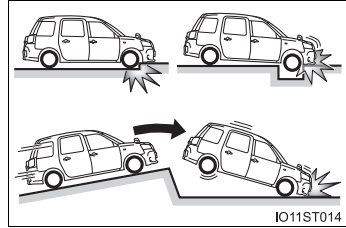
● 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します

- ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
- ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
- ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
- ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだ[※]あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ[※]とき

[※] アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

● 次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。

- ・ 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ・ 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



● アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 459）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 衝突時の急加速抑制

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータの表示をエコエリアの範囲に保つことで環境に配慮した走行が可能です。(→ P. 107)

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときはシフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、LPGエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分な燃料消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：LPG エンジン・車室内が暖まるまで、LPG エンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

LPG エンジンが冷えているときは、LPG エンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のための LPG エンジン始動がひんぱんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 359）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、アウターミラー、ドアガラス、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ ドアやワイパーが凍結したとき

ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。

熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン	304
シートヒーター	313

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	315
・日報灯	316
・ルームランプ	316
・リヤ読書灯	316

5-3. 収納装備

収納装備一覧	318
・車検証固定バンド	319
・小物入れ	320
・ボトルホルダー	320
ラゲージルーム内装備	321

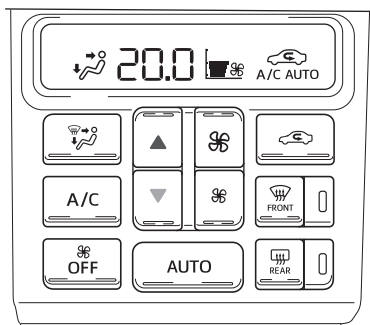
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	325
・サンバイザー	325
・バニティミラー	325
・アクセサリーソケット	326
・アクセサリー コンセント	327
・充電用 USB 端子	335
・アシストグリップ／ シートバックアシスト ボード	337
・時計	339
・料金トレイ	339
サービスコネクター	340

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



IO51ST016

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を、下げるときは  を押す

 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を、減らすときは  を押す

 を押すと、送風が止まります。

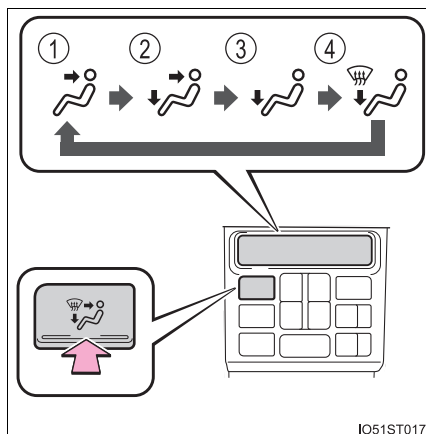
■ 吹き出し口を切りかえる



を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・ガラスの曇りを取る



IO51ST017

オート設定で使用する

- 1 **AUTO** を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

送風を止めたいときは、**OFF** を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



を押す

ボタンを押すたびに内気循環・外気導入が切りかわり、内気循環の場合はパネル内の表示灯が点灯し、外気導入の場合は消灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには



を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度  を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。



を押す

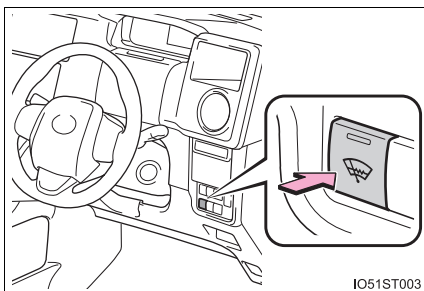
リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

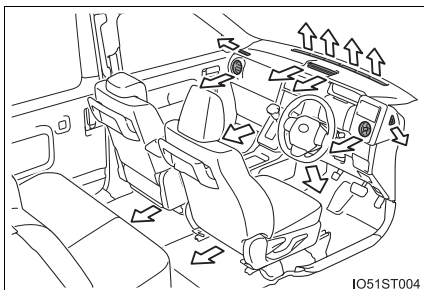


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

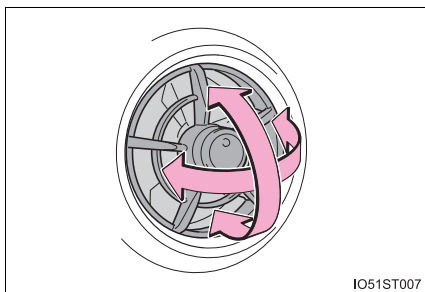
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



IO51ST004

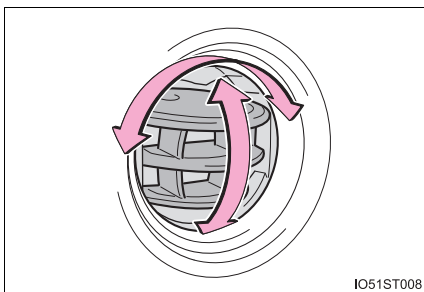
■ 風向きの調整

▶ 運転席側吹き出し口



IO51ST007

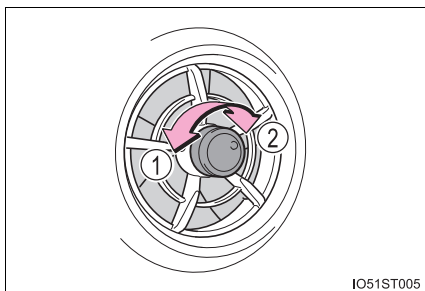
▶ 助手席側吹き出し口



IO51ST008

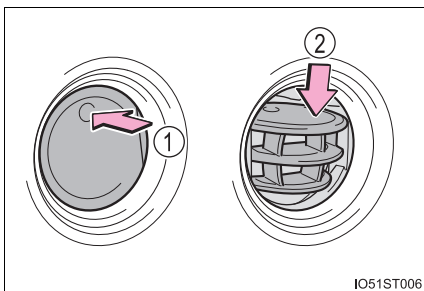
■ 吹き出し口の開閉

▶ 運転席側吹き出し口



IO51ST005

▶ 助手席側吹き出し口



IO51ST006

① 開ける

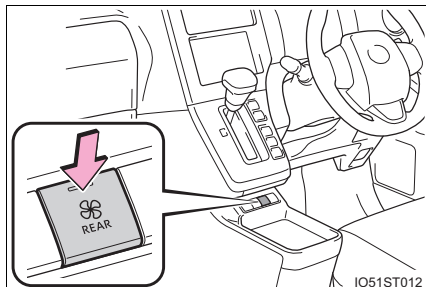
② 閉じる

天井サーキュレーター★

メインスイッチを押す

メインスイッチが ON になっているときは、スイッチ上のインジケーターが点灯します。

もう一度スイッチを押すと OFF になります。

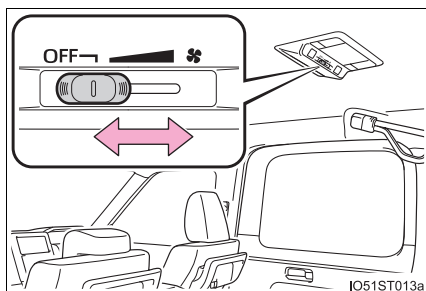


IO51ST012

■ 風量の切りかえ

風量を増やすときは風量調節レバーを右に、減らすときは左に操作する

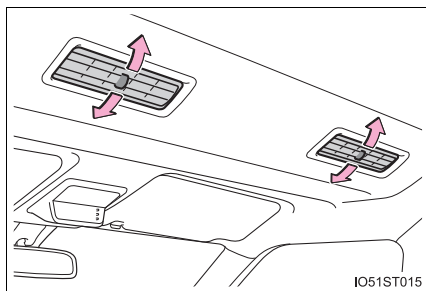
送風を止めるときは、レバーを OFF の位置にします。



IO51ST013a

■ 風向きの調整

ノブを上下に動かして風向きを調整する



IO51ST015

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、 を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

● 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

● トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

● 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

 を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ ナノイー X^{※1, 2} について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。

この装置は運転席と助手席の外側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます^{※3}。

- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
- ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
 - ・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
 - ・ 運転席と助手席の外側の吹き出し口が開いているとき
- ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
 - ・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
 - ・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

※¹ nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※² ナノイー X は、ナノイーにくらべて、効果のもとである OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※³ 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 364

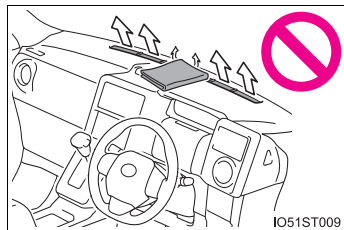
■LPG 燃料冷却システムについて

- 走行中、LPG 表示灯が点滅したときは、自動的に LPG 燃料冷却システムが作動します。燃料冷却システムが作動すると、 を押していても自動的にエアコンが作動し、送風されます。その間は、 や  を押しても操作が無効になります。温度の設定は可能で、 を押して温度を一番低くすると冷却機能を最大にすることができます。車室温度が低下した場合は、 を押して調整してください。(→ P. 304)
- パワースイッチを“LOCK”にしたときや、エアコンを停止したときにインストルメントパネル内やフロア下から“シュー”という音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。“シュー”という音はしばらく聞こえることもあります。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



■リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

- アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

LPG ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

運転席と助手席の外側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

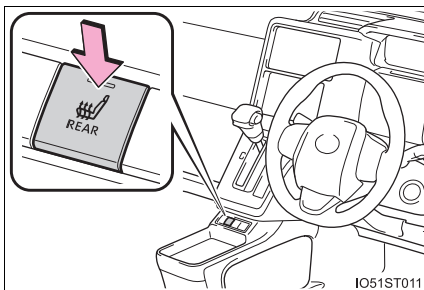
シートヒーター★

リヤシートを暖めることができます。

操作のしかた

1 メインスイッチを押す

メインスイッチが ON になっているときは、スイッチ上のインジケーターが点灯します。

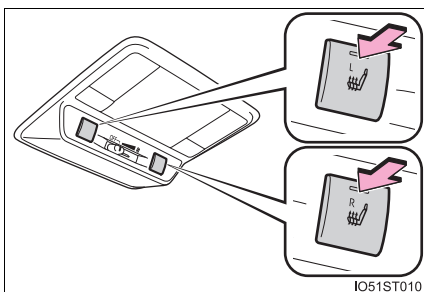


2 スイッチを押す

R：運転席側

L：助手席側

シートヒーターが作動しているときは、スイッチ上のインジケーターが点灯します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが “ON” のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

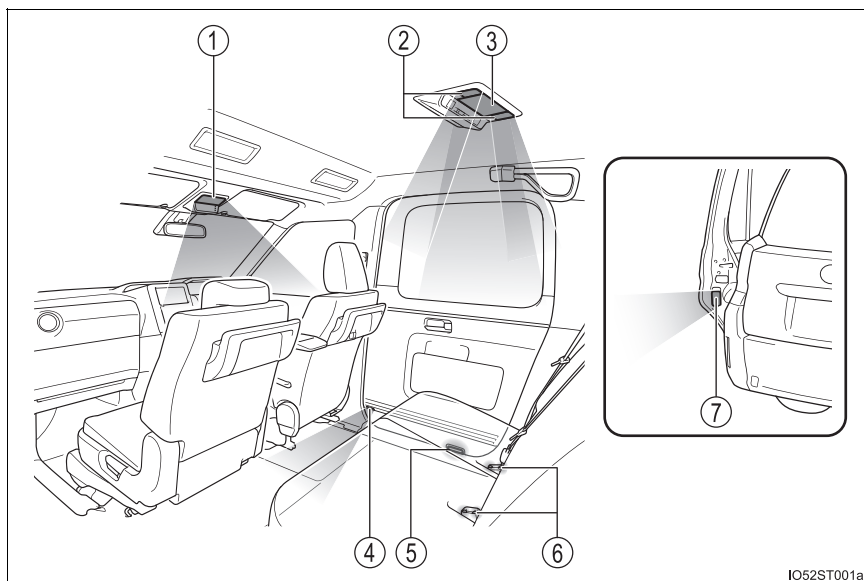
 警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがシートヒーターにふれないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

 注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

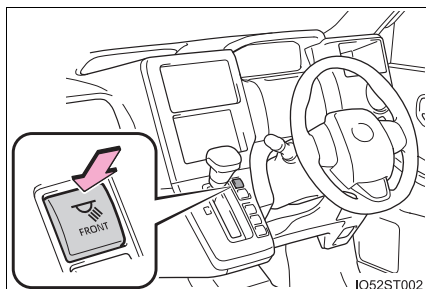
室内灯一覧



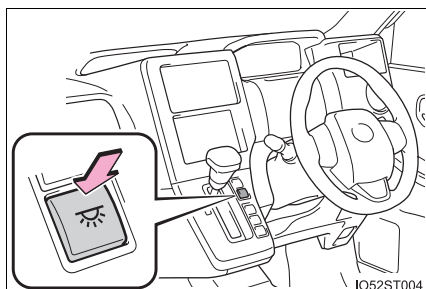
- ① 日報灯 (→ P. 316)
- ② リヤ読書灯 (→ P. 316)
- ③ ルームランプ (→ P. 316)
- ④ リヤ足元イルミネーション
- ⑤ ドアカーテシランプ (右側のみ)
- ⑥ シートベルトバックル照明
- ⑦ ドアオープンランプ

日報灯

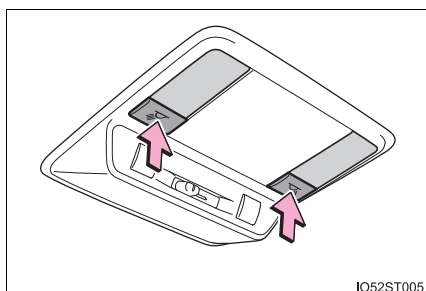
ランプを点灯・消灯する

**ルームランプ**

ランプを点灯・消灯する

**リヤ読書灯**

ランプを点灯・消灯する



 知識

■ 各部照明の自動点灯／消灯について

- ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチの位置により各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチが“LOCK”で次の室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
 - ・ 日報灯（スイッチが OFF のときのみ）
 - ・ ルームランプ（スイッチが OFF のときのみ）
 - ・ リヤ足元イルミネーション
- 車幅灯点灯時のメーターの明るさを一番暗く設定している場合（→ P. 111）は、足元照明は点灯しません。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

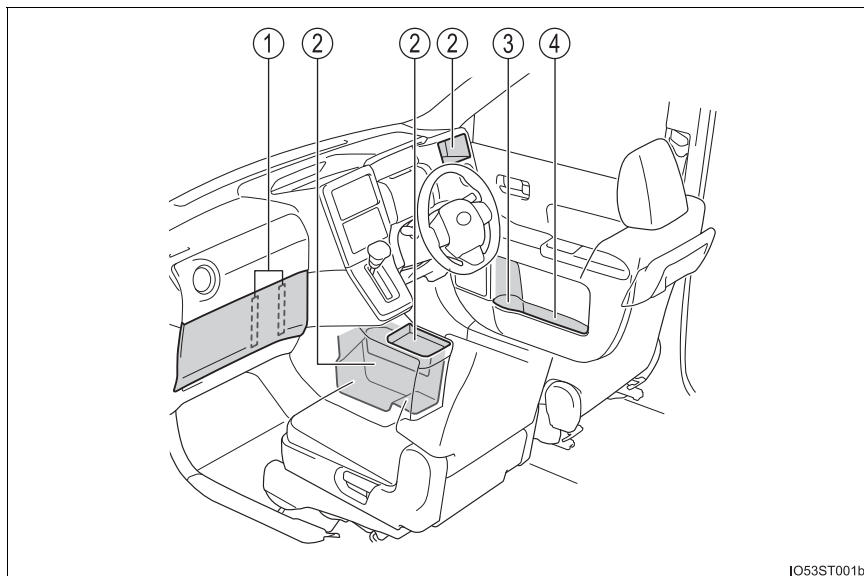
■ カスタマイズ機能

- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 461）

 注意

補機バッテリーあがりを防止するために、LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



- ① 車検証固定バンド (→ P. 319) ③ ボトルホルダー (→ P. 320)
② 小物入れ (→ P. 320) ④ ドアポケット

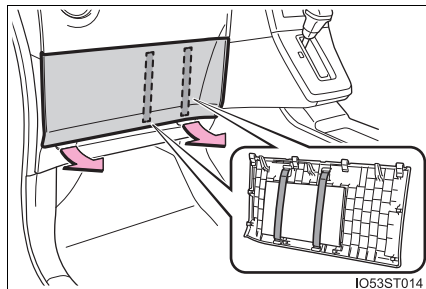
⚠ 警告

メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

車検証固定バンド



知識

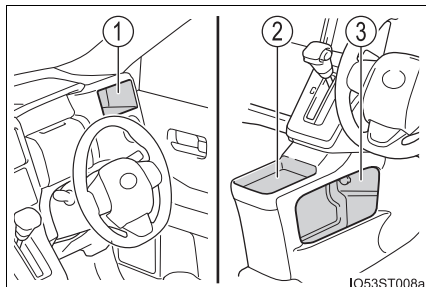
車検証固定バンドを使用するときは、しっかりと固定してください。バンドでしっかり固定されていないと、エアコンの吸入口をふさぎ、空調機能が低下するおそれがあります。

注意

車検証固定バンドの破損を防ぐために、200g 以上のものを固定しないでください。

小物入れ

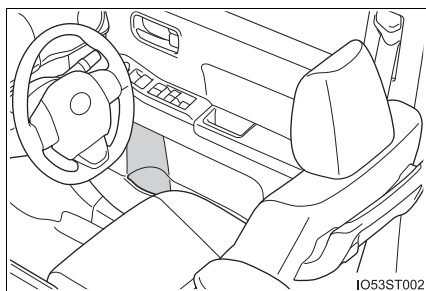
- ① インストルメントパネル
- ② コンソール上部
- ③ コンソール（運転席側）



知識

- インストルメントパネルおよびコンソール上部の小物入れを使用するときは、マットを敷いてください。マットはコンソール（運転席側）の小物入れ内にあります。
- 転がりやすいものを置かないでください。上り坂を走行するときや急発進時に転がり出てくるおそれがあります。

ボトルホルダー



知識

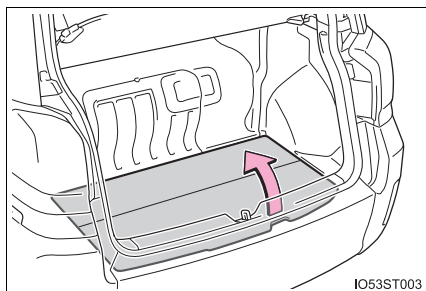
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

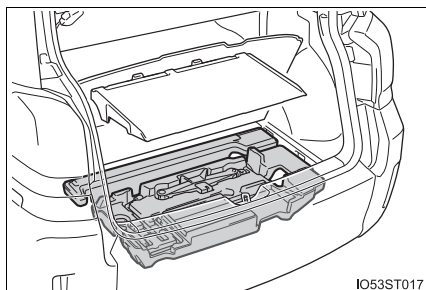
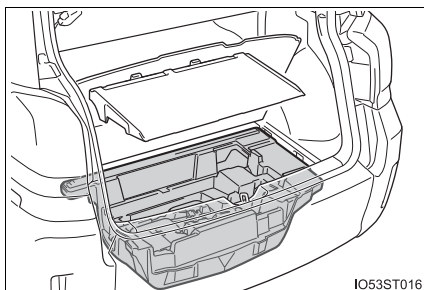
ラゲージルーム内装備

デッキボード



デッキアンダートレイ

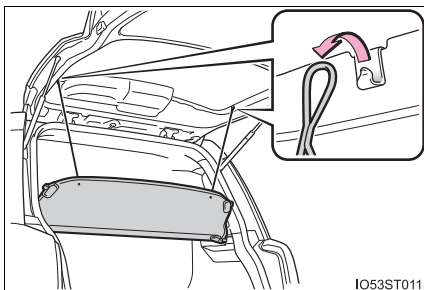
- ▶ タイヤパンク応急修理キット装着車
- ▶ 応急用タイヤ装着車



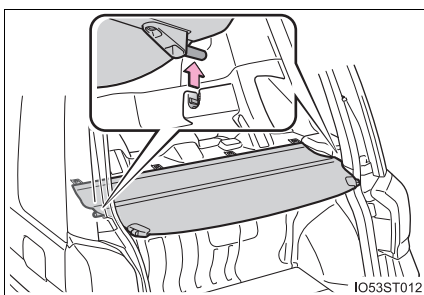
トノカバー

■ トノカバーの取りはずし

- 1 留めひもを左右のフックからはずす

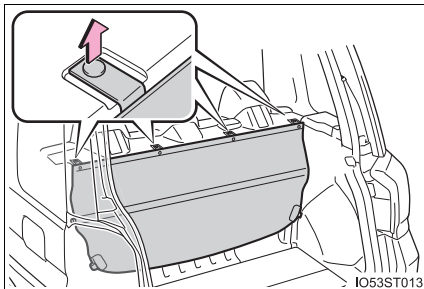


- 2 トノカバーを持ち上げて、ホルダーから取りはずす



- 3 クリップをはずす

クリップをはずさずにトノカバーを垂らして使用することもできます。

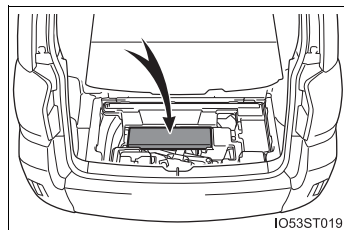


 知識

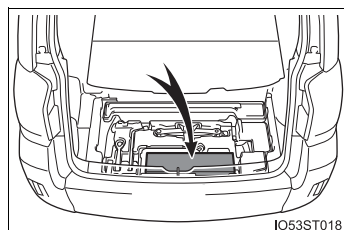
■ 三角表示板収納について

デッキアンダートレイに、三角表示板を収納することができます。
ただし、三角表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



▶ 応急用タイヤ装着車

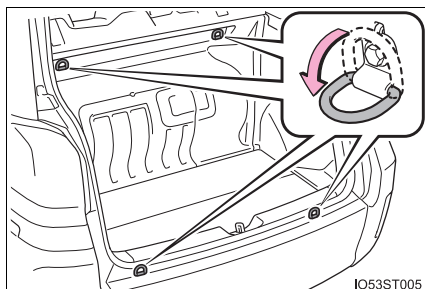
 警告

- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーを操作するときは、トノカバーとまわりの部品のあいだに指や腕などを入れないように注意してください。指や腕を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

デッキフック

フックを起こして使用する

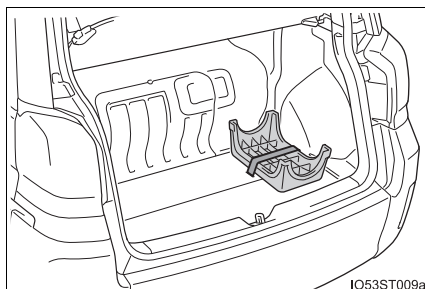
フックを使って荷物を固定することができます。



⚠ 警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

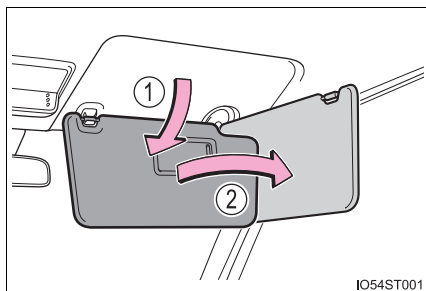
ステップ等固定バンド



その他の室内装備

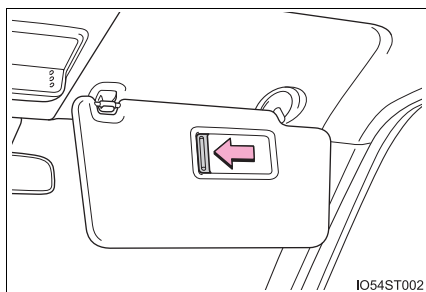
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー（運転席側）

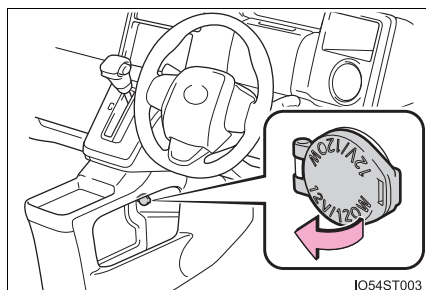
カバーをスライドして開ける



アクセサリースOCKET

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■ 作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ LPG ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、LPG ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

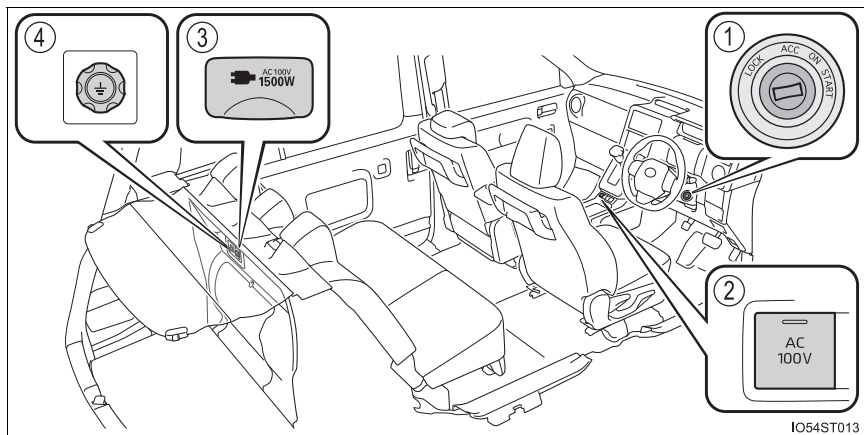
注意

- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アクセサリコンセント (AC 100V・1500W) ★

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

■ 各部の名称



- ① パワースイッチ (→ P. 190)
- ② AC100V スイッチ
- ③ ラゲージルーム内コンセント
- ④ アース端子

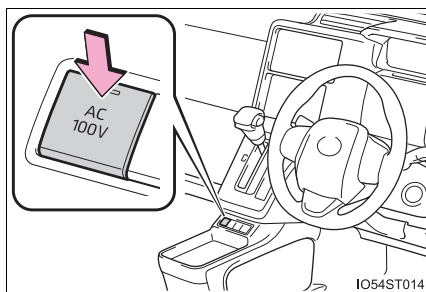
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを“START”の位置にまわす (→ P. 190)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

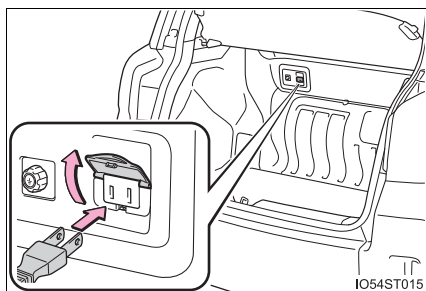
AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON / OFF が切りかわります。



■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

アース線のある電気製品を使用するときは、ラゲージルーム内のコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。



■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 AC100V スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはずす
- 4 コンセントのフタを閉める

■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを前席左ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

 知識

■ 使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部地域では、駐車または停車中にエンジンを始動させた場合、条例に触れるおそれがありますのでご注意ください。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計がAC100Vで最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

- 定格消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。
 - 使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
 - 各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。
 - 一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。
 - ・ 走行中の振動による電気製品の故障
 - ・ 車室内の温度変化 ※ による電気製品の故障または作動不良
 - ・ 車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない
- ※ 天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■ アクセサリーコンセントについて

- コンセントは電気製品を使用するための装備です。
- コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- 極めて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。

この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 113）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度 AC100V スイッチを押してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 50Hz に設定されています。

コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。

電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 / 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。

車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。

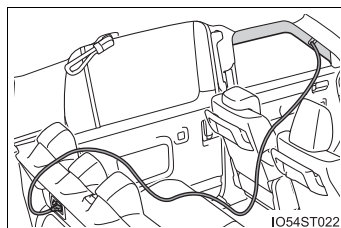
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
 - ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。コンセントが使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差ししたりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。また車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに交換しないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 駐車中または停車中に使用するとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトレバーをPにしていることを確認してください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満・滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏のおそれや排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 45）
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ・ 雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
 - ・ コードを窓やドアで挟まない
 - ・ たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする
 - ・ 誤って車両を発進させない



 警告**■接続する電気製品について**

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください。

 注意

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ **ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。
誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたら、ただちに使用を中止してください。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続するなど、タコ足配線はしないでください。

■ **特に外気温が高いとき**

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度 AC100V スイッチを押してください。

■ **特に外気温が低いとき**

駆動用電池を保護するため、コンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

充電用 USB 端子

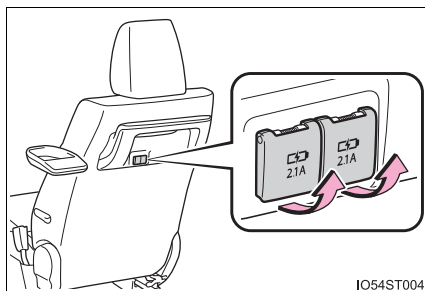
DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）の電源としてお使いください。

この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。

また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/2.1A（消費電力 10.5W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

 注意**■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために**

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 充電用 USB 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

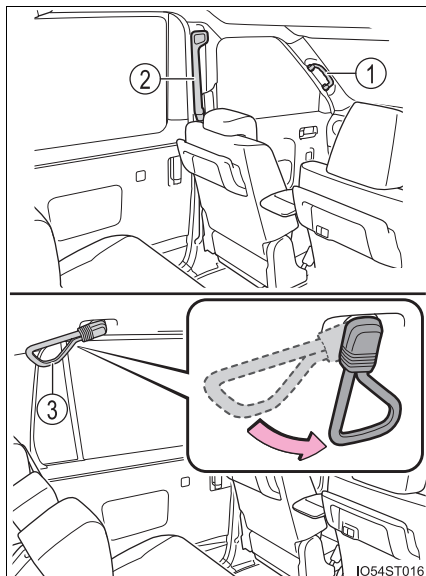
- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

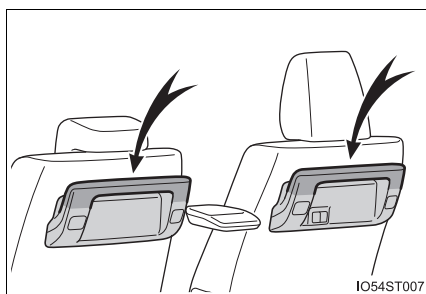
LPG ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

アシストグリップ／シートバックアシストボード**▶ アシストグリップ**

- ① フロントピラーに取り付けられているアシストグリップ（格納式）は、車いす利用者の乗降時などにお使いください。
- ② センターピラーに取り付けられているアシストグリップ（固定式）は、リアシートへの乗降時などにお使いください。
- ③ 天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

**▶ シートバックアシストボード**

フロントシートの背もたれに取り付けられているシートバックアシストボードは、乗降時などにお使いください。



 警告**■アシストグリップを使用するとき**

- フロントピラーに取り付けられているアシストグリップ（格納式）がもとの位置にもどらないときは、トヨタ販売店にご相談ください。もとの位置にもどらない場合、運転手の視界をさまたげ思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

 注意

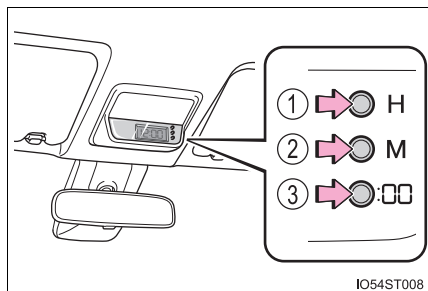
破損を防ぐために、アシストグリップ／シートバックアシストボードに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

時計

ノブを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする ※

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00

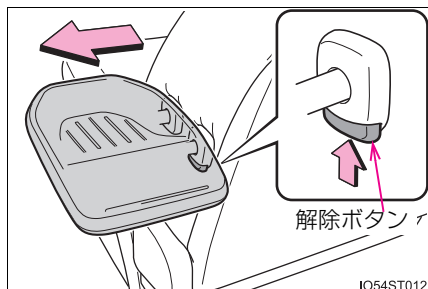


知識

- パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき、時刻が表示されます。
- 補機バッテリー端子の脱着を行うと、時刻は自動的に 1:00 にセットされます。

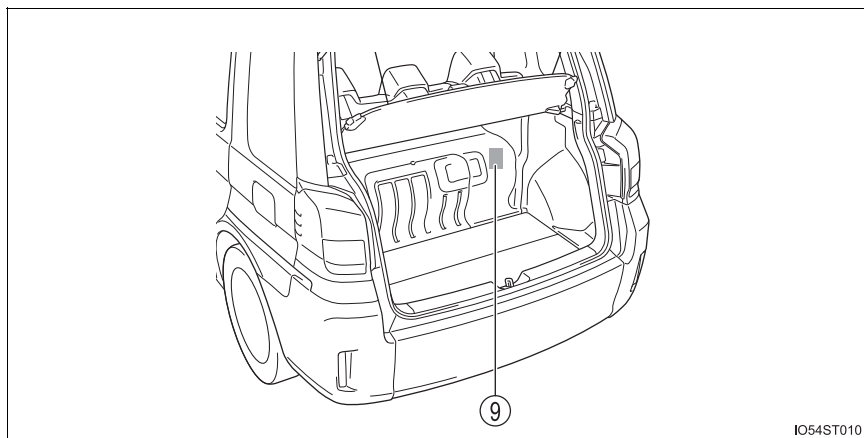
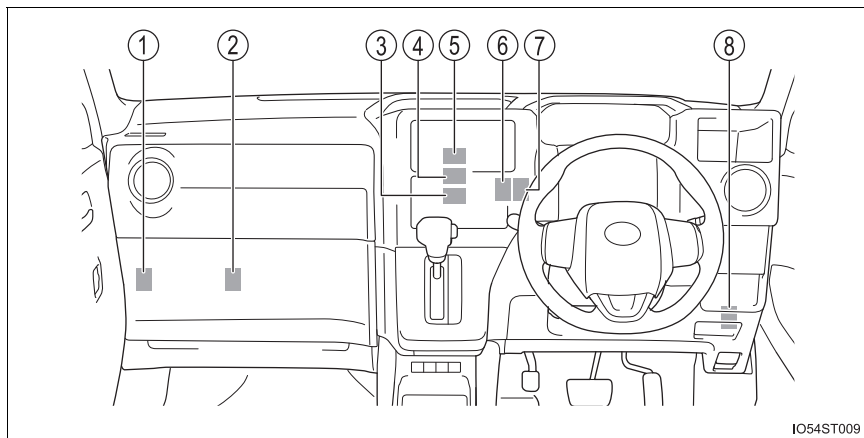
料金トレイ

料金トレイを取りはずすときは、解除ボタンを押しながら料金トレイを引き抜きます。



サービスコネクター

タクシー機器を取り付けるときは、サービスコネクターを利用してください。その場合には、配線図に従い、正しく結線してください。



- ① ルーフターンライト（左側）用（青色）
- ② 社名灯、防犯灯用（青色）
- ③ ナビゲーションシステム用（青色）
- ④ タコグラフ用（青色）
- ⑤ 無線機用（青色）
- ⑥ ドライブレコーダー用（白色）
- ⑦ 料金メーター用（青色）
- ⑧ ルーフターンライト（右側）用（青色）
- ⑨ 配車ナビゲーションシステム用（青色）

専用ヒューズが設定してあります。

またワイヤーハーネスの取りまわしには十分注意してください。

ルーフターンライトを付ける場合はリレーを取り付けてください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	344
内装の手入れ.....	348

6-2. 点検・整備項目

定期点検整備.....	352
-------------	-----

6-3. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	354
ガレージジャッキ	357
ウォッシャー液の補充	358
タイヤについて	359
タイヤ空気圧について	362
エアコンフィルターの清掃 ...	364
駆動用電池冷却用吸入口の 清掃	366
キーの電池交換	370
ヒューズの点検・交換	373
電球（バルブ）の交換	376

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うとき

- 車両前側から洗車してください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について：→ P. 224

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- BSM★
- PKSB
- クリアランスソナー
- Toyota Safety Sense

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

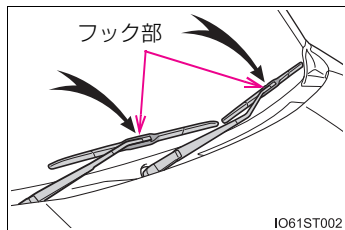
- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

 注意**■ 高圧洗浄機を使用するときは**

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
 - ・ 車両下部のゴム部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■ ワイパーアームを立てるときは

ワイパーアームのフック部を持って引き上げてください。
ワイパーブレードのみを持って引き上げるとブレードが変形するおそれがあります。



内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗淨には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラスについて

- フロントドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- フロントドアガラスの汚れがひどいときは、フロントドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■ スロープユニット

→ P. 141

 警告**■車両への水の浸入**

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 37)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

■リヤ席下側のカーペットの手入れをするときは

ものを落とさないように注意してください。ものを落としてしまったときは、無理に取り出さずに、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意**■清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

 注意**■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品・駆動用電池に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ スーパー UV カットガラスを清掃するときは

フロントドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■ リヤ席下側のカーペットについて

- カーペットのマジックテープがはずれたときは、確実に貼り付けてください。駆動用電池に水がかかると、故障の原因となるおそれがあります。
- カーペットを取りはずすときは、カーペット上に水や異物などがいないことを確認してください。

■ シートベルトリーチャーの破損を防ぐために

→ P. 36

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。
点検結果を記録する際には、P. 495 の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

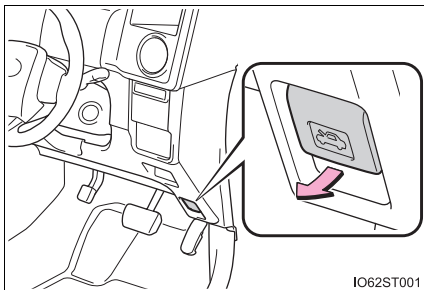
点検整備項目		点検時期				交換時期(年)	備考
		日常点検	3か月ごと	12か月ごと	使用前点検		
スロープ	スロープ No.1						
	スロープ本体の変形・傷			○			著しい変形・傷がないか点検する
	各締結リベットのゆるみ・ガタ			○			抜け・著しいガタ・ゆるみがないか点検する
	ヒンジのゆるみ・ガタ			○			ヒンジおよびヒンジピンの変形によるガタ・ゆるみがないか点検する
	ヒンジの操作荷重			○			操作荷重の著しい変化がないか点検する
	スロープ No.2 の変形・傷・割れ			○			著しい変形・傷がないか点検する
	車両への固定ベルトの損傷・ほつれ			○	○		ほつれが始まったら交換

点検整備項目		点検時期				交換時期(年)	備考
		日常点検	3か月ごと	12か月ごと	使用前点検		
車 い す 固 定 ベ ル ト	ベルトの損傷・ほつれ			○			ほつれが始まったら交換
	アジャスター部						
	変形			○	○		変形がないか点検する
	作動状態			○	○		ロック・アンロック状態を点検する
	アンカー部						
	変形			○	○		変形がないか点検する
	作動状態			○	○		ロック・アンロック状態を点検する
シ ー ト 乗 員 用	ベルトの損傷・ほつれ			○			ほつれが始まったら交換

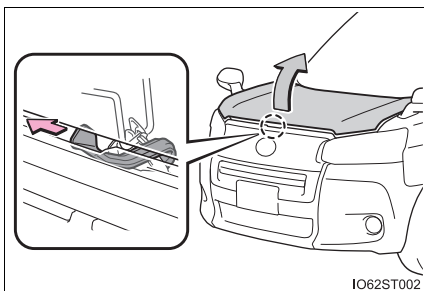
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

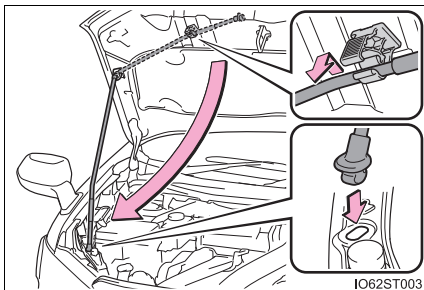
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

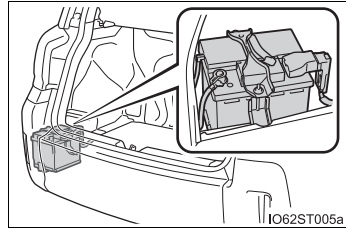


知識

■ 補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（左側）にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 440）



警告

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 走行前の確認

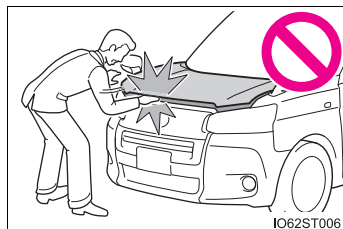
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

警告**■ ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■ 補機バッテリーの取り扱いについて**

→ P. 444

■ 補機バッテリーを交換するときは

→ P. 445

注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

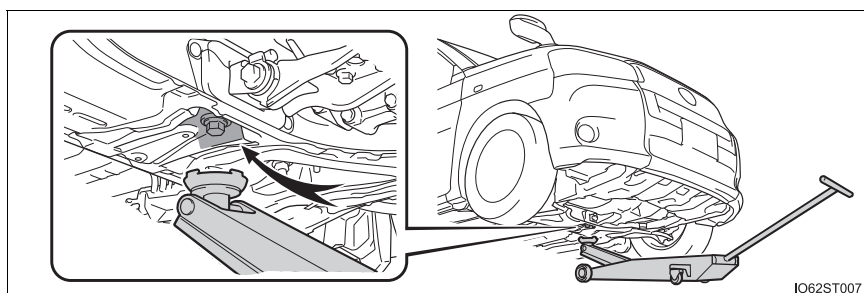
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

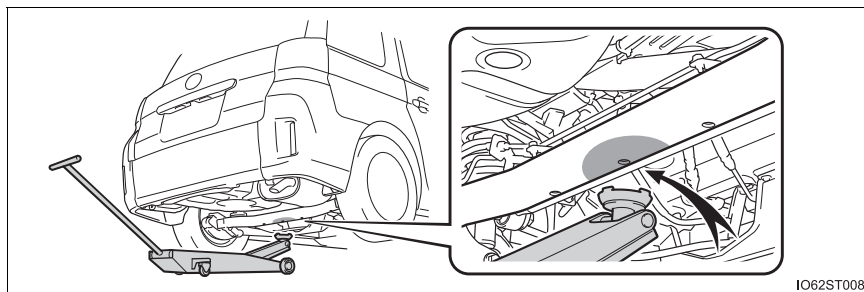
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



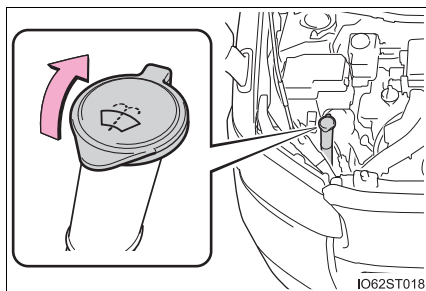
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

LPGハイブリッドシステムが熱いときやLPGハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、LPG ハイブリッドシステムなどにかかるると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

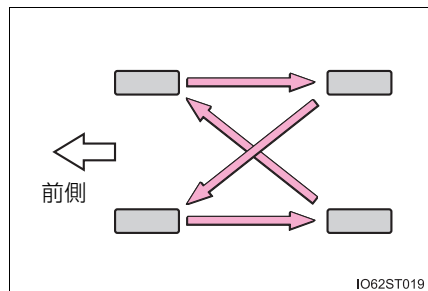
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



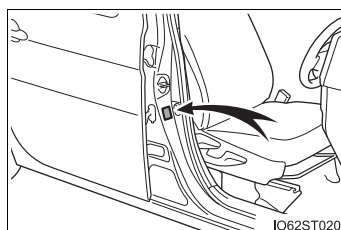
知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
185/65R15 88S	200 (2.0)	
T125/70D16 96M (応急用タイヤ★)	420 (4.2)	

※ タイヤが冷えているときの空気圧

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 435）テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

 注意**■走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 459)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

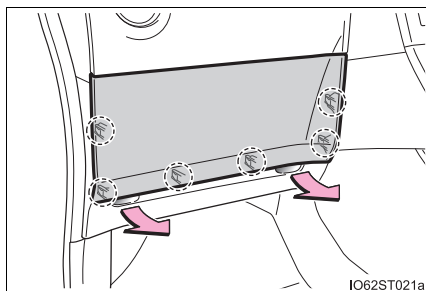
エアコンフィルターの清掃

この車両にはメッシュタイプのエアコンフィルターが装着されています。

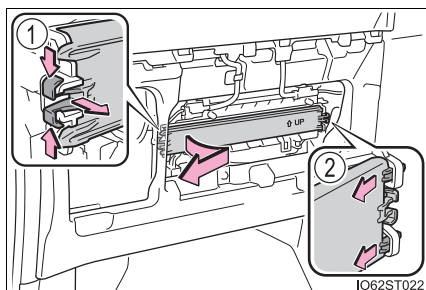
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃・交換のしかた

- 1 パワースイッチを“LOCK”にする
- 2 助手席側のインストルメントパネルのカバーをはずす

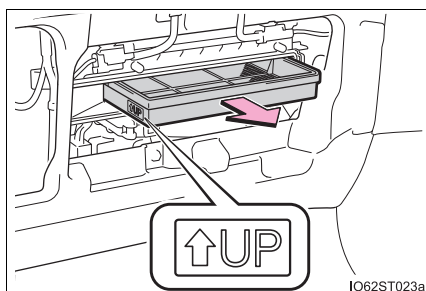


- 3 フィルターカバーを取りはずす
 - ① フィルターカバーの固定を解除する
 - ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



- 4 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■ エアコンフィルターの清掃について

エアコンフィルターは次の時期を目安に清掃してください。

3ヶ月ごと

■ エアコンの風量が減少したときは

- フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを清掃または交換してください。
- お湯による洗浄は行わないでください。フィルターは中性洗剤で洗浄したあと、水洗いするか、エアブローでゴミを吹き飛ばして洗浄してください。

■ エアコンフィルターの交換について

適切な交換時期は、ご使用条件により異なります。

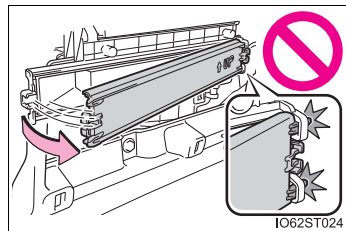
注意

■ エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するとき、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。

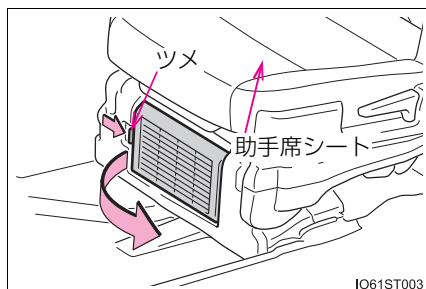


駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

清掃のしかた

- 1 パワースイッチを“LOCK”にする
- 2 ツメを押しながらカバーを開ける

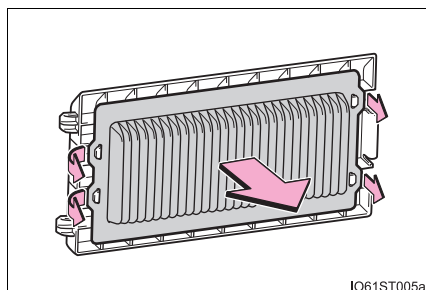


IO61ST003

- 3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

フィルターは車両外側からはずしてください。

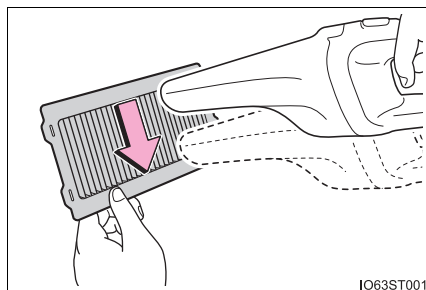
吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。



IO61ST005a

- 4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

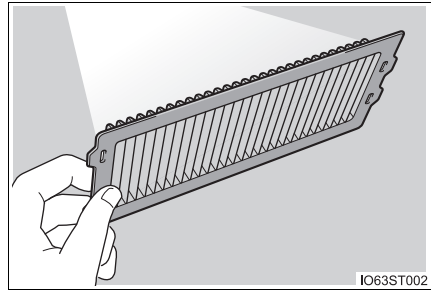
掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



IO63ST001

- 5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



- 6 フィルターをもと通りに取り付け、吸入口カバーを取り付ける
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」と表示されていたとき

- 7 LPG ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ 定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

誤った取扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■ フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

 警告

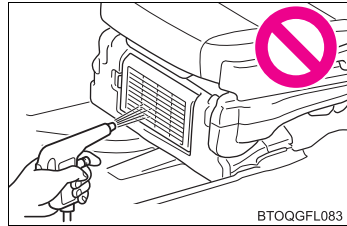
■ 吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを“LOCK”にしてLPGハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 吸入口のそばにサービスプラグ（→ P. 90）があります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。

 注意**■ 吸入口の清掃をするときは**

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

**■ 車両の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。

フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

■ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

すみやかに清掃してください。

警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

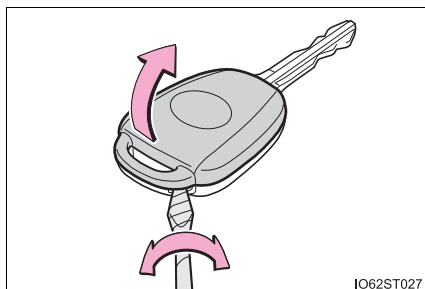
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2016

電池交換のしかた

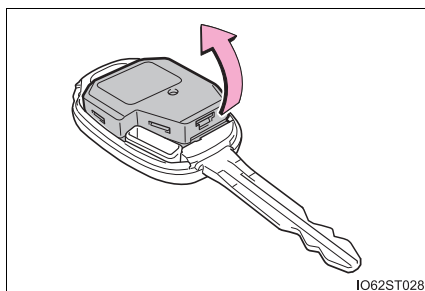
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

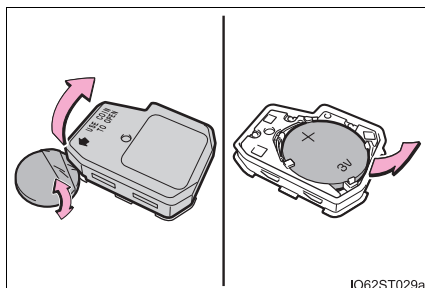


2 モジュールを取りはずす



3 コインなどを使って、モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR2016 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意**■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

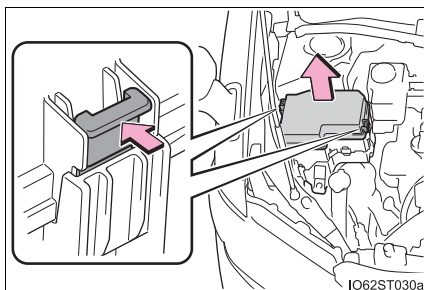
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを“LOCK”にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)

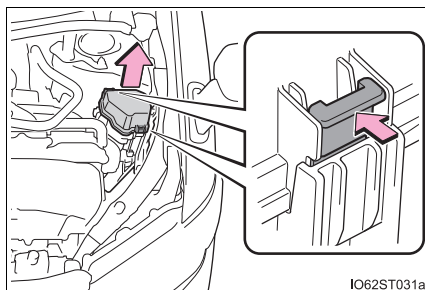


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

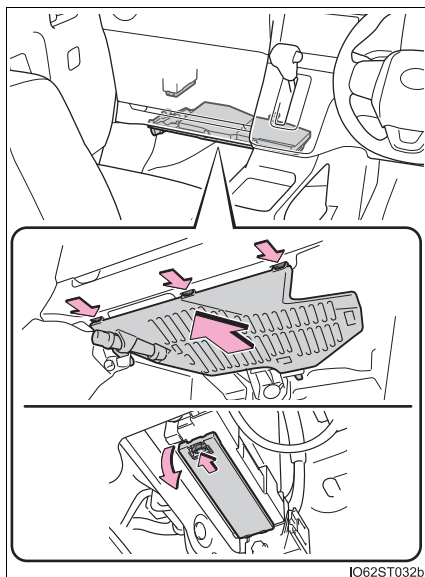
▶ 助手席足元

インストルメントパネルアンダーカバーを取りはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす

▶ エンジンルーム (2)

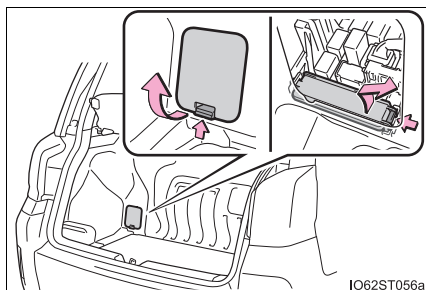


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ ラゲージルーム

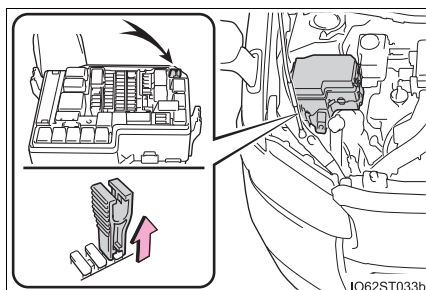
カバーをはずし、ヒューズボックスのカバーを取りはずす



IO62ST056a

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



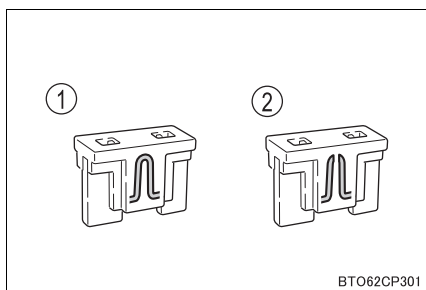
IO62ST033b

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



BT062CP301

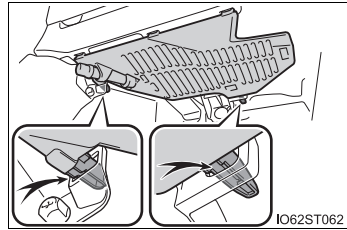
知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 376)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 助手席足元のインストルメントアンダーカバーを取り付けるとき

ツメ（2ヶ所）を挿し込んでからカバーをはめ込んでください。



■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。



警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

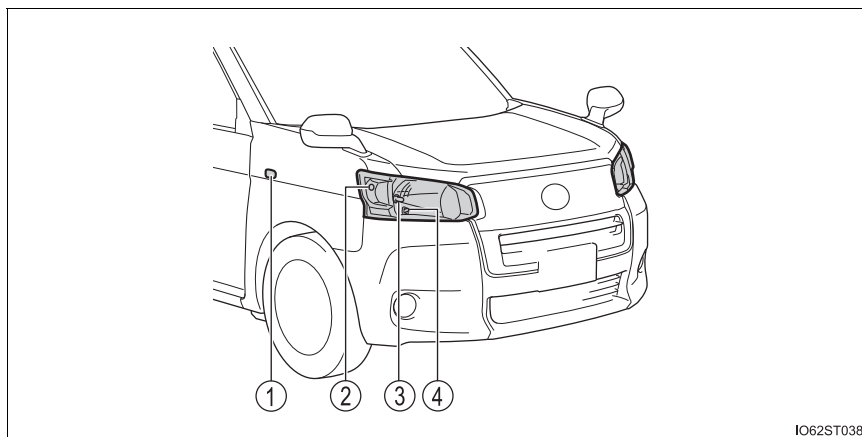
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 460）

バルブ位置

■ フロント

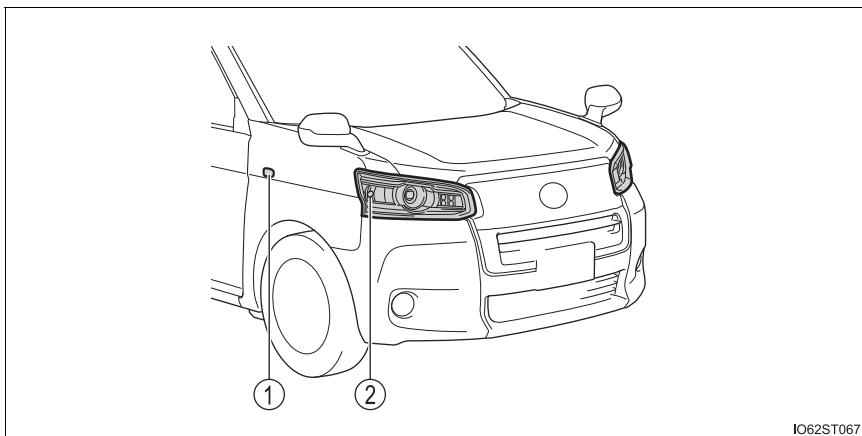
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



IO62ST038

- ① サイド方向指示灯
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ③ ヘッドランプ
- ④ 車幅灯

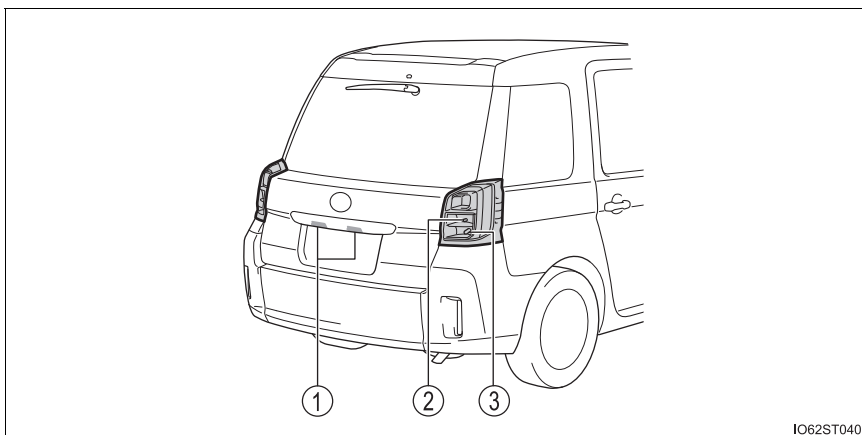
▶ LED ヘッドランプ装着車



IO62ST067

- ① サイド方向指示灯
- ② フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ

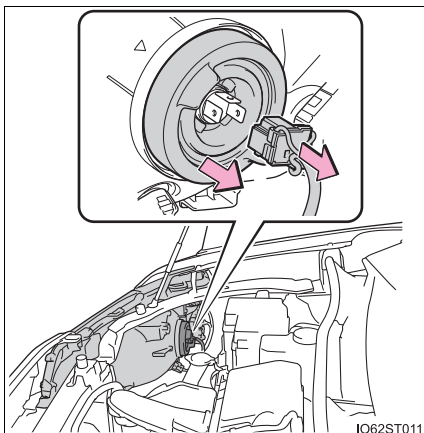


IO62ST040

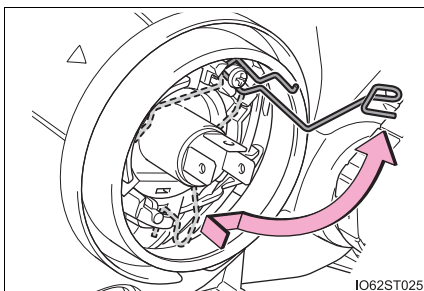
- ① 番号灯
- ② 後退灯
- ③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

電球交換のしかた**■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）**

- 1 ボンネットを開けて、コネクターとゴムカバーを取りはずす

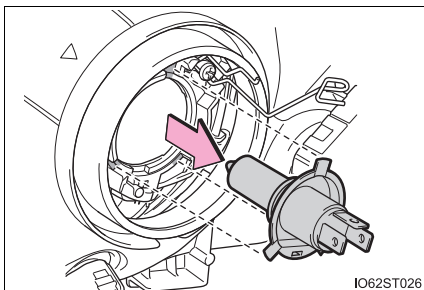


- 2 止め金を取りはずす



- 3 電球を取りはずす

新しい電球を取り付けるときは、電球と取り付け穴の切り欠きを合わせてください。

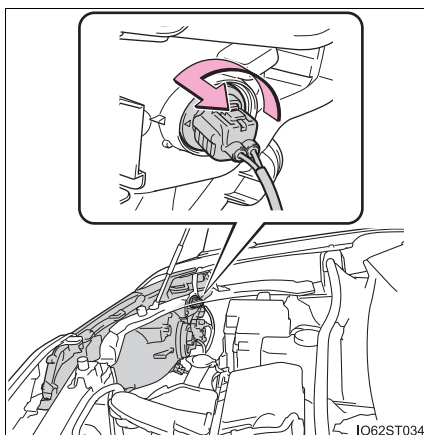


- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

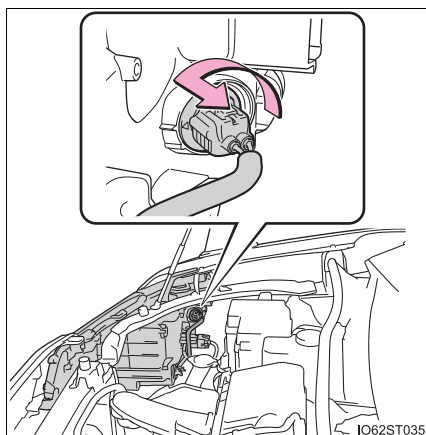
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす

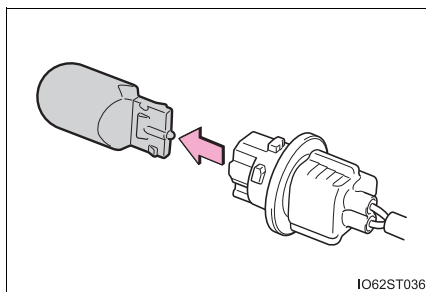
▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車

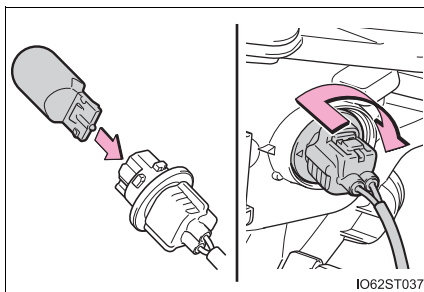


2 電球を取りはずす

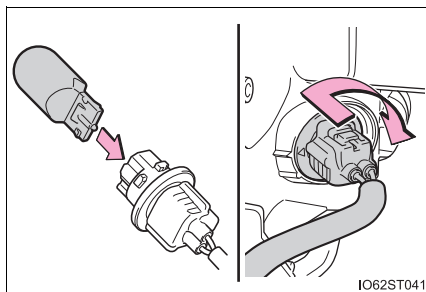


3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

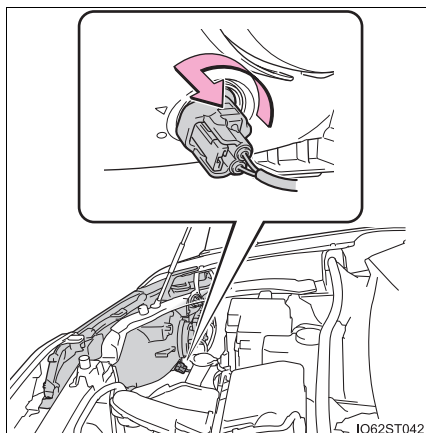


▶ LED ヘッドランプ装着車

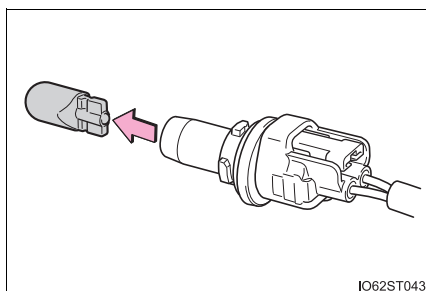


■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

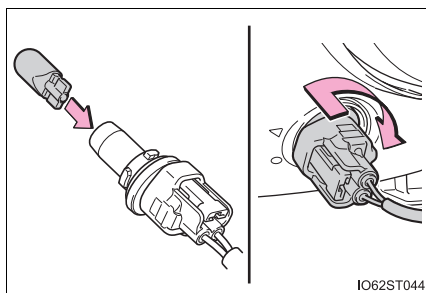
- 1 ボンネットを開けて、ソケットをまわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

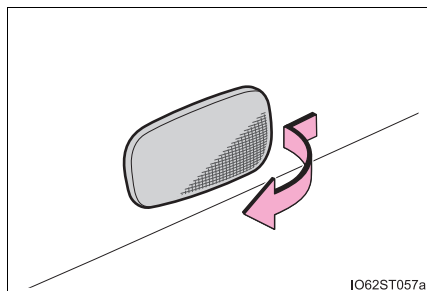


- 3 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

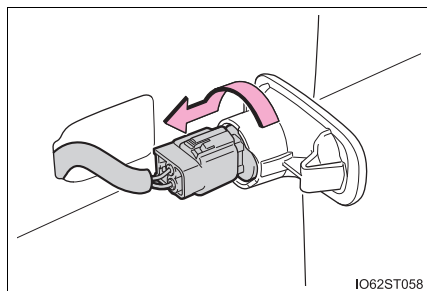


■ サイド方向指示灯

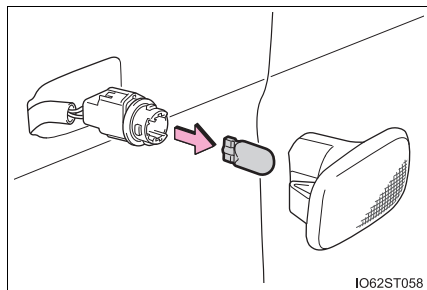
1 ランプを取りはずす



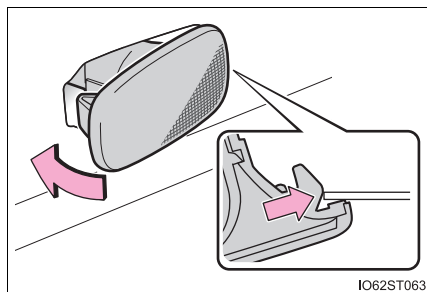
2 ソケットをまわして取りはずす



3 電球を取りはずす

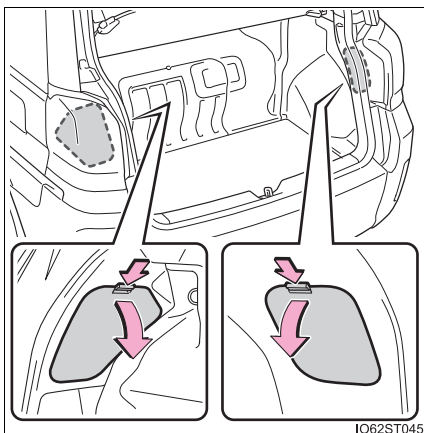


4 ランプを車両後方側からはめ込んで取り付ける



■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯／後退灯

- 1 バックドアを開けて、カバーを取りはずす

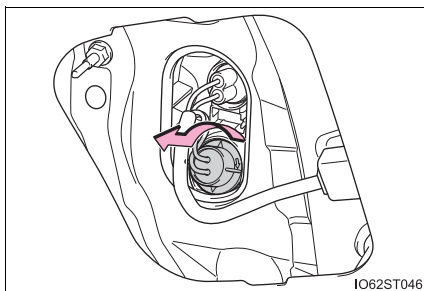


IO62ST045

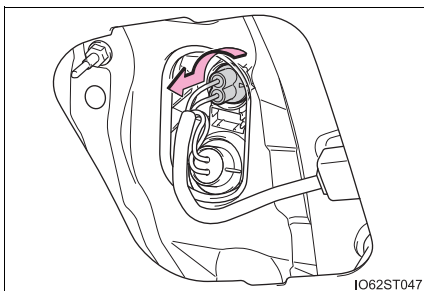
- 2 ソケットをまわして取りはずす

▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ 後退灯



IO62ST046

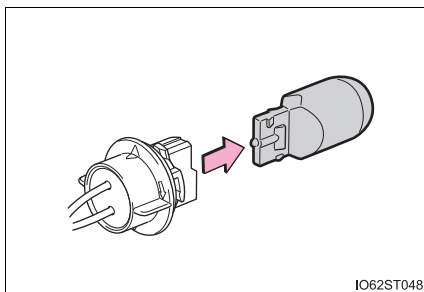


IO62ST047

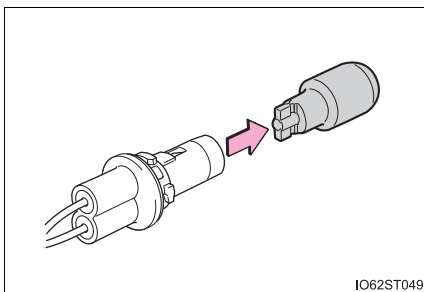
- 3 電球を取りはずす

▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

▶ 後退灯



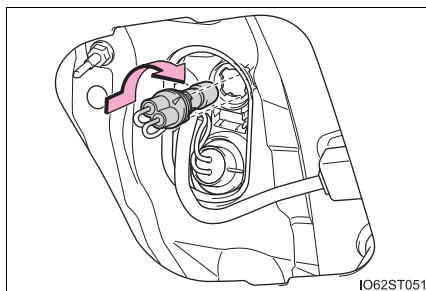
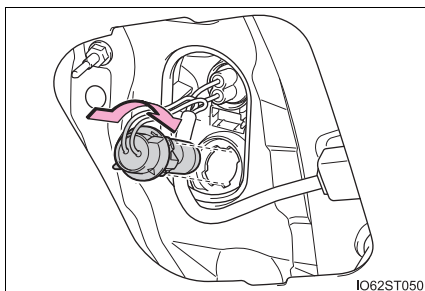
IO62ST048



IO62ST049

4 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

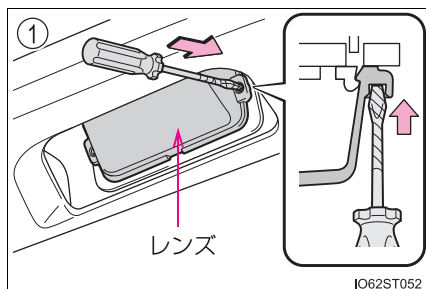
- ▶ リヤ方向指示灯／非常点滅灯 ▶ 後退灯

**5** カバーを取り付ける

■ 番号灯

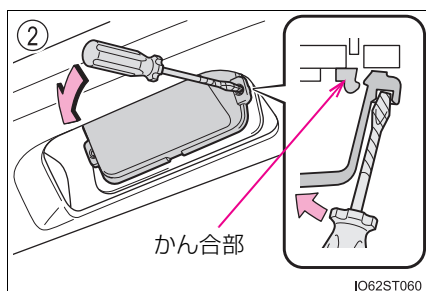
1 レンズを取りはずす

- ① 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

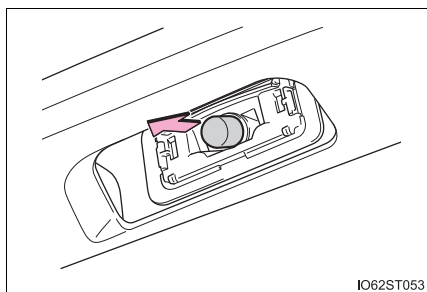


- ② 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

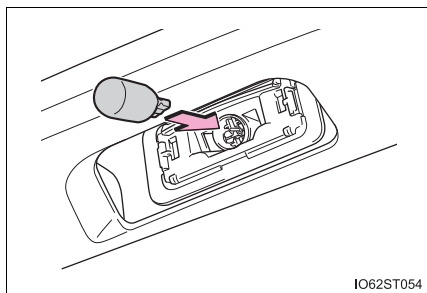
傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



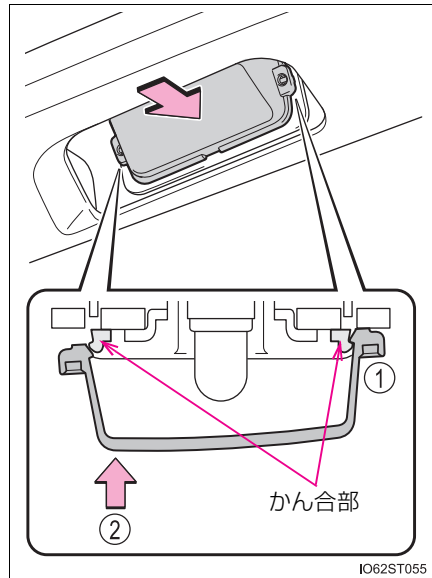
3 新しい電球を取り付ける



4 レンズを取り付ける

- ① レンズを左右どちらかのかん合に引っかける
- ② レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズ本体を軽く引っ張って、正しく取り付けられていることを確認してください。

**■ 次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- LED ヘッドランプ (LED ヘッドランプ装着車)
- 車幅灯／LED デイライト (LED ヘッドランプ装着車)
- 制動灯／尾灯
- 尾灯 (LED ヘッドランプ装着車)
- ハイマウントストップランプ

 知識

■ LED ランプについて

LED ヘッドランプ★・車幅灯★・制動灯／尾灯・尾灯・ハイマウントストップランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 375

 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	388
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	389
発炎筒	390
車両を緊急停止するには	392
水没・冠水したときは	393
車中泊が必要なときは	395

7-2. 緊急時の対処法

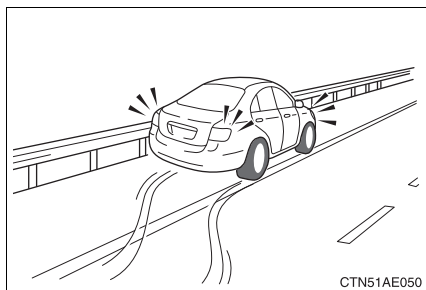
けん引について	396
警告灯がついたときは	402
警告メッセージが 表示されたときは	407
パンクしたときは （タイヤパンク応急 修理キット装着車）	416
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）	428
LPG ハイブリッドシステムが 始動できないときは	439
補機バッテリーが あがったときは	440
オーバーヒートしたときは ...	447
スタックしたときは	452

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

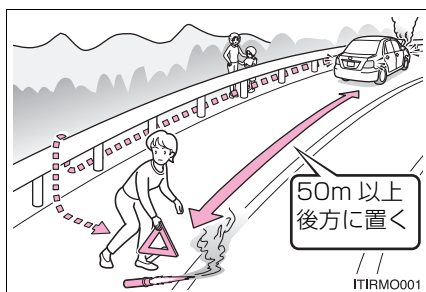
非常点滅灯（→ P. 389）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

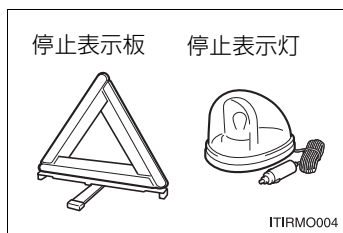
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 390）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



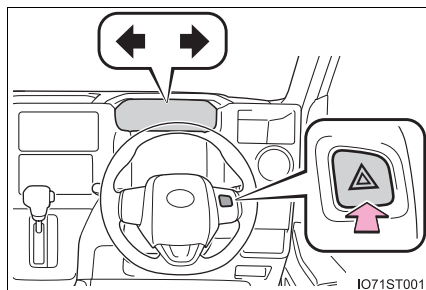
- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

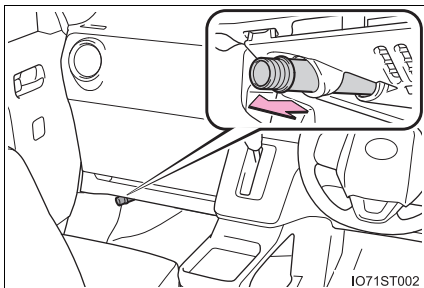
■非常点滅灯について

- LPG ハイブリッドシステムが停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

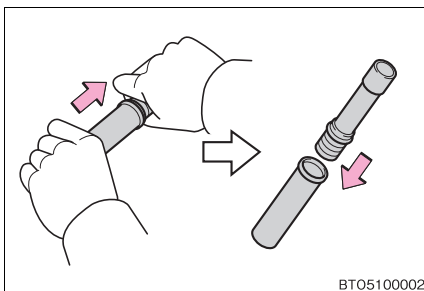
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

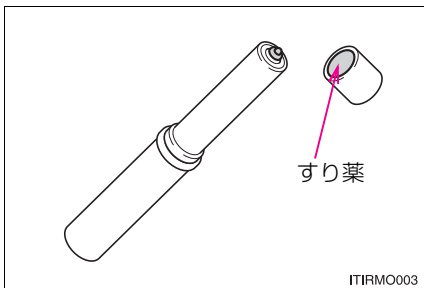


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

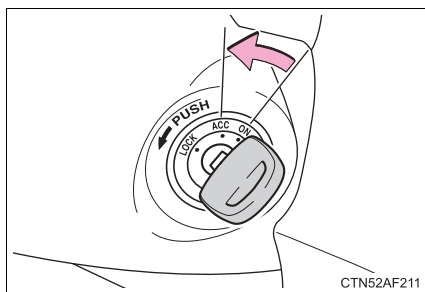
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 LPG ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを“ACC”にして、LPG ハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ず LPG ハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。LPG ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウやパワースライドドアが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントウィンドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されています。

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

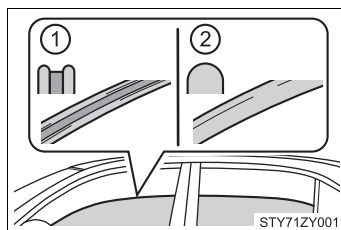
※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。

- ① 合わせガラス
- ② 強化ガラス



⚠ 警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは



警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下のURLで確認することができます。

[https://www.toyota.co.jp/ipn/
sustainability/social_contribution/
tdrs/emergency](https://www.toyota.co.jp/ipn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency)



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

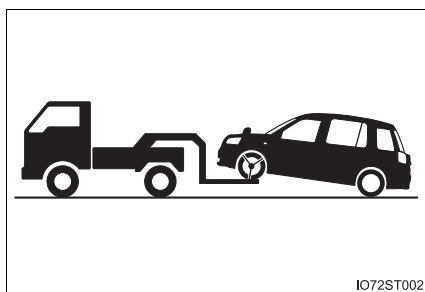
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- LPG ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

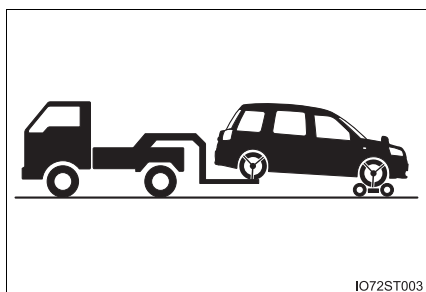
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

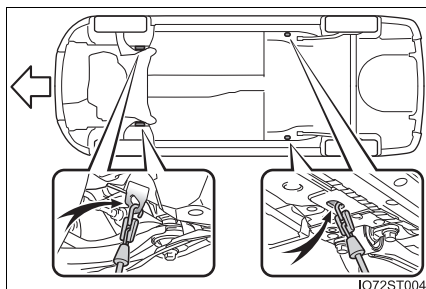
▶ うしろ向きにけん引するときは



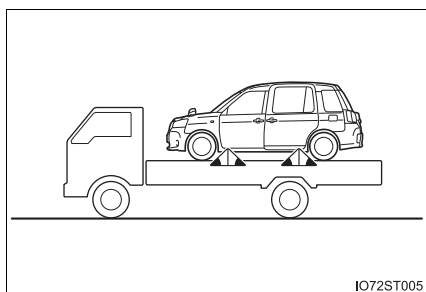
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する



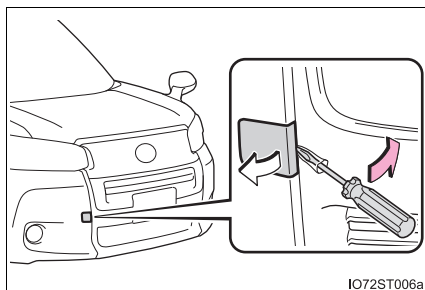
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

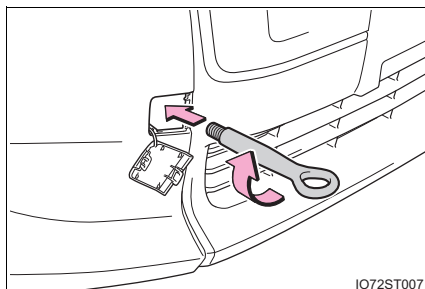
- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、けん引フックを取り出す
(→ P. 417, 429)

- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

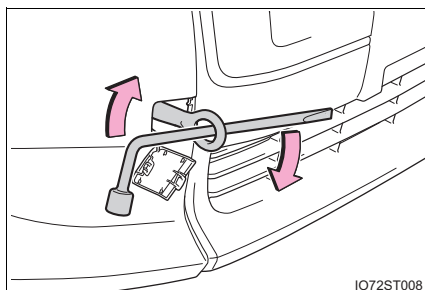
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



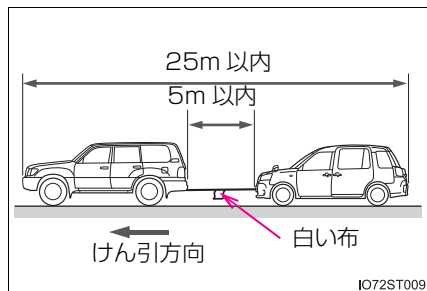
- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm×30 cm) 以上

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、LPG ハイブリッドシステムを始動する

LPG ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを“ON”にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 198

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

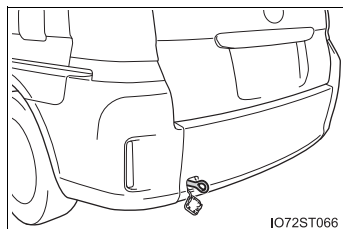
LPG ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。(→ P. 417, 429)

■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



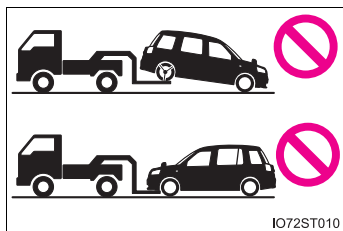
警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

**■ 他車にけん引してもらうときの運転について**

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

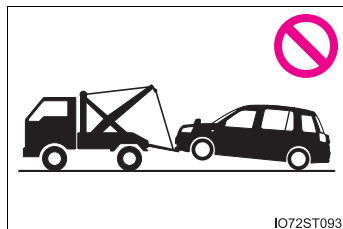
■ けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (赤色)	ブレーキ警告灯 (警告ブザー ※1, 2) ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 ※3 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。
	油圧警告灯 ※3, 4 エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ LPG ハイブリッドシステムの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	電子制御ブレーキ警告灯 (警告ブザー) ・ 回生ブレーキシステムの異常 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	スリップ表示灯（点灯したままのとき） 次のいずれかの機能の異常 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC・ABS システムの作動時は点滅します。 （→ P. 291） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※5） 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※6（警告ブザー ※7） リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	燃料残量警告灯 燃料の残量が 10% 以下になった → 燃料を補給する
	LPG 表示灯 LPG ハイブリッドシステム始動時にパワースイッチを“ON”にして点滅した場合： ・ 気温が高い ・ 登坂走行などの高負荷走行後 → 始動性を確保する制御が作動中のため、消灯するまで待つ ※8 走行中に点滅した場合 ※9： LPG タンク内の温度が高くなっている → 自動的に LPG 燃料冷却システム（→ P. 311）が作動するため、対処は不要です。 ※10
	ABS & ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー） ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (赤色／黄色)	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	高水温警告灯（警告ブザー） ※3 エンジン冷却水温の高温異常 → ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法（→ P. 447）

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ペダル誤操作警告灯（警告ブザー）※3 ブザーが鳴った場合： ・ ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ ドライブスタートコントロールの異常 ・ ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。
	PCS 警告灯（警告ブザー） PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。
 (黄色)	LDA 表示灯（警告ブザー） LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
 (黄色)	PDA 表示灯（警告ブザー） PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー） クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 412）

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	運転支援情報表示灯 次のシステムに異常が考えられます。 ・ PCS（プリクラッシュセーフティ） ・ LDA（レーンディパーチャーアラート） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、停止、または設定が OFF になっています。 ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ） ・ BSM（ブラインドスポットモニター） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

- ※¹ ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。
- ※² パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。また、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」と表示されます。
- ※³ マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。
- ※⁴ 油圧警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※⁵ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※⁶ オーバーヘッドコンソールに表示されます。
- ※⁷ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。
- ※⁸ プロパン率の高い燃料を使った場合は、LPG 表示灯の点滅の頻度が高くなる場合がありますが、異常ではありません。
- ※⁹ 通常は表示灯が点滅することはありませんが、万一点滅した場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ※¹⁰ LPG 燃料冷却システムの作動と同時にエアコンが作動します。車室温度が低下した場合は、温度を調整してください。

 知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したとき

この場合、ABS、ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めにブレーキをかけた際に車両姿勢が不安定になるおそれがあります。

ABS & ブレーキアシスト警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

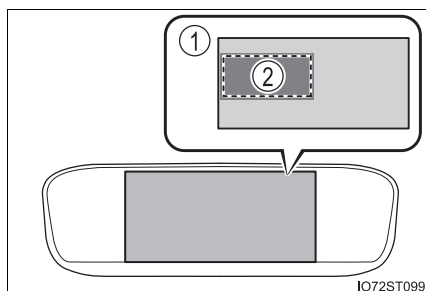
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

- ① マルチインフォメーションディスプレイ

- ② 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

専用警告灯	警告ブザー※	警告内容
—	あり	・ 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・ 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	・ 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・ 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、警告ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対処してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、個別の専用警告表示をおこないます。

- 「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS& ブレーキアシスト警告灯が点灯します。(→ P. 403)
- 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されている：
充電警告灯が点灯します。(→ P. 402)
- 「EV モードが解除されました」が表示されている：
EV ドライブモード表示灯が点灯します。(→ P. 100)
- 「燃料が少なくなりました」が表示されている：
燃料残量警告灯が点灯します。(→ P. 403)

■ 「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 447

■ 「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されたときは

- 数秒後※ に表示が消えたときは
約 15 分以上、LPG ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。
- 表示が消えないときは
「補機バッテリーがあがったときは」(→ P. 440) の手順で LPG ハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

- 「**駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください**」が表示されたとき
シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。
シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。
- 「**駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください**」が表示されたとき
一定期間シフトレバーが N になっていると、駆動用電池の残量が低下し、メッセージが表示されます。
車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、LPG ハイブリッドシステムを再起動してください。
- 「**始動時は P レンジに入れてください**」が表示されたとき
シフトレバーが P 以外の状態で LPG ハイブリッドシステムを始動しようとしたときにメッセージが表示されます。
シフトレバーを P にしてから LPG ハイブリッドシステムを始動してください。
- 「**駐車時は P レンジに入れてください**」が表示されたとき
シフトレバーが P 以外でパワースイッチを“LOCK”にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。
駐車時は P にしてください。
- 「**N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください**」が表示されたとき
シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。
アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D・B または R にしてください。
- 「**停車時はブレーキを踏んでください**」が表示されたとき
上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示されることがあります。
そのままの状態を続けると LPG ハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。
アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
- 「**充電システム故障**」が表示されたとき
充電システムが故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・ 「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」 (→ P. 447)
 - ・ 「補機バッテリー (始動用) 充電不足 取扱書を確認してください」 (→ P. 440)
 - ・ 「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」 (→ P. 366)
- 「ハイブリッドシステム故障 安全な場所に停車して取扱書を確認」が表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
 - ・ 「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」
 - ・ 「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
- 「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
 - ・ 駆動用電池冷却用吸入口を清掃する (→ P. 366)駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります」が表示されたとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■「LPG 充填口開検知 安全な場所に停車して閉じてください」が表示されたとき

READY インジケーターが点灯しているときに燃料補給口のフタが開いているとメッセージが表示されます。走行中の場合は安全な場所に停車して、燃料補給口のフタを閉めてください。また、LPG ハイブリッドシステムを始動する場合は燃料補給口のフタを閉めてください。

■シフトレバーの操作を指示するメッセージが表示されたときは

誤操作や車両の意図せぬ動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■「販売店で点検してください」が表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告ブザーについて

→ P. 406

■「ソナーに水滴、雪等が付着しています」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「機能故障 販売店で点検」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）★
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「機能停止 取扱書を確認」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）★
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
 - ・ センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→ P. 276）
 - ・ センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。（→ P. 272）
 - ・ センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■「機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ・ ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- ・ エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。
- ・ ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「機能停止 前方カメラ作動温度範囲外常温までお待ちください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LDA (レーンディパーチャーアラート)
-  AHB (オートマチックハイビーム)
-  RSA (ロードサインアシスト)
-  発進遅れ告知機能
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- ・特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- ・極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■「機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  発進遅れ告知機能
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- ・レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→ P. 225)
- ・砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。
車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■「機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  発進遅れ告知機能
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■「機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認」が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  発進遅れ告知機能
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

次の対処法に従ってください。

- ・ レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 225）
- ・ レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

 注意**■「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認してください」がひんばんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

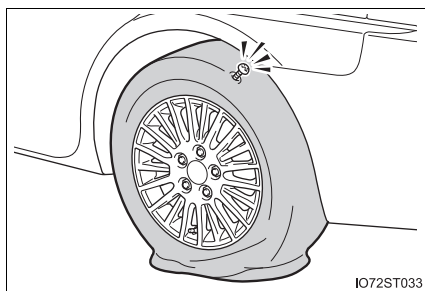
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。



IO72ST033

- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所がなるべく上になるように車両を移動してください。

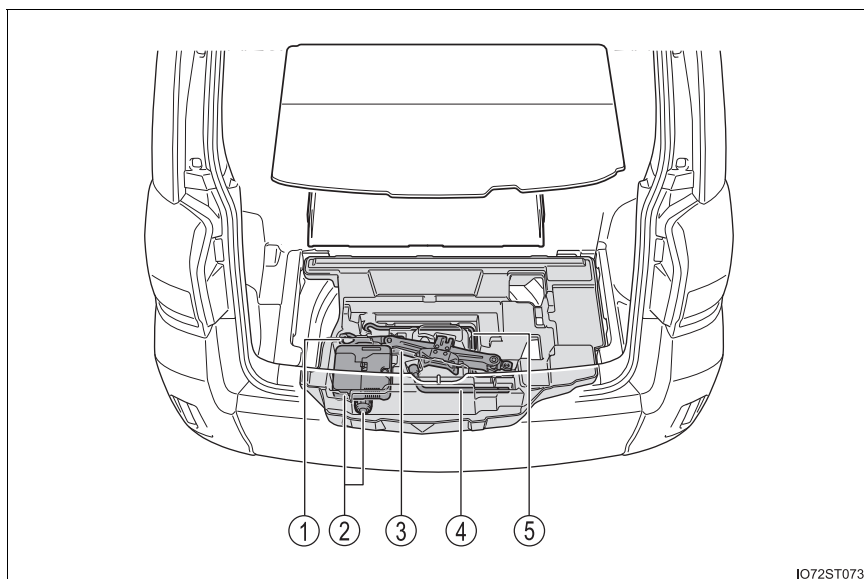
 知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

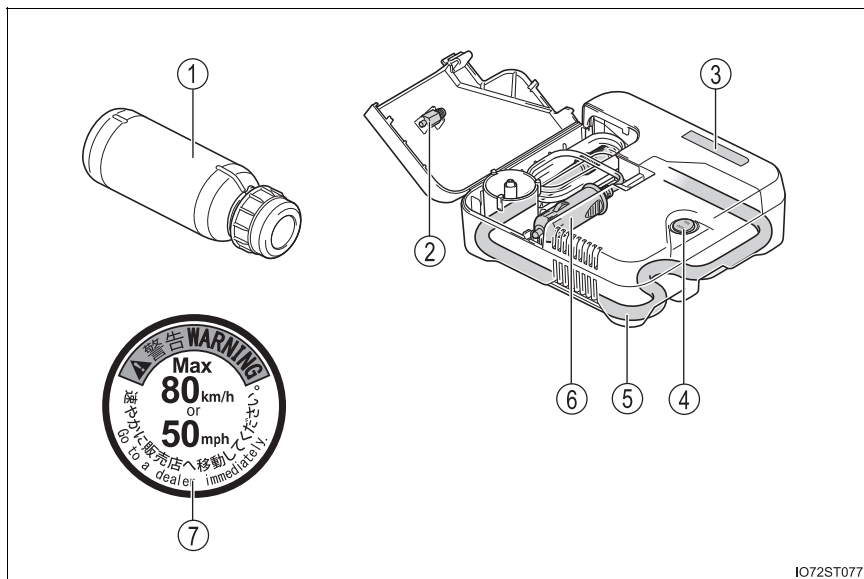
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置



- | | |
|-----------------|--------------|
| ① けん引フック | ④ ホイールナットレンチ |
| ② タイヤパンク応急修理キット | ⑤ ジャッキハンドル |
| ③ ジャッキ | |

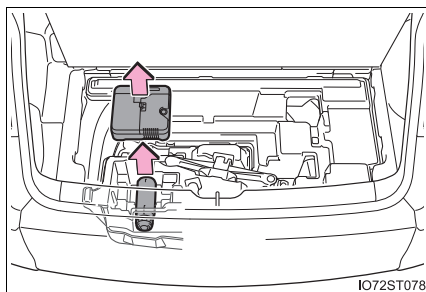
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



- ① ボトル
- ② 空気圧逃がしキャップ
- ③ 空気圧計
- ④ スイッチ
- ⑤ ホース
- ⑥ 電源プラグ
- ⑦ 速度制限ラベル

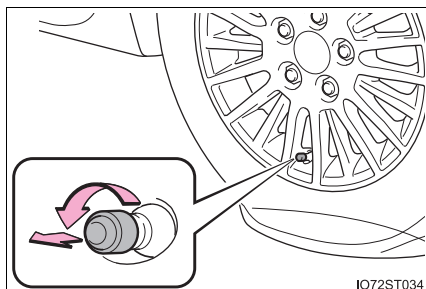
応急修理キットの取り出し方

- 1 デッキボードとスロープ No.2 を取りはずす (→ P. 145, 321)
- 2 応急修理キットを取り出す

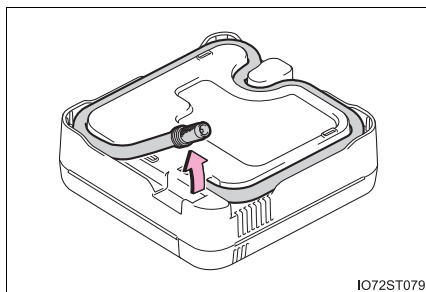


応急修理するとき

- 1 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

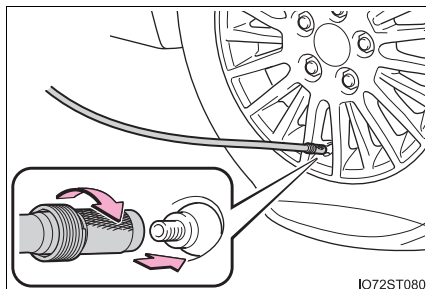


- 2 コンプレッサーの下面よりホースを取り出す

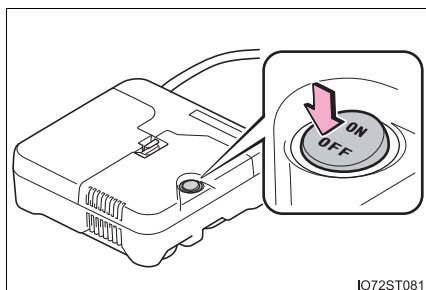


- 3 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

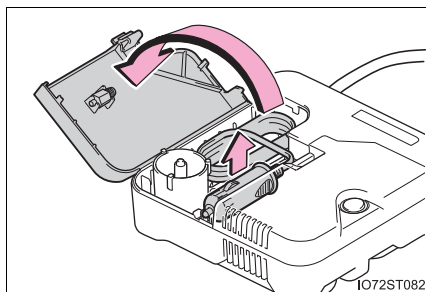
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。



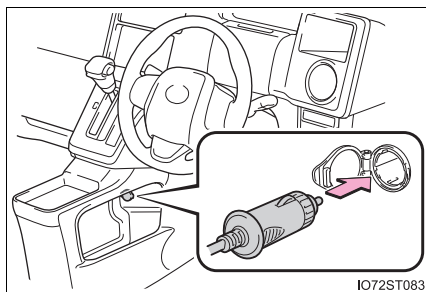
- 4 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



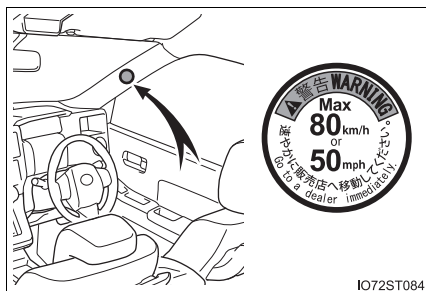
- 5 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグを取り出す



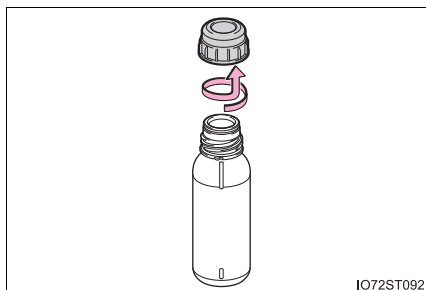
- 6 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→ P. 326)



- 7 付属のラベルを図のように貼り付ける

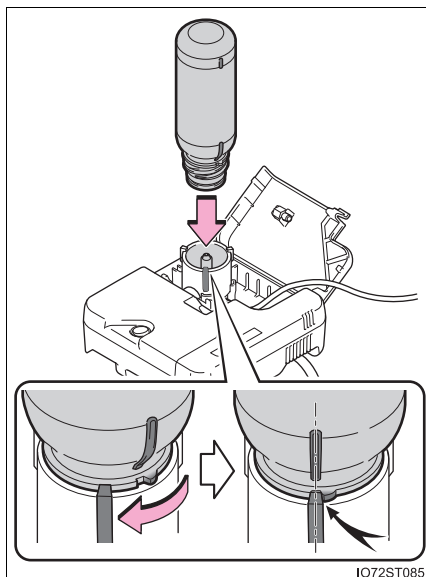


- 8 ボトルのキャップを外す

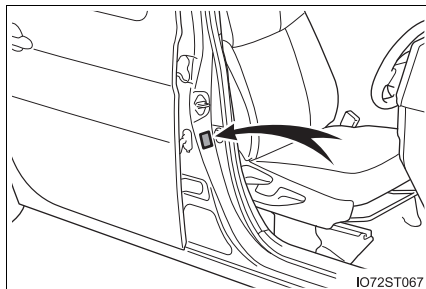


9 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入し、ボトルを時計まわりに回してストッパーに止まるまでねじ込んでください。

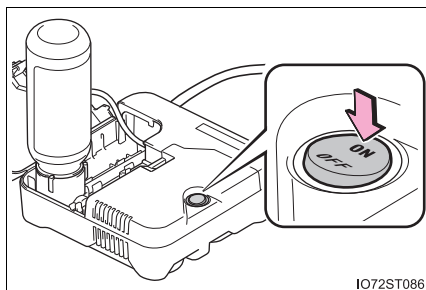


10 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルを確認することができます。(→ P. 360)



11 LPG ハイブリッドシステムを始動する

12 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



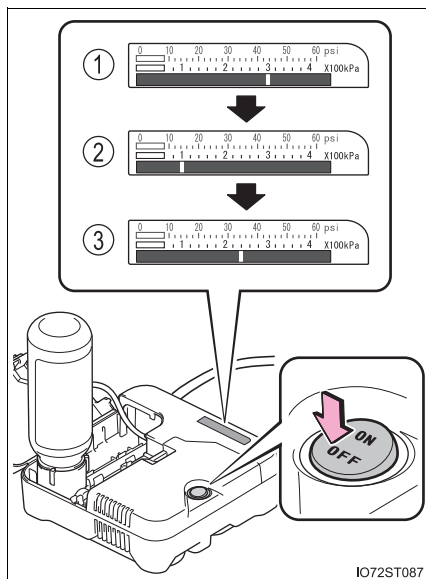
13 空気が指定空気圧になるまで充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→ P. 424)



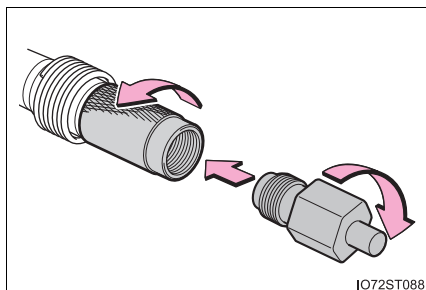
I072ST087

14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、バルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける**16** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

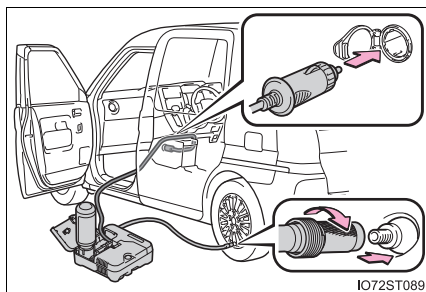
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



I072ST088

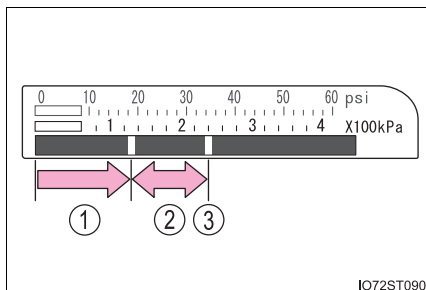
17 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する**18** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

- 19** 走行後、ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



- 20** コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にして空気圧を確認する

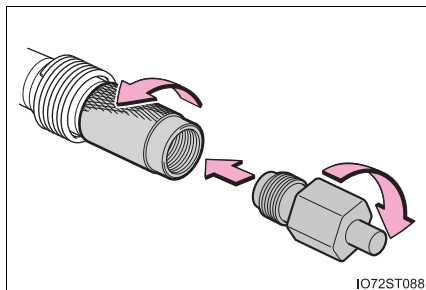
- ① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。
トヨタ販売店にご連絡ください。
- ② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順**21**へ
- ③ 空気圧が指定空気圧(→P. 459)の場合：手順**22**へ



- 21** コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順**19**から実施する

- 22** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



- 23** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

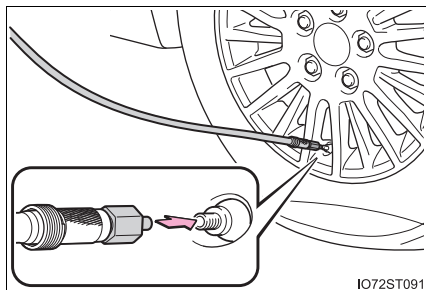
- 24** 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行く

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

 知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。
有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 警告**■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、コンプレッサーの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを“OFF”にし、修理を中止してください。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットを上下逆さまにして使用しないでください。故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 359 を参照してください）

警告

■ タイヤがパンクしたときは

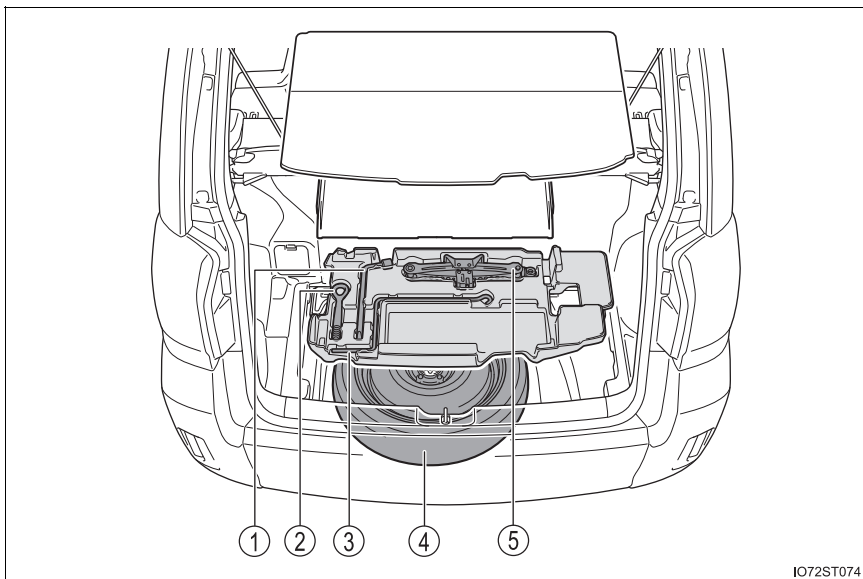
パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 389）

工具の位置



 警告**■ ジャッキの使用について**

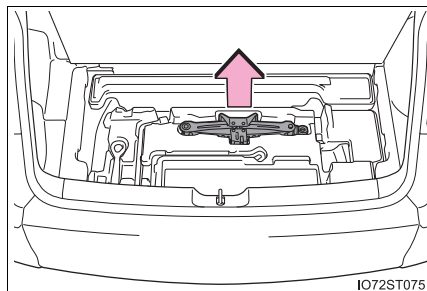
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、LPG ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

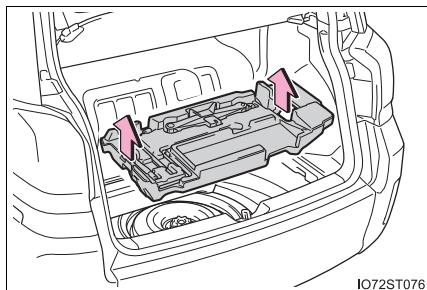
ジャッキの取り出し方

- 1 デッキボードとスロープ No.2 を取りはずす (→ P. 145, 321)
- 2 ジャッキを取り出す

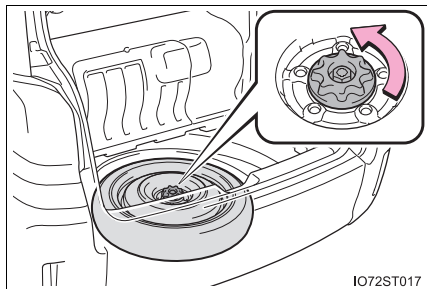


応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボードとスロープ No.2 を取りはずす (→ P. 145, 321)
- 2 デッキアンダートレイを取りはずす



- 3 留め具を取りはずし、応急用タイヤを取り出す



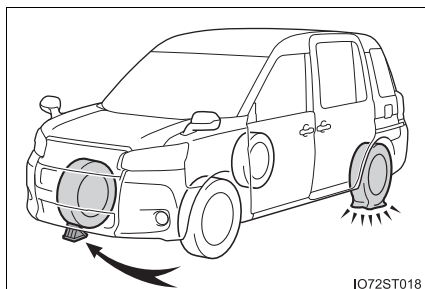
警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

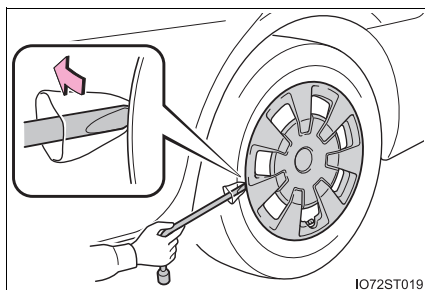


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

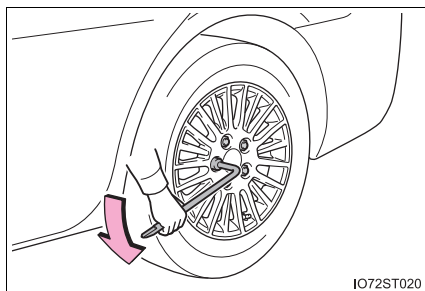
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 スチールホイール装着車：ホイールキャップを取りはずす

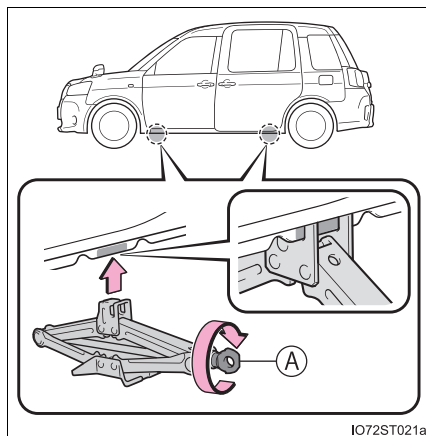
傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先に布などを巻いて保護してください。



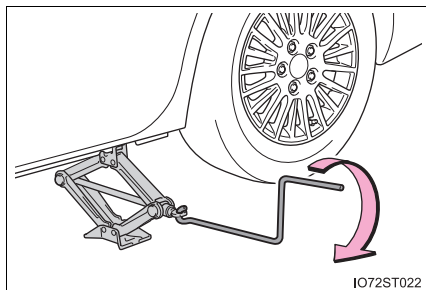
3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



- 4 ジャッキの①部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

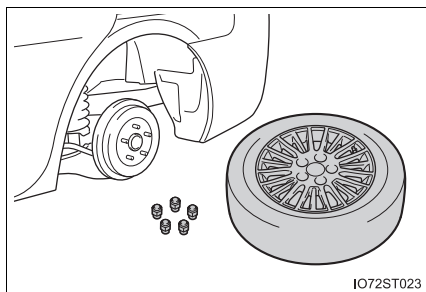


- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



- 6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



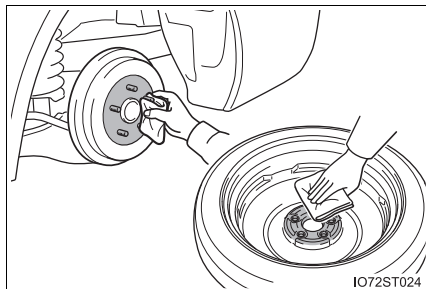
 警告**■ タイヤ交換について**

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

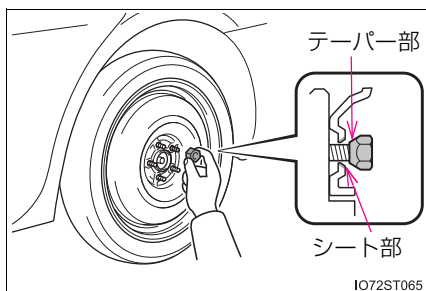
- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

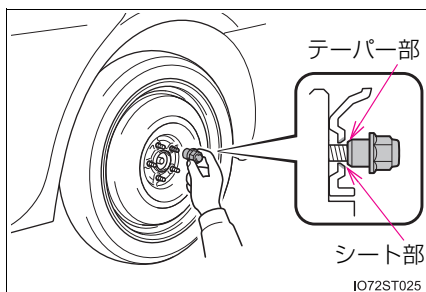


- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

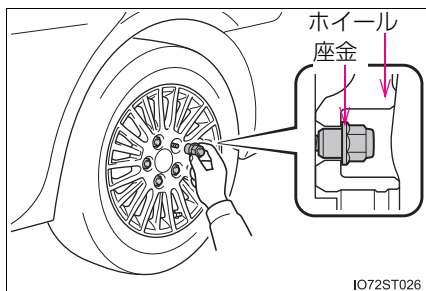
スチールホイールからスチールホイールまたは応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパ部分がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



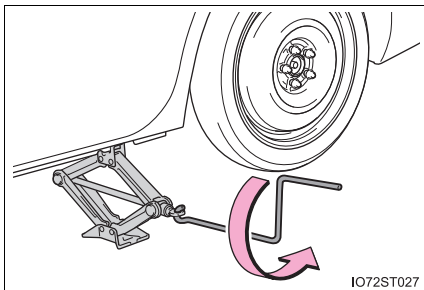
アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパ部分がホイールのシート部に軽くあたるまでまわします。



アルミホイールからアルミホイールにかえるときは、ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



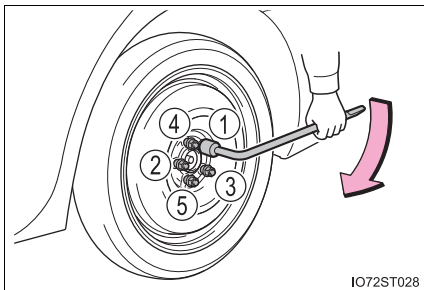
3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

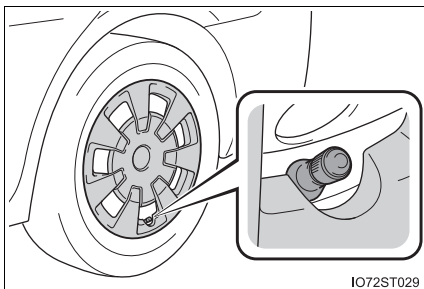
103N・m (1050kgf・cm)



5 スチールホイール装着車：車両に装着されていたホイールにもどしたときは、ホイールキャップを取り付ける※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ 応急用タイヤに取り付けることはできません。



6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

 知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→ P. 459)

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤと交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

 警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度(トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン)をこえて使用しないでください。

 警告**■ 応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ TRC
- ・ EPS
- ・ オートマチックハイビーム
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- ・ LDA（レーンディパーチャーアラート）
- ・ PKSB

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあります。

 注意**■ 応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

LPG ハイブリッドシステムが始動できないときは

LPG ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことを確認いただき、適切に対処してください。

正しいLPG ハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 190）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
燃料補給してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 95）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 440）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 355）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーン鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 440）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
（→ P. 355）

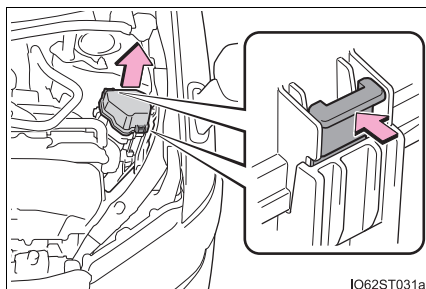
対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもLPG ハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

補機バッテリーがあがったときは

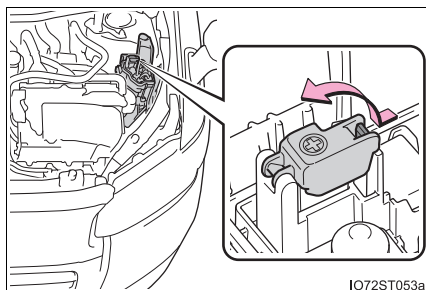
補機バッテリーがあがった場合、次の手順で LPG ハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、LPG ハイブリッドシステムを始動させることができます。

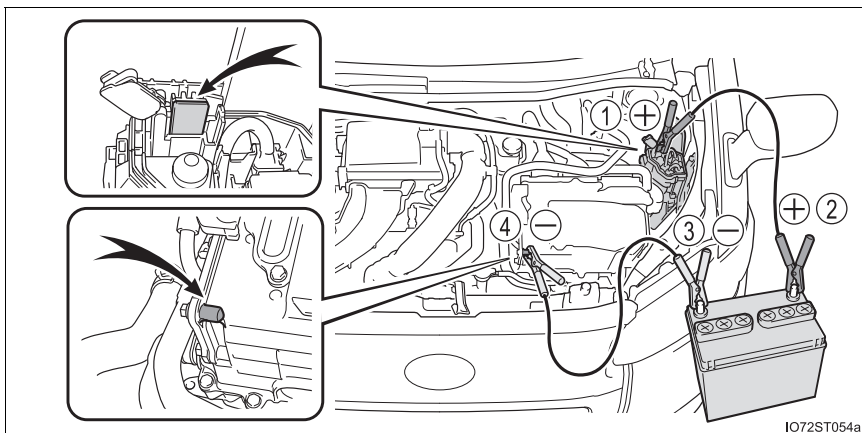
- 1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす
→ P. 373



- 2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



- ① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、救援用端子から離れた、図に示す金属部につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん“ON” にしてから LPG ハイブリッドシステムを始動する
- 6 READY インジケーターが点灯することを確認する
点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 7 LPG ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
- 8 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスカバーをもとどおりに取り付ける

LPG ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識**■補機バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- LPG ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコン等の電源を切ってください。(LPG ハイブリッドシステムによるエンジン停止中を除く)
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→ P. 469)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→ P. 355

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがって LPG ハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーは LPG ハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

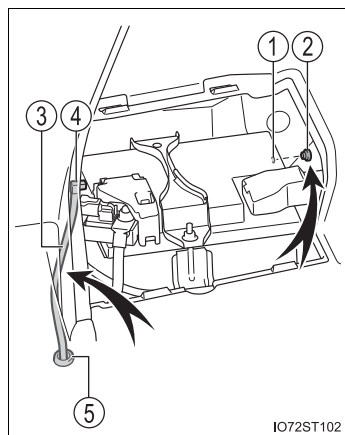
■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
 - 交換前と同一のケースサイズ (LN1)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (45Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (285A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、LPG ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - ・ 適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合には LPG ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
 - 一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。
 - ハンドル（取っ手）の付いているバッテリーを使用してください。
ハンドル（取っ手）が付いていないバッテリーを使用すると、バッテリーを取り出しにくくなります。
 - 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・ 排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボが排気ホースと補機バッテリー排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ 排気穴栓がエルボが接続しない側の排気穴に確実に接続されていることを確認してください。
 - ・ エルボ／排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ① 排気穴
- ② 排気穴栓
- ③ 排気ホース
- ④ 排気穴
- ⑤ 車両穴部



IO72ST102

 警告**■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有害で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、補機バッテリー液（硫酸）が皮膚・衣服・車体等に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤って補機バッテリー液（硫酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤って補機バッテリー液（硫酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

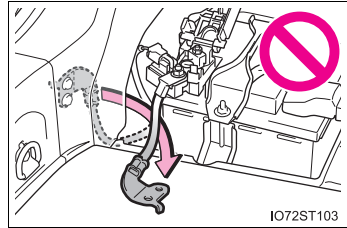
■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

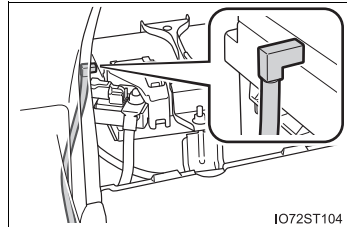
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

⚠ 警告**■ 補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 補機バッテリーの交換について**

- 液栓やインジケーターがスターに近いと、補機バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーの－端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 補機バッテリーを交換するときは**

液栓やインジケーターがステーに近いと、補機バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。

■ ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について

救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたり、LPG ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム 高温 出力制限中です」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたとき

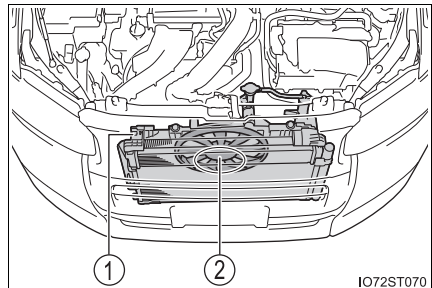
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、LPG ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

- 3 LPG ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

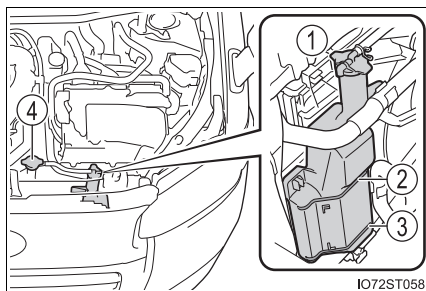
- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



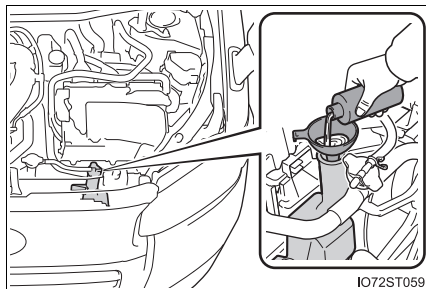
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する

- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）
- ④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



- 6 LPG ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

LPG ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐに LPG ハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

- 8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

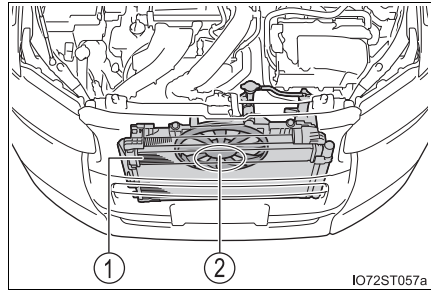
表示が消えていない場合：
LPG ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 LPG ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

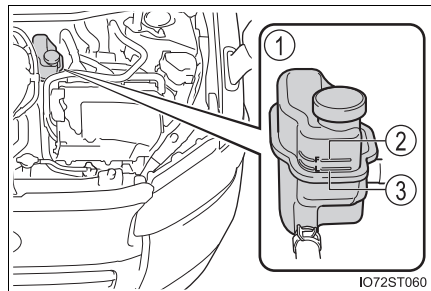
- 3 LPG ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



- ① ラジエーター
- ② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

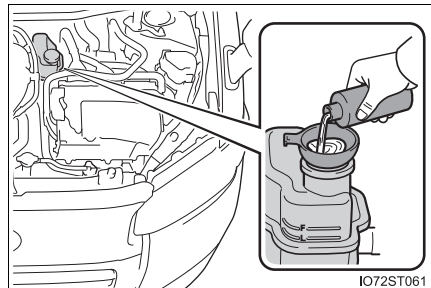
- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）の間にあるかを点検する



- ① リザーバータンク
- ② “F”（上限）
- ③ “L”（下限）

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→P. 458）

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



- 6 LPG ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、LPG ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：

LPG ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：

LPG ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- LPGハイブリッドシステムの停止後は、READYインジケーターが消灯していることを確認してください。LPG ハイブリッドシステムが作動していると、LPG エンジンが自動的に動き出したり、LPG エンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- LPG ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

LPG ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
LPG ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、LPG ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

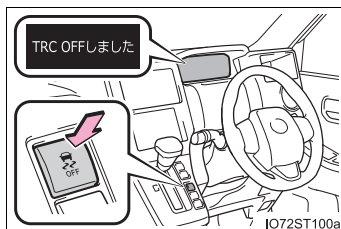
- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてLPG ハイブリッドシステムを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 LPG ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき



を押してTRCをOFFにしてください



警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量
など）456

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....461

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目469

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものををご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
LP オートガス ※ ¹	58※ ²

※¹ プロパン率（燃料のプロパン割合）100%のオートガスも使用できます。

※² 保安基準により、タンク容量の80%が最大補給（充てん）量となります。

エンジンオイル

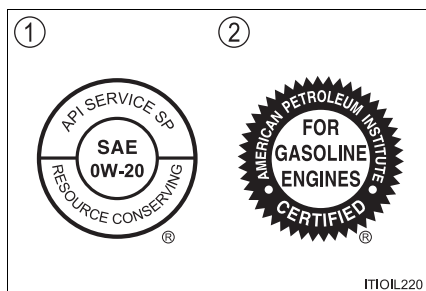
指定銘柄	容量 [L] （参考値 ※）	
	オイル のみ交換	オイルと オイル フィルター 交換
推奨： トヨタ純正 モーターオイルSP 0W-20 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正 モーターオイル SP 5W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30 トヨタ純正 モーターオイル SP 10W-30 —API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 10W-30	3.4	3.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、LPG エンジンの暖機後に LPG ハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

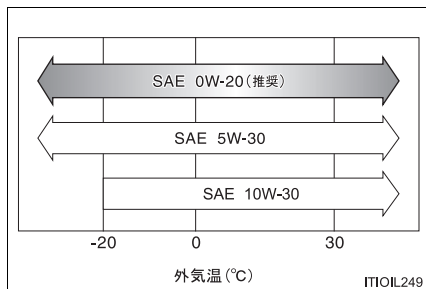
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-20 が入手困難な場合は、5W-30、10W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 50% - 35°C	LPG エンジン	5.7
	インバーター	1.5

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード WS	3.4

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	98 以上

※ LPG ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N (30.6kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 (回数)
踏みしろ 操作力 300N (30.6kgf) のときのノッチ ※ 数	6 ~ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“ カチッ ”）という音のことです

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.3

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	185/65R15 88S	15 × 5 1/2J	200 (2.0)	
応急用 タイヤ★	T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)	

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	103 (1050)
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） （バルブタイプ：H4）	60 / 55
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5

※ 表に記載の無いランプはLEDを採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
JPN TAXI	NTP10	1NZ-FXP (1.5L LPG)	2LM	FF (前輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更できる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択する
 - 2 **◀** または **▶** を押して変更する項目を選択し、 スイッチを押す
 - 3 **◀** または **▶** を押して設定したい項目を選択し、 スイッチを押す
- 設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

- ① マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
 ② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ(→ P. 102, 105)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
メーター照度	・ レベル 1 ～ 5	○	—
単位	・ km/h ・ L/100km	○	—
燃費グラフ	・ 始動後平均燃費 ・ リセット間平均燃費 ・ 給油後平均燃費	○	—
アクセルガイド	・ ON ・ OFF	○	—
エネルギーモニター	・ ON ・ OFF	○	—
ドライブインフォメーション	・ 走行距離 ・ 走行時間 ・ 平均車速	○	—

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 116)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ワイヤレス機能	・ あり ・ なし	—	○
作動の合図 (非常点滅灯)	・ あり ・ なし	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	・ 30 秒 ・ 60 秒 ・ 120 秒	—	○

■ パワースライドドア (→ P. 121)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
作動を開始するときのパワースライドドアスイッチ操作	・ 短押し ・ 長押し	—	○
作動開始後のパワースライドドアスイッチ操作	・ スイッチを操作しているあいだ開閉する ・ スイッチを操作すると自動で開閉する	—	○
閉作動中のブザー	・ あり ・ なし	—	○

■ ランプ★ (→ P. 202)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
LED デイライト	・ あり ・ なし	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 202)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ライトセンサーの感度	・ -2 ~ +2	—	○
消し忘れ防止機能	・ パワースイッチを“LOCK”にしたとき消灯 ・ 運転席ドアを開けたとき消灯	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション (→ P. 315)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
消灯までの時間	・ 7.5 秒 ・ 15 秒 ・ 30 秒	—	○
解錠後の作動	・ あり ・ なし	—	○
パワースイッチ “LOCK” 後の作動	・ あり ・ なし	—	○
足元照明の点灯	・ あり ・ なし	—	○
足元照明の調光制御	・ あり ・ なし	—	○
室内照明の点灯制御	・ あり ・ なし	—	○

■ LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 245)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
レーンディパーチャーアラート (LDA)	・ ON ・ OFF	○	—
警報タイミング	・ 標準 ・ 早い	○	—
警報手段	・ ハンドル振動 ・ ブザー	○	—
低車速支援	・ ON ・ OFF	○	—

■ 休憩提案 (→ P. 248)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
休憩提案	・ ON ・ OFF	○	—

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→ P. 232）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
プリクラッシュセーフティ	・ ON ・ OFF	○	—
警報タイミング	・ 遅い ・ 標準 ・ 早い	○	—

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→ P. 251）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）	・ ON ・ OFF	○	—
支援感度	・ 低い ・ 標準 ・ 高い	○	—
操舵アシスト（SA）	・ ON ・ OFF	○	—
減速アシスト（DA）	・ ON ・ OFF	○	—
障害物先読みアシスト（OAA）	・ ON ・ OFF	○	—

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→ P. 265）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ブラインドスポットモニター機能	・ あり ・ なし	○	—
アウターミラーインジケータの明るさ	・ 暗い ・ 明るい	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	・ 遅い ・ 標準 ・ 早い	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 発進遅れ告知 (→ P. 263)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
先行車	・ ON ・ OFF	○	—
信号	・ ON ・ OFF	○	—
告知タイミング	・ 遅い ・ 標準 ・ 早い	○	—

■ クリアランスソナー (→ P. 272)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
クリアランスソナー機能	・ あり ・ なし	○	—
ブザー音量	・ 小 ・ 中 ・ 大	○	—

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→ P. 287)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
PKSB (パーキングサポートブレーキ) 機能	・ ON ・ OFF	○	—

■ RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 258）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ロードサインアシスト	・ ON ・ OFF	○	—
速度標識超過告知方法	・ 表示 ・ 表示とブザー ・ 無	○	—
その他告知方法	・ 表示 ・ 表示とブザー ・ 無	○	—
速度超過告知車速	・ 2km/h ・ 5km/h ・ 10km/h	○	—

■ オートエアコン（→ P. 304）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
AUTO スイッチがON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	・ する ・ しない	—	○

■ ドライブスタートコントロール（→ P. 181）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
後退速度の抑制制御	・ あり ・ なし ※	○	—

※ “なし” に変更しても、パワースイッチを“ON” にするたびに“あり”にもどります。

■ リヤシートリマインダー（→ P. 125）

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
後席忘れ防止の表示	・ あり ・ なし	○	—

 知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」の設定に依存します。

 警告

■ カスタマイズを行うとき

LPG ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ カスタマイズを行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に LPG ハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワースライドドア	・ 補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ ヒューズ交換時	P. 124
クリアランスソナー	・ 補機バッテリーを脱着したときやあがったとき	P. 272
パーキングサポートブレーキ	・ 補機バッテリーを脱着したときやあがったとき	P. 281

さくいん

こんなときは (症状別さくいん).....	472
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	475
アルファベット順さくいん.....	476
五十音順さくいん	478

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 116）
- キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。



解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 370）
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→ P. 120）



右側リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 119）



スライドドアが全開にならない

- ストッパーがかかっていますか？
燃料補給口のフタが開いていると、スライドドアはわずかにしか開きません（ストッパー位置で停止します）。燃料補給口のフタを閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 123）

故障かな？と思ったら**LPG ハイブリッドシステムが始動しない**

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 197）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 440）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない**

- パワースイッチの位置が “ON” になっていますか？
パワースイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 198）

**パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 176）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 475）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 402, 407 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車：車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 416）
- 応急用タイヤ装着車：車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 428）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 452）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	パワースイッチにキーが挿してある	P. 193
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 205

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 120
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 405
	運転席・助手席・リヤ席のシートベルトを着用していない※	P. 405
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 185
前方の車両と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 232
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 245
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 263

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C	
(エアコン)	304
ABS	
(アンチロックブレーキシステム)	290
ACC	
(アクセサリ)	191
AHB	
(オートマチックハイビーム)	207
BSM	
(ブラインドスポットモニター)	265
ECB	
(エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム)	290
EDR	
(イベントデータレコーダー)	11
EPS	
(エレクトリックパワーステアリング)	290
FF	
(フロントエンジンフロントドライブ)	460
ILSAC CERTIFICATION	
(イルサックサーティフィケーション)	457
ISOFIX	
(アイソフィックス／イソフィックス)	59, 62
LDA	
(レーンディパーチャーアラート)	245
LED	
(ライトエミッティングダイオード)	386
PCS	
(プリクラッシュセーフティ)	232
PDA	
(プロアクティブドライビングアシスト)	251
PKSB	
(パーキングサポートブレーキ)	281
RSA	
(ロードサインアシスト)	258
SRS	
(サブリメンタルレストレイントシステム)	37

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール)290

TRC

(トラクションコントロール)290

VSC

(ビークルスタビリティコントロール)290

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）.....	440
アウターミラー.....	174
操作.....	174
ミラーヒーター.....	306
アクセサリーコンセント.....	327
アクセサリーソケット.....	326
アクセサリーモード.....	191
アシストグリップ.....	337
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....	290

い

イージークローザー	
スライドドア.....	123
EV ドライブモード.....	195
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....	190
位置交換（タイヤローテーション）.....	359
イベントデータレコーダー（EDR）.....	11
イモビライザーシステム.....	95
イルミネーテッドエントリーシステム.....	317
インジケーター（表示灯）	
ハイブリッドシステム	
インジケーター.....	104
表示灯.....	100
READY.....	190
インテリアランプ（室内灯）.....	315
操作.....	316
ワット数.....	460
インナーミラー.....	173

う

ウインカー（方向指示灯）.....	200
電球（バルブ）	
の交換.....	379, 381, 382
方向指示レバー.....	200
ワット数.....	460
ウインドウ.....	176
ウォッシャー.....	211, 214
パワーウインドウ.....	176
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	306
ウインドウロックスイッチ.....	176
ウインドシールド	
デアイサー.....	306
ウォーニングランプ（警告灯）.....	98, 402
ウォッシャー.....	211, 214
液の補充.....	358
スイッチ.....	211, 214
タンク容量.....	459
冬の前の準備・点検.....	299
動けなくなったときは（スタック）.....	452
うしろ側固定ベルト.....	159
運転.....	180
運転を補助する装置.....	290
寒冷時の運転.....	299
正しい運転姿勢.....	30
手順.....	180
ハイブリッド車運転のアドバイス.....	297

え

エアコン	304
オートエアコン	304
フィルターの清掃・交換	364
「ナノイーX」	310
エアバッグ	37
SRS エアバッグ警告灯	402
作動条件	42
配置	37
エネルギーモニター	110
LDA (レーンディパーチャーアラート)	245
LPG エンジン	
イモビライザーシステム	95
LPG ハイブリッドシステムの	
始動方法	190
エンジン警告灯	402
オーバーヒート	447
パワースイッチ	190
ボンネット	354
LPG ハイブリッドシステム	
EV ドライブモード	195
運転のアドバイス	297
オーバーヒート	447
回生ブレーキ	87
ガス欠になったとき	92
緊急時の停止方法	392
緊急停止システム	91
駆動用電池冷却用吸入口	91
警告メッセージ	92
高電圧部位	90
サービスプラグ	93
事故が発生したとき	93
始動できないときは	439
始動方法	190
車両接近通報装置	87

充電	88
注意	90
特徴	86
特有の音と振動	89
パワー (イグニッション)	
スイッチ	190
補機バッテリーがあがった	440
メンテナンス・	
修理・廃車するとき	89
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	290
機能	290
パワーステアリング	
警告灯	403
パワーステアリング警告	
ブザー	403
エンジン	
イモビライザーシステム	95
LPG ハイブリッドシステムの	
始動方法	190
エンジン警告灯	402
オーバーヒート	447
パワースイッチ	190
ボンネット	354
エンジンオイル	456
冬の前の準備・点検	299
メンテナンスデータ	456
油圧警告灯	402
油圧警告ブザー	402
エンジンフード (ボンネット)	354
開け方	354
エンジンルーム	
エンジンルームから	
蒸気が出ている	447

お

オイル（エンジンオイル）	456
オートエアコン	304
オートマチックハイビーム	207
オーバーヒート	447
オープナー	
燃料補給	217
ボンネット	354
お子さまを乗せるとき	46
ウインドウロックスイッチ	176
お子さまの安全のために	46
子供専用シート	47
シートベルトの着用	33
チャイルドシートの取り付け ...	59
チャイルドプロテクター	119
オドメーター	102
機能	102
表示切りかえボタン	103

か

カーテンシールドエアバッグ	37
カーペット	
洗浄	349
フロアマットの取り付け方	28
外気温度表示	102
回生ブレーキ	87
外装の電球（バルブ）	376
交換要領	376
ワット数	460
外部給電アタッチメント	328
カスタマイズ機能	461
型式	460
カメラ	
前方カメラ	224

ガラスの曇り止め

（リヤウインドウ デフォグガー）	306
ガレージジャッキ	357
冠水路走行	188
寒冷時の運転	299

き

キー	116
LPG ハイブリッドシステムが 始動できない	439
キーナンバプレート	116
キーの構成	116
キーレスエントリー	118
キーをなくした	116
電池が切れた	370
ワイヤレスリモコン	118
キーレスエントリー	118
ワイヤレスドアロック	118
緊急時シートベルト固定機構	33
緊急時の対処	
LPG ハイブリッドシステムが 始動できない	439
オーバーヒートした	447
キーの電池が切れた	370
警告灯がついた	402
警告メッセージが 表示された	407
けん引	396
故障したときは	388
車中泊が必要なときは	395
車両を緊急停止する	392
水没・冠水したときは	393
スタックした	452
発炎筒	390
パンクした	416, 428
補機バッテリーがあがった	440

く

空気圧 (タイヤ)	459
メンテナンスデータ	459
区間距離計	
(トリップメーター)	102
機能	102
表示切りかえボタン	103
駆動用電池	90
曇り取り	
フロントウインドウ	
ガラス	306
ミラーヒーター	306
リヤウインドウ	
デフォッガー	306
クラクション (ホーン)	171
クリアランスソナー	272
クリアランスランプ (車幅灯) ...	202
スイッチ	202
電球 (バルブ) の交換	380
ワット数	460
クリップ	
フロアマット	28
車いす	
車いすのタイヤ空気圧	143
重量	143
乗車可能な車いす	143
車いす用シートベルト	
清掃	349
着用	164
リルーター	168

車いす用ベルト類	159
うしろ側固定ベルト	159
シートベルト延長用ベルト ...	147
清掃	168
前側固定ベルト	159
リルーター	168

け

警告器 (ホーン)	171
計器類 (メーター)	102
警告灯	98
照度調整	103
表示灯	100
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	105
メーター	102
警告灯	98
運転支援表示灯	405
ABS & ブレーキアシスト	403
SRS エアバッグ /	
プリテンショナー	402
LDA 表示灯	404
LPG 表示灯	403
エンジン	402
エンジンオイル圧力	402
クリアランスソナー OFF	
表示灯	404
高水温	403
シートベルト非着用	403
充電	402
スリップ表示灯	403

電子制御ブレーキ	402
燃料残量	403
パワーステアリング	403
PCS	404
PDA 表示灯	404
プリテンショナー	402
ブレーキ	402
ペダル誤操作	404
油圧	402
警告ブザー	
LDA（レーンディパーチャー	
アラート）	404
クリアランスソナー	404
高水温	403
シートベルト非着用	403
パーキングブレーキ	
未解除走行時	405
パワーステアリング	403
半ドア走行時	120
PCS（プリクラッシュ	
セーフティ）	404
PDA（プロアクティブ	
ドライビングアシスト）	404
ブレーキ	402
ランプ消し忘れ	205
リバース	198
警告メッセージ	407
化粧ミラー（バニティミラー） ..	325
けん引	396
けん引のしかた	396
フック	398

こ

交換

エアコンフィルター	364
キーの電池	370
タイヤ	428
電球（バルブ）	376
ヒューズ	373
工具（ツール）	417, 429
光軸調整ダイヤル	204
航続可能距離	106
後退灯（バックアップランプ）	
電球（バルブ）の交換	382
ワット数	460
高電圧部位	90
コーションラベル	90
子供専用シート	47
選択方法	47
取り付け方	59
コンライト	
（自動点灯・消灯装置）	202

さ

サイドエアバッグ	37
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	381
方向指示レバー	200
サイドミラー	174
操作	174
ミラーヒーター	306
サービスプラグ	93
サンバイザー	325

し

シート	136
子供専用シート	47
正しい運転姿勢	30
調整	136
手入れ	348
フロントシート	136
ヘッドレスト	138
シートバックアシストボード	337
シートヒーター	313
シートベルト	32
お子さまの着用	33
緊急時シートベルト固定機構	33
シートベルト非着用警告灯	403
シートベルトリーチャー	33
正しく着用するには	32
着け方・はずし方	32
手入れ	349
妊娠中の方の着用	35
シートベルト延長用ベルト	147
シートベルトプリテンショナー	33
機能	33
プリテンショナー警告灯	402
事故が発生したとき	
(LPG ハイブリッドシステムの	
注意)	93
室内灯	315
操作	316
ワット数	460

始動のしかた	190
シフトポジション	197
シフトレバー	197
シフトレンジの切りかえ	197
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	198
操作	197
リバース警告ブザー	198
シフトレバーがシフト	
できないときは	198
シフトロックシステム	198
締め付けトルク (ホイール)	436
車中泊が必要なときは	395
ジャッキ	
ガレージジャッキ	357
車載ジャッキ	429
ジャッキハンドル	417, 429
車幅灯	
スイッチ	202
電球 (バルブ) の交換	380
ワット数	460
車両型式	460
車両仕様 (スペック)	456
車両接近通報装置	87
車両データの記録	8
車両を緊急停止するには	392
瞬間燃費	106
仕様 (車両仕様)	456

す

スイッチ

アウターミラー	174
EV ドライブモード	195
イグニッション	190
ウインドウロック	176
ウインドシールド	
デアイサー	306
ウォッシャー	211, 214
LDA	245
オートマチックハイビーム	207
シートヒーター	313
ステアリングスイッチ	103
ドアロック	119
パワーウインドウ	176
パワースイッチ	190
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	389
VSC OFF	292
ランプ	202
リヤウインドウ	
デフォグガー	306
ワイパー	211, 214
スタック	452
ステアリングアシステッド	
ビークルスタビリティ	
コントロール (S-VSC)	290

ステアリングホイール

(ハンドル)	171
位置調整	171
スイッチ	103
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	385
スノータイヤ (冬用タイヤ)	299
スピードメーター	102
スペック (車両仕様)	456
スモールランプ (車幅灯)	202
スイッチ	202
電球 (バルブ) の交換	380
ワット数	460
スライドドア	121
イージークローザー	123
ドアガラス	176
半ドア警告メッセージ	120
パワースライドドア	122
ロックレバー	121
スローブユニット	141
収納	145, 166
使用前の準備	147
清掃	168
セット	152
耐荷重	143
スローブを使用する前に	147
車いすのタイヤ空気圧	143
室内レイアウト	142
重量	143
乗車可能な車いす	143
乗車スペースの確保	149

せ

清掃	344, 348
アルミホイール	344
エアコンフィルター	364
外装	344
車いす用ベルト類	168
シートベルト	349
スロープユニット	168
内装	348
制動灯	
電球（バルブ）の交換	385
セカンダリーコリジョン	
ブレーキ	291
積算距離計（オドメーター）	102
機能	102
表示切りかえボタン	103
セキュリティインジケーター	95
センサー	
後側方レーダ	224
前方カメラ	224
前方レーダー	224
ライトセンサー	205
洗車	344
前照灯（ヘッドランプ）	202
スイッチ	202
電球（バルブ）	
の交換	378, 385
ライトセンサー	205
ランプ消し忘れ警告ブザー	205
ランプ消し忘れ防止機能	205
ワット数	460

そ

速度計（スピードメーター）	102
---------------------	-----

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	200
電球（バルブ）	
の交換	379, 381, 382
方向指示レバー	200
ワット数	460
タイヤ	359
空気圧	362, 459
交換	428
締め付けトルク	436
点検	359
パンクしたときは	416, 428
ホイールサイズ	459
ローテーション	
（位置交換）	359
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	452
タイヤチェーン	299

ち

チェーン（タイヤチェーン）	299
チャイルドシート	47
ISOFIX パーでの取り付け	62
シートベルトでの固定	60
選択方法	47
チャイルドプロテクター	119
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	201
操作	201
パーキングブレーキ未解除	
警告灯	402
未解除走行時警告ブザー	405
メンテナンスデータ	458

つ

ツール（工具）..... 417, 429

て

定期点検整備記録簿..... 352

ディスプレイ

エネルギーモニター 110

トリップインフォメーション ... 102

手入れ..... 344, 348

アルミホイール 344

外装 344

シートベルト 349

内装 348

テールランプ（尾灯）..... 202

スイッチ 202

電球（バルブ）の交換..... 385

デッキアンダートレイ 321

デッキフック 324

デッキボード 321

デフォッガー（リヤウインドウ

デフォッガー）..... 306

電気モーター 86

電球（バルブ）

交換要領（外装バルブ）..... 376

ワット数..... 460

点検基準値

（メンテナンスデータ）..... 456

天井サーキュレーター 308

電池交換（キー）..... 370

と

ドア 118

チャイルドプロテクター 119

ドアガラス 176

ドアロックスイッチ 119

半ドア警告メッセージ 120

半ドア走行時警告ブザー 120

ロックレバー 119

ワイヤレスリモコン 118

盗難防止装置

イモビライザーシステム 95

時計 339

トップテザーアンカー..... 63

トノカバー 322

Toyota Safety Sense 222

トラクションコントロール

（TRC）..... 290

トランスミッション 197

操作 197

メンテナンスデータ 458

トリップインフォメーション 102

トリップメーター 102

機能 102

表示切りかえボタン 103

な

内装

収納装備 318

手入れ 348

「ナノイー X」..... 310

に

荷物

積むときの注意 189

ぬ

ぬかるみにはまった (スタックした).....	452
----------------------------	-----

ね

燃費	
瞬間燃費.....	106
平均燃費.....	106
燃料.....	456
種類.....	456
燃料残量警告灯.....	403
燃料補給.....	216
容量.....	456
燃料計.....	102
燃料補給.....	216
燃料補給のしかた.....	216
燃料冷却システム	
LPG 表示灯.....	403
作動について.....	219, 311
燃料補給について.....	219

は

パーキングブレーキ.....	201
操作.....	201
パーキングブレーキ未解除	
警告灯.....	402
未解除走行時警告ブザー.....	405
メンテナンスデータ.....	458
パーキングサポートブレーキ (PKSB).....	281
前後方静止物.....	287

パーソナルランプ.....	316
操作.....	316
ワット数.....	460
排気ガス.....	45
ハイビーム (ヘッドランプ).....	203
オートマチックハイビーム.....	207
スイッチ.....	203
電球 (バルブ) の交換.....	378
ワット数.....	460
ハイブリッドシステム	
EV ドライブモード.....	195
運転のアドバイス.....	297
オーバーヒート.....	447
回生ブレーキ.....	87
ガス欠になったとき.....	92
緊急時の停止方法.....	392
緊急停止システム.....	91
駆動用電池冷却用吸入口.....	91
警告メッセージ.....	92
高電圧部位.....	90
サービスプラグ.....	93
事故が発生したとき.....	93
始動できないときは.....	439
始動方法.....	190
車両接近通報装置.....	87
充電.....	88
注意.....	90
特徴.....	86
特有の音と振動.....	89
パワー (イグニッション)	
スイッチ.....	190
補機バッテリーがあがった.....	440
メンテナンス・	
修理・廃車するとき.....	89

ハイブリッドシステム	
インジケーター	104
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換	385
ハザードランプ（非常点滅灯） ..	389
スイッチ	389
電球（バルブ）	
の交換	379, 381
ワット数	460
挟み込み防止機能	
スライドドア	124
パワーウインドウ	177
発炎筒	390
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	382
ワット数	460
バックドア	132
発進遅れ告知機能	263
バッテリー（駆動用電池）	90
警告メッセージ	407
充電について	88
搭載位置	90
冷却用吸入口	91
バッテリー（補機バッテリー）	
搭載位置	355
補機バッテリーがあがった ..	440
補機バッテリーを	
交換するとき	443
パニティ（化粧用）ミラー	325
バルブ（電球）	
交換要領（外装バルブ）	376
ワット数	460

パワーウインドウ	176
ウインドウロックスイッチ ...	176
閉めることができない	
ときは	177
操作	176
挟み込み防止機能	177
巻き込み防止機能	177
パワーコントロールユニット	90
パワースイッチ	
（パワースイッチ）	190
パワー（イグニッション）	
スイッチ	190
パワーステアリング	290
機能	290
警告灯	403
パワースライドドア	121
操作	121
挟み込み防止機能	124
パンクした	416, 428
番号灯	
（ライセンスプレートランプ） ..	202
スイッチ	202
電球（バルブ）の交換	384
ワット数	460
ハンドル	
（ステアリングホイール）	171
位置調整	171
スイッチ	103

ひ

ビークルスタビリティ	
コントロール (VSC)	290
ヒーター	
オートエアコン	304
シートヒーター	313
前方カメラ	227
ミラーヒーター	306
レーダー専用カバー	225
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	389
スイッチ	389
電球 (バルブ)	
の交換	379, 381
ワット数	460
尾灯 (テールランプ)	202
スイッチ	202
電球 (バルブ) の交換	385
ヒューズ	373
表示灯	100
日よけ (サンバイザー)	325
ヒルスタートアシスト	
コントロール	290

ふ

ブースターケーブルの	
つなぎ方	440
ブザー	
LDA (レーンディパーチャー	
アラート)	404
休憩提案機能 (LDA)	246
クリアランスソナー	280, 404
高水温	403
シートベルト非着用	403
車線逸脱警報機能 (LDA)	245
衝突警報 (PCS)	233
手放し運転警告 (LDA)	248
手放し運転警告 (PDA)	257
パーキングブレーキ	
未解除走行時	405
発進遅れ告知機能	263
パワーステアリング	403
半ドア走行時	120
PCS (プリクラッシュ	
セーフティ)	404
PDA (プロアクティブ	
ドライビングアシスト)	404
ブレーキ	402
油圧	402
ランプ消し忘れ	205
リバース	198
フック	
けん引フック	398
デッキフック	324
フロアマット固定フック	28
フューエルメーター (燃料計)	102
フューエルリッド	
(燃料補給口)	216

冬の前の準備（寒冷時の運転）...	299
冬用タイヤ	299
ブラインドスポットモニター （BSM）.....	265
プリクラッシュセーフティ （PCS）.....	232
機能	232
PCS 警告灯.....	404
ブレーキ	
回生ブレーキ	87
緊急ブレーキシグナル.....	291
警告ブザー	402
パーキングブレーキ	201
ブレーキ警告灯	402
メンテナンスデータ	458
ブレーキアシスト.....	290
ABS & ブレーキアシスト 警告灯.....	403
機能	290
ブレーキ付近からキーキー音が 聞こえる	185
ブレーキフルード.....	458
プロアクティブドライビング アシスト（PDA）.....	251
フロアマット	28
フロントシート.....	136
正しい運転姿勢	30
調整	136
手入れ.....	348
ヘッドレスト	138
フロント方向指示灯	200
電球（バルブ）の交換.....	379
方向指示レバー	200
ワット数.....	460

へ

平均燃費.....	106
ヘッドランプ	202
スイッチ	202
電球（バルブ） の交換	378, 385
ライトセンサー.....	205
ランプ消し忘れ警告ブザー	205
ランプ消し忘れ防止機能	205
ワット数	460
ヘッドレスト.....	138

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）.....	428
メンテナンスデータ	459
方向指示灯.....	200
電球（バルブ） の交換	379, 381, 382
方向指示レバー.....	200
ワット数	460
補機バッテリー	
補機バッテリーが あがったときは.....	440
補機バッテリーについて	355
ホーン（警音器）.....	171
保証	12
ボトルホルダー	320
ボンネット.....	354
開け方	354

ま

前側固定ベルト.....	159
マルチインフォメーション ディスプレイ	105

み

ミラー	
アウターミラー	174
インナーミラー	173
バニティミラー	325
ミラーヒーター	306

め

メーター（計器類）.....	102
計器類.....	102
警告灯.....	98
照度調整.....	103
表示灯.....	100
マルチインフォメーション ディスプレイ	105
メンテナンスデータ	456

も

モーター（電気モーター）.....	86
モーターでの走行 （EV ドライブモード）	195

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	461
雪道ですべて動けない （スタックした）.....	452
油脂類	456

ら

ライセンスプレートランプ （番号灯）.....	202
スイッチ	202
電球（バルブ）の交換	384
ワット数	460
ラゲージルーム	
デッキアンダートレイ	321
デッキフック	324
デッキボード	321
ラジエーター	
オーバーヒート.....	447
メンテナンスデータ	458
ランプ	
室内灯	315
電球（バルブ）の交換	376
パーソナルランプ.....	316
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	389
ヘッドランプ（前照灯）.....	202
方向指示灯（ターンシグナル ランプ/ウインカー）.....	200
ライトセンサー.....	205
ランプ消し忘れ警告ブザー	205
ランプ消し忘れ防止機能	205
ルームランプ	316
ワット数	460
ランプ消し忘れ警告ブザー.....	205
ランプ消し忘れ防止機能.....	205

り

リヤウインドウデフォッガー	
スイッチ	306
リヤ方向指示灯	200
電球（バルブ）の交換	382
方向指示レバー	200
ワット数	460
リヤワイパー	214
リルーター	168

る

ルームミラー	
（インナーミラー）	173
ルームランプ（室内灯）	315
操作	316
ワット数	460

れ

レーンディパーチャーアラート	
（LDA）	245
冷却水	458
高水温警告灯	403
冬の前の準備	299
メンテナンスデータ	458
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート	447
メンテナンスデータ	458
レバー	
シフト	197
燃料補給口	217
ハンドル位置調整レバー	171
方向指示	200
ボンネット解除	354
ロック（レバー）	119

ろ

ロードサインアシスト（RSA）	258
ロック	
ウインドウロック	176
シフトロック	198
チャイルドプロテクター	119
ドア	118
ワイヤレスリモコン	118

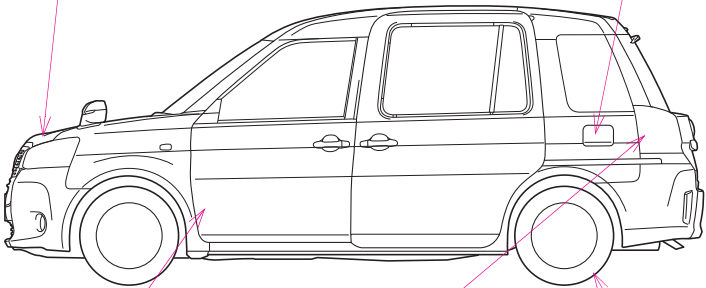
わ

ワイパー &	
ウォッシャー	211, 214
ワイパーブレード（寒冷地用）	300
ワイヤレスリモコン	116
作動の合図	118
操作	118
電池の交換	370
ワックス	344
ワット数	460

オートガススタンドでの情報

燃料補給や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	燃料補給口
P. 354	P. 217



IOPST012a

ボンネット解除レバー	燃料補給口オープナー	タイヤ空気圧
P. 354	P. 217	P. 459

燃料の容量（参考値）	58L※ ¹
燃料の種類	LP オートガス ※ ² ※ ³
タイヤが冷えている ときの空気圧	P. 459
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時 3.4L オイルとフィルター交換時 3.7L
エンジンオイルの種類	P. 456

※¹ 保安基準により、タンク容量の 80%が最大補給（充てん）量となります。

※² プロパン率（燃料のプロパン割合）冬季：70%以下、夏季：30%以下の
オートガスを補給してください。

※³ プロパン率（燃料のプロパン割合）100% のオートガスも使用できます。

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証） をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

